第2章
法人報告
事業報告

2023年度けいじゅヘルスケアシステム方針

継続的基本方針

1. 患者・利用者に信頼される医療機関・介護施設となる
2. 地域社会から必要とされる医療機関・介護施設となる
3. 経営の健全性を維持する
4. 恵寿フィロソフィの周知・浸透

単年度方針

新型コロナウイルス（COVID-19）感染蔓延、ロシアによるウクライナ侵略とその後の世界経済の混乱、さらには、わが国を取り巻くロシア、北朝鮮、中国の脅威の顕在化など、社会は大きく変わり、国民の価値観も大きく変化する。それに対して、われわれの2022年度は仕組みを変えることに注力した。

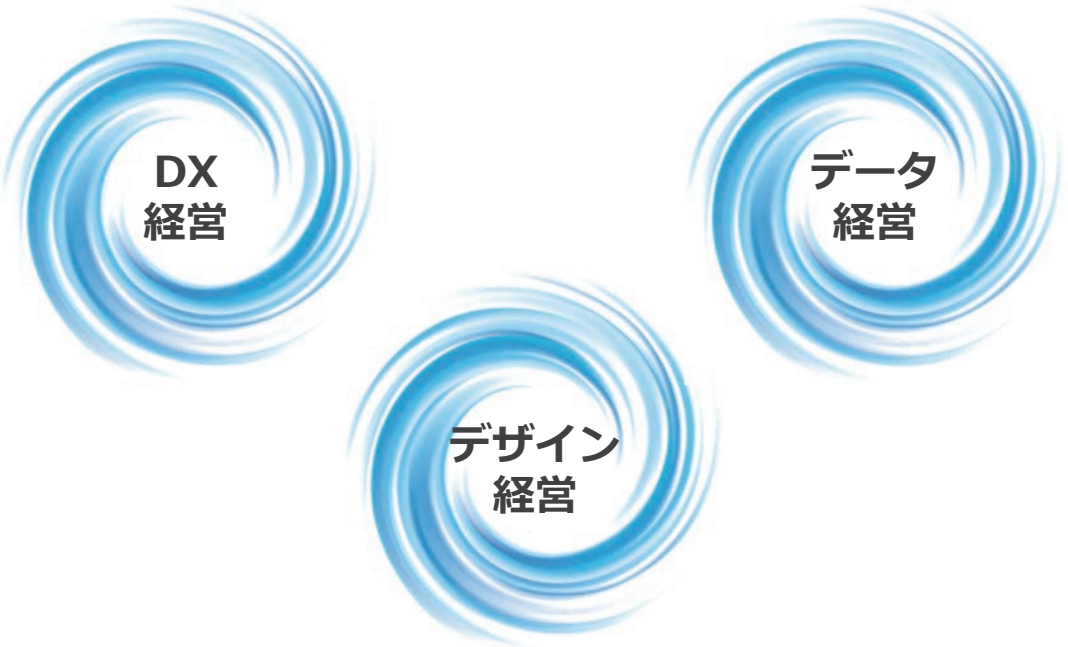
変化に対してその流れに身を任せるだけでいいのか。変化に抗して現状を維持しているだけでいいのか。人間は進歩か退歩かのいずれかであって、その中間はない。現状維持と思うのは、実は退歩している証拠である。

進歩のために五感を研ぎ澄ませて社会の変化を感じよう、いいことに感動し、正しくないことに憤りを覚えよう。

2023年度方針を

渦の中心になれ！

とする。主体的に変化を引き起こそう。自らを渦の真ん中におこう。



TQM発表大会（董仙会）

前期 第26回 2023年9月9日　七尾市文化ホール

セッション1　DX 経営、データ経営、デザイン経営

部署		テーマ
	本院 リハビリテーションセンター	病棟セルケア方式の導入
1位	本院 看護部（看護部管理室、本館4階西、本館5階東西、本館6階東西、5病棟3階、5病棟4階、5病棟5階）	多職種協働セルケア方式の導入～まずはチャット文化を定着させよう！～
	本部 財務部 資財課、経理課	スキャナ保存のルール作成及び実行
	恵寿金沢病院 臨床栄養課	QRコードを活用した簡単な調理動画の紹介
	恵寿みおや	サービスの見える化とモチベーションアップを目指す

セッション2　DX 経営、データ経営、デザイン経営、顧客満足度100%

部署		テーマ
	本院 内視鏡課	内視鏡業務におけるiPhone 活用術
	本院 医事課、管理課	施設基準一覧の見える化
1位	本院 事務部 サービス課、本部 企画課	入院予約説明の時間短縮を目指す（動画作成とその効果）
	本院 臨床栄養課	二次健診の栄養指導を実施する
	恵寿金沢病院 看護部 2 階病棟、内科、薬剤課	末梢血幹細胞移植のパス化を図り、患者満足度の向上と医療の効率化につなげる
	本院 健康管理センター	タブレット端末を用いたすき間時間の有効活用

セッション3　増収、増益、生産性増

部署		テーマ
	恵寿金沢病院 放射線課、人間ドックセンター管理課、臨床検査課	女性を応援！トモシンセシス導入を機に女性健診のムーブメントを起こす
1位	本院 医療秘書課	地域医療貢献に繋がる診療情報提供書代行
	本院 臨床工学センター 臨床工学課	透析療法における感染性医療材料の廃棄方法変更による経費・業務・災害対策の見直し
	恵寿金沢病院 医事課、地域連携課、看護部、リハビリテーション科	入院から退院まで各種加算の見える化と算定アップ
	本部 情報部 情報管理課	各種問い合わせやトラブルに迅速に対応するために

後期 第27回 ※能登半島地震の影響により開催を延期し、2024年4月26日、30日、5月1日にオンラインで開催

セッション1　増収、増益、生産性増、顧客満足度100%

部署	テーマ
本院 臨床検査課	病理検査の収益向上に向けて
けいじゅ金沢訪問看護ステーション	多職種と連携して、新規利用者を増やす取り組みについて
本部 総務部 総務課 車両係	公用車にかかる経費削減に向けた取り組み
本院 入退院管理センター 医療福祉相談課	入退院支援システムの有効活用～統計機能を活用した出口戦略強化～
ほのぼの	あたま・あしこし元気アップ教室への取り組み～中能登町(行政)と連携した新事業～

セッション2　顧客満足度100%、職員満足度100%、DX経営

部署	テーマ
恵寿金沢病院 看護部外来	動画教材を活用した外来待ち時間の有効活用～患者満足度向上を目指して～
ケアマネステーション恵寿	介護DX～エビデンスに基づく多職種連携～
本院 感染制御センター、医療安全管理センター	ポジティブに医療安全＆感染防止対策へ取り組める～教育体制構築～
本院 放射線課	読影補助業務でのDX推進～チャット・RPA活用～
和光苑	介護ロボットの導入・運用～スマート介護士を目指して～
本部 総務部 総務課	新勤怠システム導入に向けての事前準備について
恵寿鳩ヶ丘	鳩ヶ丘におけるDXへの取り組み

セッション3　データ経営、デザイン経営

部署	テーマ
本院 入退院管理センター 地域連携課	紹介データベースの進化とその活用方法について
本院 薬剤管理センター 薬剤課	持参薬運用のしくみ改革No.2　−チャット機能を使用した持参薬の代行入力−
本院 看護部（手術室、HCU、3-2F、血液浄化、訪問看護、外来）、サービス課	動画を活用した入院時業務短縮の検討
鶴友苑	利用者目線でサービスを見える化し、増収をねらう
けいじゅ一本杉	地域資源を活用した多様なサービス向上を目指す

新聞掲載（董仙会）

日付	内容	施設	掲載媒体
2023.4.4	新任式/中国人看護師も仲間に	董仙会	北國新聞/北陸中日新聞
2023.4.6	在宅施設をフローリングに	ほのぼの	北國新聞
2023.4.26	職員がスマホで電子カルテ確認/カルテ管理や通話スマホで対応	恵寿総合病院	北國新聞/読売新聞
2023.5.4	一本杉でイベント/介護相談などおまかせ	董仙会	北國新聞/北陸中日新聞
2023.5.20	無菌病床４床増加	恵寿総合病院	北國新聞
2023.5.21	病院の未来　介護も予防も	恵寿総合病院	読売新聞
2023.6.2	訪問介護施設が移転　七尾・董仙会	董仙会	北國新聞
2023.6.3	訪問系サービス新拠点　けいじゅがケアステーション	董仙会	北陸中日新聞
2023.6.3	体操で脳や足腰鍛え　中能登の福祉施設	董仙会	北國新聞
2023.6.4	介護予防事業　専門職に委託	董仙会	北陸中日新聞
2023.6.10	膵臓がん専門検診　早期発見２例実績　本体でなくサインに着目	恵寿総合病院	北國新聞
2023.7.4	職員44人に辞令交付	董仙会	北國新聞
2023.7.8	七夕飾りと記念撮影	恵寿総合病院	北國新聞
2023.7.16	地震で出火想定訓練　七尾・けいじゅ一本杉	董仙会	北國新聞
2023.7.19	「足」の健康学ぶ　田鶴浜高で出前授業	恵寿総合病院	北國新聞
2023.7.23	「Foot活」出前授業	恵寿総合病院	北陸中日新聞
2023.8.19	医療オンラインツアー　恵寿総合病院　羽咋高生に	恵寿総合病院	北國新聞
2023.8.23	医療の仕事は？　羽咋高生が学ぶ	恵寿総合病院	北陸中日新聞
2023.8.23	かかりつけ医の紹介状必須　県内15病院指定	恵寿総合病院 恵寿金沢病院	北國新聞
2023.8.24	「紹介重点」15病院指定	恵寿総合病院 恵寿金沢病院	北陸中日新聞
2023.8.26	「元気教室」9人修了	董仙会	北國新聞
2023.9.1	きょうから漢方外来	恵寿総合病院	北國新聞
2023.9.7	院内救命士が救急車で研修	恵寿総合病院	北國新聞
2023.9.8	救急救命士が連携強化	恵寿総合病院	北陸中日新聞
2023.9.26	介護技能の習得へ　初任者研修開講式	董仙会 / 徳充会	北國新聞
2023.9.27	介護職初任者が研修	董仙会 / 徳充会	北陸中日新聞
2023.10.2	出産遭遇　知識や技術は	恵寿総合病院	北陸中日新聞
2023.10.5	たん吸引など研修	董仙会	北國新聞
2023.10.12	遠隔分娩監視20日から	恵寿総合病院	北國新聞
2023.10.25	臓器移植に理解を	恵寿総合病院	北國新聞
2023.10.26	医療ルネサンス　オンラインで支える	恵寿総合病院	読売新聞
2023.11.7	介護の労災防止へ　七尾で動画撮影	董仙会	北國新聞
2023.11.9	歩き方の改善図る　七尾で出前授業	恵寿総合病院	北國新聞
2023.11.14	労災ない介護現場　七尾の施設で啓発動画	董仙会	北陸中日新聞
2023.11.15	糖尿病　啓発の青	恵寿総合病院	北國新聞
2023.11.25	百歳　瀬川冨子さん	恵寿鳩ヶ丘	北國新聞
2023.11.28	受講生、介護へ誓い　恵寿病院で修了式	董仙会	北國新聞
2023.12.3	北窓　ローレルハイツ恵寿イルミネーション	董仙会 / 徳充会	北國新聞
2023.12.20	医療介護の情報共有考える	恵寿総合病院	北國新聞
2023.12.24	小規模居宅介護事業所が年内閉鎖　七尾・一本杉	董仙会	北國新聞
2023.12.26	一本杉の介護事業所「けいじゅに別れ」 七尾で閉所式	董仙会	北國新聞

日付	内容	施設	掲載媒体
2023.12.27	七尾の小規模介護事業所 「けいじゅ一本杉」機能集約で年内閉鎖	董仙会	北陸中日新聞
2024.1.3	自衛隊給水車に長蛇の列　七尾	恵寿総合病院	北陸中日新聞
2024.1.4	地震の中で産声　小さな手希望の光に	恵寿総合病院	北國新聞
2024.1.5	不安の中　新たな命　医師ら一丸「よくぞ元気に」	恵寿総合病院	北陸中日新聞
2024.1.5	120人透析できず、妊婦8人受け入れ　能登の医師「支援継続を」	恵寿総合病院	朝日新聞
2024.1.5	医療者もほぼ全員被災	恵寿総合病院	朝日新聞
2024.1.8	恵寿総合病院に善意1000万超	恵寿総合病院	北國新聞
2024.1.9	「命守れ」きれいなトイレ、本県の森野さんら救援活動	恵寿総合病院	山形新聞
2024.1.10	七尾の被災病院に希望の産声	恵寿総合病院	読売新聞
2024.1.11	恵寿総合病院　免震構造採用で医療継続に	恵寿総合病院	日刊建設工業新聞
2024.1.11	妊婦・赤ちゃんに支援を	恵寿総合病院	日本経済新聞
2024.1.13	炊き出し温かく/熊本の慈恵病院　七尾で炊き出し	恵寿総合病院	北國新聞/北陸中日新聞
2024.1.17	妊産婦や乳幼児の避難生活、想定されるリスクと安全に過ごす備え	恵寿総合病院	北陸中日新聞
2024.1.19	断水　透析患者一時遠方へ	恵寿総合病院	読売新聞
2024.1.26	医療、人手・水確保に汗	恵寿総合病院	日本経済新聞
2024.2.2	医療を継続できたのは「免震構造のおかげ」	恵寿総合病院	北陸中日新聞
2024.2.2	妊産婦　医師ら懸命サポート	恵寿総合病院	読売新聞
2024.2.3	AIで医師業務効率化	恵寿総合病院	北國新聞
2024.2.14	病院再建は恵寿参考に　視察の知事/職員疲弊の医療現場確認	恵寿総合病院	北國新聞/北陸中日新聞
2024.2.16	免振化で被害なし、耐震化は被害　明暗分かれた建物	恵寿総合病院	読売新聞
2024.2.22	アシストスーツ　七尾・董仙会に	董仙会	北陸中日新聞
2024.2.24	アシストスーツで介護の負担軽減	董仙会	北國新聞
2024.2.26	宮城や福岡の看護師アロマセラピー/アロマ研究団体　医療者に癒し	恵寿総合病院	北國新聞/北陸中日新聞
2024.2.27	恵寿総合病院が災害対応モデル　衆院予算委で紹介	恵寿総合病院	北國新聞
2024.2.27	応援メッセージで「桜」 /「復興の桜」を応援で満開に	恵寿総合病院	北國新聞/北陸中日新聞
2024.2.27	社説・災害用の井戸　避難拠点には整備したい	恵寿総合病院	北國新聞
2024.3.2	社説・災害と寄付文化	恵寿総合病院	北國新聞
2024.3.14	患者やスタッフに癒やしの歌と演奏/音楽療法士　癒やしの調べ	恵寿総合病院	北國新聞/北陸中日新聞
2024.3.14	教訓を学び災害に備えを	恵寿総合病院	病院新聞
2024.3.15	仮店舗で復興へ一歩　七尾・高澤ろうそく店	董仙会	北國新聞
2024.3.16	心肺停止の男性救助	恵寿総合病院	北國新聞
2024.3.16	災害医療に想定外なし	恵寿総合病院	日本経済新聞
2024.3.28	激励文5千枚で「桜」	恵寿総合病院	北國新聞
2024.3.30	鳥屋診療所で心療内科	董仙会	北國新聞

新聞掲載（徳充会）

日付	内容	施設	掲載媒体
2023.10.6	一緒に大書	石川県精育園	北陸中日新聞
2023.10.6	穴水高生と書道で交流	石川県精育園	北國新聞
2023.11.15	糖尿病啓発の青　七尾の高齢者施設	ローレルハイツ恵寿	北国新聞
2023.11.18	車いす、アイマスク体験　穴水中で福祉教育	穴水ライフサポートセンター	北国新聞
2023.11.22	障がい者芸術祭　穴水で準備	石川県精育園	北陸中日新聞
2023.11.22	県指定管理　最多15施設が優	石川県精育園	北國新聞
2023.12.3	クリスマス　イルミネーション点灯式	ローレルハイツ恵寿	北國新聞
2023.12.6	穴水の園児らが障害者施設訪問	石川県精育園	北陸中日新聞
2023.12.6	障害者と園児が交流	石川県精育園	北國新聞
2023.12.8	ボールでレク　親睦を深める　穴水・県精育園	石川県精育園	北陸中日新聞
2023.12.21	香箱ガニ施設に寄贈	青山彩光苑リハビリテーションセンター	北国新聞
2023.12.22	香箱ガニ贈り地元に恩返し	青山彩光苑リハビリテーションセンター	北陸中日新聞
2024.2.3	お風呂１ヵ月ぶりの　喜び　白山市社協　穴水に訪問入浴車	穴水ライフサポートセンター	北陸中日新聞
2024.2.6	環境変化に弱い障害者　どう支える	石川県精育園	朝日新聞
2024.3.26	被災障害者　新生活の一歩	石川県精育園	北陸中日新聞

来訪者一覧（董仙会）

日付	見学者	見学内容
2023.4.11	横須賀共済病院 病院長他計7名	DXに関する取り組み、iPhone導入
2023.4.14	順天堂大学 計3名、アイテック 計1名	ICT化について、病院建築
2023.4.18	ときわ会グループ 計7名	DXに関する取り組み
2023.4.25	社会医療法人社団カレスサッポロ 理事長他計4名	DXに関する取り組み
2023.5.18	金沢医療センター 計10名	iPhoneの導入について
2023.5.26	社会医療法人誠光会 計7名	けいじゅヘルスケアシステム
2023.6.8	社会医療法人禎心会 本部長他計8名	DXに関する取り組み
2023.6.9	医療法人社団行陵会 計5名	DXに関する取り組み
2023.6.13	医療法人富田浜病院 理事長他計7名	けいじゅサービスセンター
2023.6.23	医療法人藤仁会 藤村病院 理事長他計6名	けいじゅヘルスケアシステム
2023.7.4	洛和会ヘルスケアシステム 計7名	iPhone導入、健康経営
2023.7.7	日立総合病院 計3名	DXに関する取り組み
2023.7.11	南砺市民病院 院長他計12名	DXに関する取り組み、健康管理センター
2023.7.21	医療法人南労会紀和病院 計8名	けいじゅヘルスケアシステム
2023.7.28	社会医療法人昌林会 安来第一病院 計4名	RPAについて
2023.8.4	第15回全国連携実務者ネットワーク連絡会 計33名	地域連携
2023.8.8	焼津市立総合病院 計7名、梓設計 計1名	病院建築、PFMについて
2023.8.9	一般社団法人日本医療福祉建築協会 計3名	病院建築
2023.8.17	長岡赤十字病院 計8名	HCIについて
2023.8.18	石川県立羽咋高等学校 計9名（オンライン）	医療職の紹介
2023.8.18	三菱商事、エムシーヘルスケアホールディングス	けいじゅヘルスケアシステム
2023.8.24	横浜市立大学 計11名（オンライン）	医療経営合同インターンシップ
2023.8.25	石川県立七尾高等学校 計80名（オンライン）	医療職の紹介
2023.9.1	横浜市立大学 計13名（オンライン）	医療経営合同インターンシップ
2023.9.12	横浜市立大学 計3名	医療経営合同インターンシップ
2023.10.2	医療法人HSR 名嘉村クリニック 計3名	ポケメドについて
2023.10.5	社会医療法人大雄会 総合大雄会病院 統括院長他計15名	カルテコについて
2023.10.6	社会医療法人寿人会 木村病院 計4名	給食システムについて
2023.10.20	VHJ検査部会 計24名（オンライン計13名）	けいじゅヘルスケアシステム
2023.10.31	ともいき会グループ 理事長他計5名	けいじゅヘルスケアシステム
2023.11.2	中部国際医療センター 計4名	DXに関する取り組み
2023.11.7	社会医療法人 駿甲会 甲賀病院 病院長他計7名	DXに関する取り組み
2023.11.13	医療法人大和正信会ふじおか病院 計1名	DXに関する取り組み

日付	見学者	見学内容
2023.11.14	社会医療法人 製鉄記念八幡病院 理事長他計5名	RPAについて
2023.11.28	医療法人社団友愛会　計3名	情報システムについて
2023.11.30	IMSグループ　計7名	給食システムについて
2023.12.12	医療法人　崇徳会 計5名	DXに関する取り組み、RPAについて

来訪者一覧（徳充会）

日付	来訪者	見学内容
2023.5.12	田鶴浜町民生委員	【もみの木苑】窓拭き・除草ボランティア

董仙会中期計画　2021-2023（2021年策定）

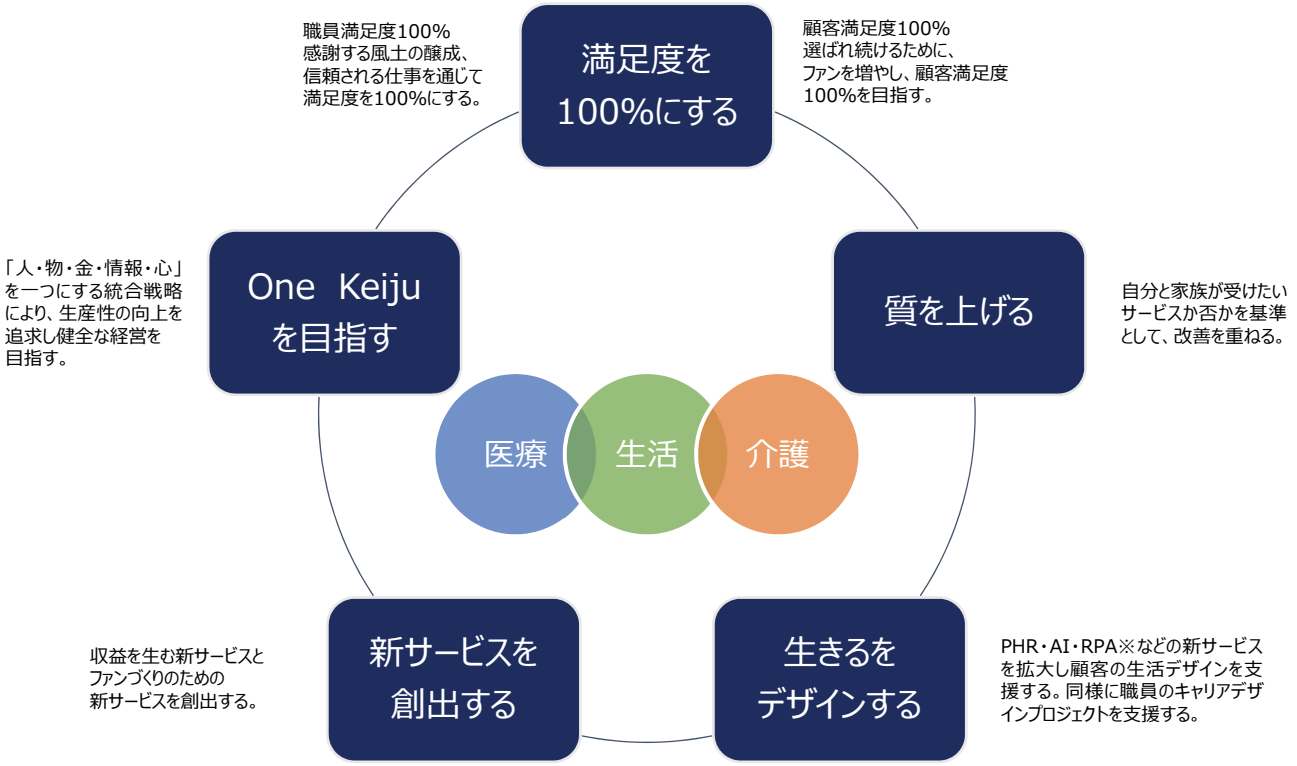
■継続的基本方針

□ 継続的基本方針を達成するための基本戦略

2021-2023中期計画の基本戦略は、従前の戦略を受け継ぎ、更なる成熟を目指し、下記の5施策とする。

- **■ 満足度を100%にする**
- **■ One Keijuを目指す**
- **■ 新サービスを創出する**
- **■ 生きるをデザインする**
- **■ 質を上げる**

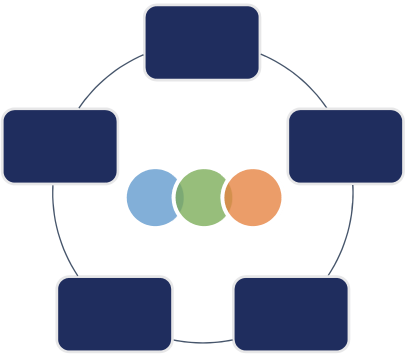
董仙会の職員は、前向きで努力を忘れない資質に恵まれ、真面目である。その資質を活かし、地域と仲間にファンを作ることは、難しいことではない。自分と家族が受けたいサービスか否かを基準として、常に自分の仕事を見直し、昨日より良いサービスを作り続けよう。その時、感謝する風土を醸成し、心温かな職場にしよう。また、ITリテラシーの高さは、非常に自信を持っていただきたい。新サービス創出に向けて、ITリテラシーの高さを武器に、発想の転換を図り工夫を重ねていただきたい。生産性の向上を主眼とし、IT・PHR・AI・RPAなどを積極的に利用し、自分たちが利用したい未来を築いていこう！答えは、自らの心の中にある。



※ PHR*とは、パーソナルヘルスレコード(Personal Health Record)を示す。個人が、自らの生活の質（QOL）維持や向上を目的として、自らの生涯健康情報を収集・保存・活用する仕組み。董仙会ではMDV社の「カルテコ」を導入。

■継続的基本方針を実現するためのSWOT分析

継続的基本方針と、現状の姿（SWOT分析）のギャップを以下に示す。強みを活かし、弱みを補いながら3カ年で目指す将来像に到達することを目標とする。



目指す将来像

【積極戦略】
顧客満足度100%
“恵寿式”地域包括ヘルスケアサービスの完成

【差別化戦略】
未来型新サービスの創出
地域事業者との戦略的な連携・協働

【改善戦略】
職員満足度100%
BSC目標管理と人事評価の連動

【克服戦略】
人材育成
BSC・TQM・ISOの連動による経営の質改善

現状の姿

強み S	弱み W
共通　医療・介護医療・介護の一体的取組み SDGsの明確化 日本で唯一のしくみ、ITの強み 新事業開始スピードの速さ RPAを導入 BCM/BCP	共通　5年後中堅層のリーダー不足 夜勤しない職員増 医師による積極的リクルート不足
本院　発熱外来がある AI問診、PHRを導入している	本院　顧客減少 脳神経領域の戦力低下
金沢　血液内科専門病院 NTTグループとの繋がり 大学病院との連携	金沢　病床数89床のため、採算性増加の難しさ 整形外科・眼科の方向性
介護　産総研、東京藝大など産学との研究可能 ノーリフト介護の浸透 外国人材の導入	介護　介護のやりがい感の醸成が不十分 施設の老朽化
機会 O	**脅威 T**
PHSに代わる連絡ツール（スマホ・5Gなど） 健診新メニュー（フレイル予防、遺伝子検査） 能登総合病院との新たな関係 AI問診、PHRの拡大	目標管理と人事評価における妥当性 職員満足度・くれない族の増加 小松市民病院に血液内科設立

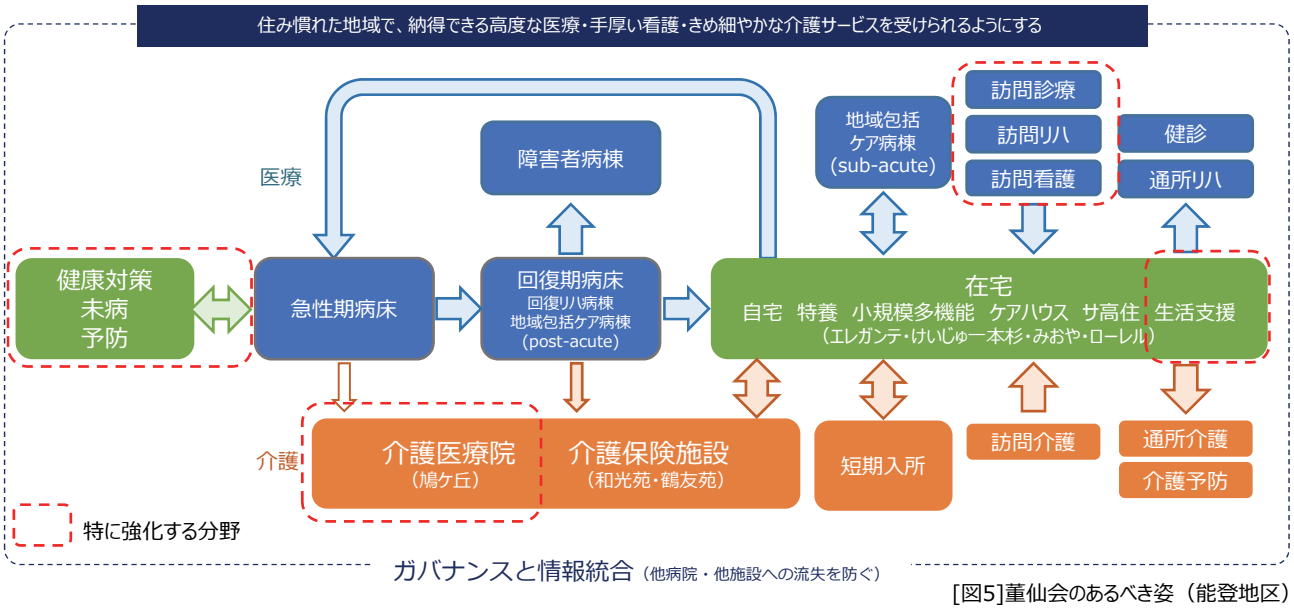
■継続的基本方針を実現するための董仙会のあるべき姿

□ 能登地区方針

[図5]董仙会のあるべき姿の中では、鳩ヶ丘が介護医療院となり、地域ニーズに対応して訪問看護ステーションを設置した。健康対策として未病・予防へ注力することが未来を創る戦略となる。これまで医療療養型施設がなかったため、医療ニーズの高い患者は、他院（浜野西、富来、加藤、北村病院）に転院していた。しかし、これらの病院も介護医療院に転換したため、鳩ヶ丘の果たすべき役割は、重要となった。生活支援事業における新サービスを充実させ、地域の信頼を得ることが肝要である。

医療　介護　生活

董仙会のあるべき姿（能登地区）2023年

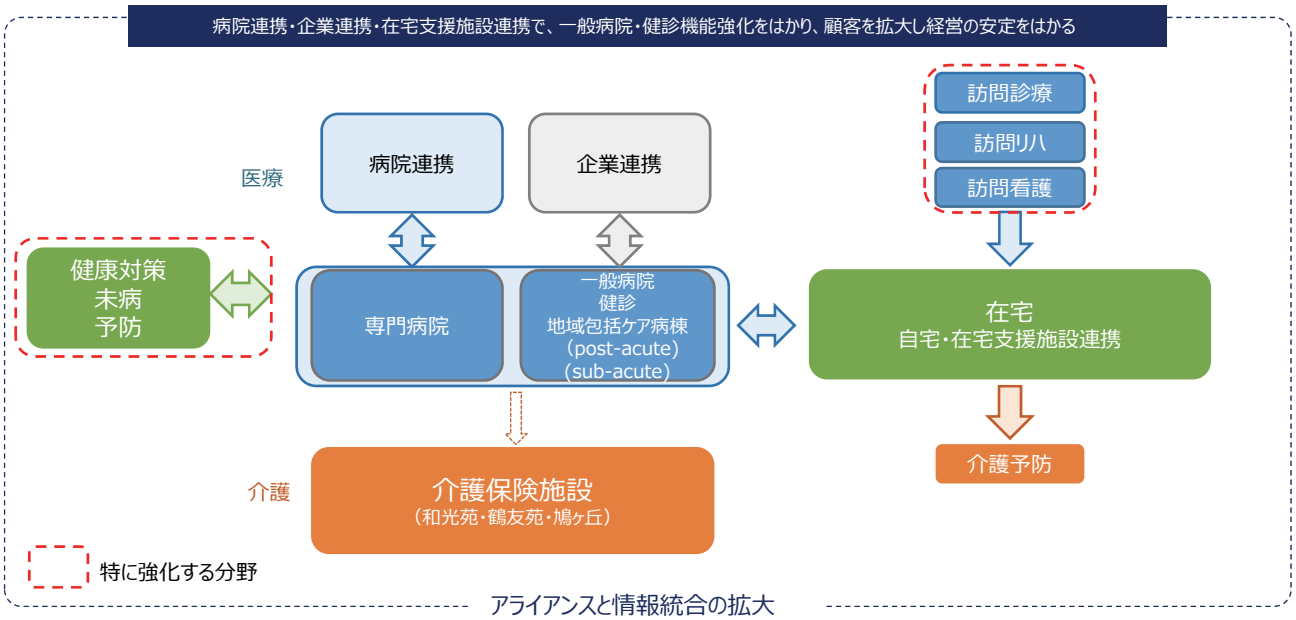


[図5]董仙会のあるべき姿（能登地区）

□ 金沢地区方針

[図6]董仙会のあるべき姿の中では、訪問事業の充実を図る事が大切である。また協力連携する介護施設を明確にし、介護を必要とする高齢者患者にも対応していかねばならない。NTT関係会社の健康を預かる病院として、未病・予防などの健康対策に注力されたい。新金沢病院（89床）における+αの目的を明確にし、経営改善と新病院構想を同時に行い、新築移転に備える事が必須である。

董仙会のあるべき姿（金沢地区）2023年



[図6]董仙会のあるべき姿（金沢地区）

■継続的基本方針を実現するための戦略目標（成功のストーリー）

KGI（重要業績達成指標）は、医業収入151億円とする。

2023年度までに継続的基本方針を達成するための5施策に対する具体的な戦略目標例を示す。

- ■ 満足度を100%にする
- ■ One Keijuを目指す
- ■ 新サービスを創出する
- ■ 生きるをデザインする
- ■ 質を上げる

■ 満足度を100%にする

「介護で働くなら恵寿」、「医療で働くなら恵寿」を完成する

【学習と成長の視点】 外国人実習生の受け入れについて学ぶ。腰痛予防のためのノーリフティング対策を学ぶ。
生涯賃金増となる就業規則を学ぶ。健康経営について学ぶ。

【業務の視点】 「ありがとう」「助かりました」感謝を表す風土を醸成しよう。
元気な挨拶「おはようございます」「こんにちは」で温かな職場を創る。

【顧客の視点】 仲間・顧客の役に立つというやりがい感を創出する。

【財務の視点】 素晴らしい仲間が増え、業務に余裕が生まれ、顧客へのサービスがよりよくなり、評判となる。
職場の雰囲気の良さが恵寿ブランドとして定着する。

■ One Keijuを目指す

人・物・金・情報・心の統合で新金沢病院着工へ

【学習と成長の視点】 各事業、部門の採算性を学ぶ。新金沢病院の構想(サ高住、回復期リハ、緩和ケア)を練る。

【業務の視点】 各事業、部門の統廃合を実施する。新金沢病院基本計画の策定。

【顧客の視点】 新金沢病院基本計画にて、職員のモチベーションを上げる。

【財務の視点】 One Keijuとして収益に貢献する。

人・物・金・情報・心の統合で稼働率を上げる

【学習と成長の視点】 介護施設受入の際、ボトルネックとして、能登総合病院かかりつけ医問題がある。
けいじゅヘルスケアシステムの切れ目のないサービス提供において、支障をきたすことが多々あるため、
このような場合、患者・家族に対し、積極的にかかりつけ医変更依頼を行う。
二人主治医性についての説明のしかたを学ぶ。

【業務の視点】 能登総合病院からの新しい形の紹介を実施。病院・介護施設で介護相談外来を展開する。

【顧客の視点】 けいじゅヘルスケアシステムのサービスに満足していただくため、顧客の願いを汲み取る。
顧客の多様性を知り、新しいサービスを恐れず創り出す。

【財務の視点】 One keijuとして、稼働率を上げる。

■ 新サービスを創出する

董仙会のあるべき姿の定着を目指す（ITリテラシーの強みを活かす）

【学習と成長の視点】ITの強みを最大限に生かせる学習の実施

【業務の視点】　オンライン診療やサテライト外来を構築する。遠隔による診療支援も導入する。AI問診を金沢病院、各クリニックにも導入する。金沢病院にもPHR（カルテコ）を導入する。

【顧客の視点】　医療関係者、患者側の満足度を上げ、稼動率改善につなげる。

【財務の視点】　稼動率改善により、収入増となる。

新しい働き方で生産性を上げる（ITリテラシーの強みを活かす）

【学習と成長の視点】事務・看護業務の作業分解を学習し、RPAに業務を移行する。その過程と効果を学ぶ。介護ロボットの可能性を正しく理解する。

【業務の視点】　RPA、介護ロボットなど文明の利器を活用し、働き方改革を行い、生産性を上げる。

【顧客の視点】　RPA、介護ロボットによる業務代替による負担軽減を目指す。

【財務の視点】　生産性管理の実施。生産性改善により、支出減となる。

■ 生きるをデザインする

生きるためのトータルコーディネーターとなる

1.病後のトータルコーディネート　2.生きるをデザインする　3.未病　4.予防　5.生活支援

【学習と成長の視点】 未来の健康についてアイデアを出し続ける。

【業務の視点】　強みのIT・PHRを活用し、顧客参加の仕組みを作る。

【顧客の視点】　病前病後のトータルコーディネートは、漏れなくダブりなくできているかを確認する。

【財務の視点】　生活・健康・介護・病気　人生の不安を任せられる企業として大きな信頼を得て、顧客増となる。

キャリアデザインを展開し、各部署に3級リーダーを配属する

【学習と成長の視点】 資格要件・業務ラダーの連動について学ぶ。仕事や役職が自らを育てる事を学ぶ。

【業務の視点】　董仙会の未来を築く3級リーダーを育てる。

【顧客の視点】　やりがい感を醸成する。

【財務の視点】　人材確保により、安定経営が可能。

■ 質を上げる

老朽化施設の改修によるハードの質、専門性・安心・安全のサービスの質、レジリエンスを発揮する経営の質向上

【学習と成長の視点】 自分と家族が受けたいサービスか否かを基準として、上質とは何かを学ぶ。質が向上するためにはどうすれば良いかを探し出す。どのようにすれば上質にたどり着くのかを考える。

【業務の視点】　業務の質を上げる。人間の質（人間力）を上げる。

【顧客の視点】　顧客・仲間が心地よさを感じるよう努力を惜しまない。

【財務の視点】　入院・入所・入職希望者が増え、董仙会がさらに成長する。

董仙会本部
事務管理統括部門

董仙会本部

■常務理事　神野 厚美
■理事長補佐　神野 正隆
■本部長　進藤 浩美

■2023年度のトピックス

iPhone520台導入による業務変革（本院先行導入）を企画・実装（期間6か月）

実施内容
① ナースコール対応機能増強
② 内・外線電話・館内放送可能
③ クラウド管理による電話帳
④ モバイル電子カルテ：音声入力も可能
⑤ CT・MRI・エコーなど画像確認可能
⑥ 患者トーク（入退院時自動作成・消去） 職種横断的な業務トークルーム数：320
⑦ Outlook：メール
⑧ Teams：チャット、オンライン会議、共同編集
⑨ Zoom：オンライン会議
⑩ インターネット（一部のみ可能：医師・訪問系職種）
⑪ インカム：場所を選ばず発着信可能

■事業報告

① 中期計画：2021-2023中期計画(継続的基本方針）を検証し、2024-2026中期計画を策定した。単年度方針・BSCとの整合性を高め、実施計画・戦略マップを追加した。BSCシートも記載項目を減らし、進捗管理を追加し、管理のし易さを目指した。

② 人事評価制度：公平な働き方と評価を目指し、検討を開始した。（2024年度より施行予定）

③ 人財育成：キャリアデザインプロジェクトの改定開始。躍動する若手養成をめざし「恵寿MBAコース」を新設。E-learning・集合研修コンテンツの改定に着手。

④ 経営の健全化：本院、金沢病院、各介護事業所の収益改善を検討し、データ経営チームと協働し、ポータル上で部署モニターでの見える化を図った。不採算部門であったベンリー七尾店、小規模多機能型けいじゅ一本杉、恵寿みおやの3施設はクロージングした。

⑤ DXの推進強化：iPhone導入、RPA、ChatGPT×電子カルテを進めた。全職員にチャット文化が定着した。

⑥ 省エネルギー対応：公的評価を受け、対策を講じた。

⑦ 金沢病院新築移転：ヒアリングを実施し、基本計画を策定した（主幹：伊藤喜三郎建築研究所）。

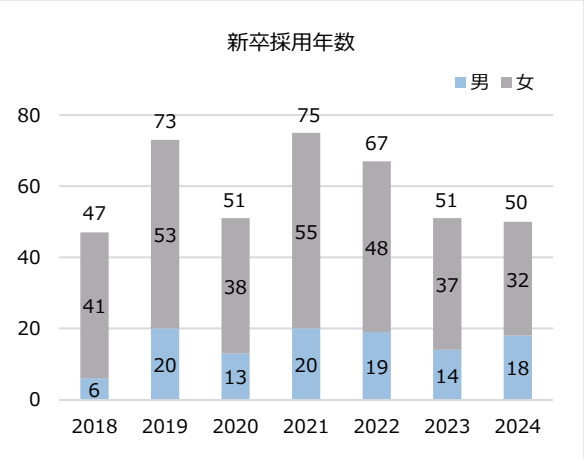
総務部

■部長

松田 久良

■2023年度のトピックス

昨年並みの採用者を確保することができた。



■事業報告

① 新卒採用は早期に対応、事後フォローを充実することで、昨年並みの水準を確保。令和6年能登半島地震以後も辞退者は出なかった。

② 2024年度の医師の時間外規制に対応すべく、新勤怠システム導入検討を開始した。その中で、現行システム内で毎日の時間外を管理する仕組みを構築し、医師の時間外申請をペーパーレス化し、オンライン管理に移行した。

③ DX推進し、医師の雇用条件通知書もペーパーレス化し、添付書類等も電子申請とすることで、本院管理課の業務を総務部に集約して、事務の効率化を図った。

④ 令和6年能登半島地震において、社宅や単身寮も被害を受け、回復修復に計画含めて相応の時間を要した。

⑤ 令和6年能登半島地震後は新規採用者やボランティア応援者の宿泊先確保に苦労する中で、近隣のホテルや民宿を有効活用し、隣県氷見市の住宅も確保し、需要に応えた。

⑥ 新たに開始した職場つみたてNISA制度を1月の新NISA制度開始に伴い、商品内容の充実を図った。

財務部

■部長

安井 智美

■2023年度のトピックス

能登半島地震の発災翌日から始まった物資の搬入は、4日目には15件/日を超えるペースで、飲料水約35t、ご飯・おかゆは約16万食であった。物資の搬入は夜間にも及び、加えて日中は各種物品調達やパートナー企業との連絡に追われた。物資受け入れが本格化する前の主な動きは下記の通り。

日付	実施内容
1月1日	ペットボトル、備蓄食の配布
	5病棟熱風カート内の食事廃棄、食器回収
1月2日	本院各所の被害状況写真撮影
	パートナー企業に順次連絡開始
	（SPD、リネン、ディスポ食器、機器点検など）
	電気暖房器具の調達開始
	給食用ディスポ食器等の確保
	寝具、スクラブ等の確保
	支援物資の受入れ開始
1月3日	コロナ・インフルの検査キット確保
	オムツの在庫確認
	けいじゅ一本杉の電気使用手続き

■事業報告

① 国からの補助金記録（対象は恵寿総合病院の9件、内6件はコロナ関係の補助金）について、会計検査院による実地検査が行われ、指摘事項はなかった。補助金による購入機器の管理手順の見直しを行った。

② 検体検査業務委託の契約期間満了に伴い、提案要項を作成し企業に案内、3社がプレゼンに至った結果、現行委託先に決定した。検査機器更新等のスケジュール調整など各部署との調整を行った。

③ 循環器材料の取引ディーラーが倒産の為、突然の取引停止が発生したが、速やかに次のディーラー選定作業を実施し業務を引き継いだ。

④ 2023年10月1日からインボイス（適格請求書等保存方式）制度が開始、納税に直結する事からより細かい経理処理が求められるため、請求の記載項目確認や受取請求書が適格請求書に該当しない場合の会計処理など慎重に対応を進めた。

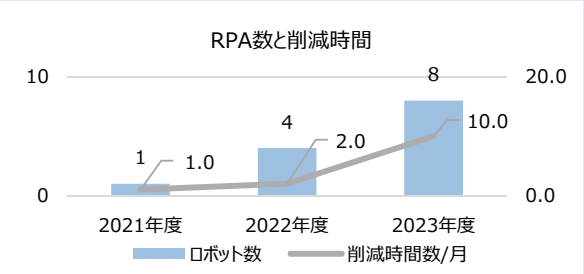
⑤ 法人車両の一括リースに向け、電気自動車を含め車両タイプや台数などの検討を進めていたが、能登半島地震を受け内容を見直すこととした。

⑥ ベンリー七尾店、小規模多機能型居宅介護事業所けいじゅ一本杉、恵寿みおやのクロージング手続きを行った。

財務部 経理課

■課長
河合 隆志

■2023年度のトピックス



■事業報告
① RPAの数を着実に伸ばして業務効率を上げた。
② 10月から開始となったインボイス制度に尽力した。顧問税理士監修のインボイス発行開始。
③ エネルギー使用量（電気使用量）を会議体で共有し、2024年度より全部署モニターにて開示。

財務部 資財課

■課長
延田 宗久

■2023年度のトピックス

災害時でも医療を止めさせない災害時業務

災害時業務内容
① 董仙会、徳充会での必要物資の把握と調達（金沢市、氷見市等）
② 支援物資、調達物資の受入・仕分け・配布
③ 仮病棟への診療材料配送計画、実行

■事業報告
① 通常業務を実施しながら、災害業務を実施した。
② 必要物資を金沢市・氷見市まで行き調達した。
③ 災害業務では、徳充会、シダックスと協力し、全施設へ食料等必要物資を配送した。
④ 5月の病棟再編・1月以降の震災対応時も診療材料や清掃・オムツ配送などが滞らないように計画・実行した。

企画部

■常務理事
神野 厚美

■部長
進藤 浩美

■顧問
神野 彩

■2023年度のトピックス

1/1に発災した能登半島地震に際し、クラウドファンディング「能登半島地震 災害でも医療を止めない！けいじゅヘルスケアシステム」を立ち上げ、活動報告動画を147本投稿した。1/5～3/31のプロジェクト開催期間中集まった2,500件に及ぶ支援メッセージと職員・患者・利用者の感謝メッセージを桜カードに描き、「復興の桜を満開にしよう！」プロジェクトとして、恵寿総合病院1階に5mの巨大パネルにして展示した。

■事業報告
① 4月：恵寿総合病院、恵寿金沢病院ホームページを大幅にリニューアルし、同時に董仙会のホームページを新たに公開した。
② 4月：カラーデザインを担当した恵寿総合病院公式Instagramの開始に伴い、法人全体で行われた研修・行事・イベント内容を「#恵寿総合病院」として担当し投稿した。
③ 6月：連携医療機関の紹介場所である「地域連携ラウンジ」（恵寿総合病院2階）を新設するにあたりトータルデザインを担当した。地域連携課と協働し、連携医療機関約100施設分のリーフレットを作成した。
④ 6月：2022年度業績集（192ページ）を作成した。
⑤ 4月-12月の期間で、35団体358人の病院見学を受け入れた。プレゼン・見学は、DXの取り組み、iPhone導入における活用事例、1患者1IDの情報共有の取り組み、給食システム、BCMなど、多岐にわたった。
⑥ 発災後1/1-3/31で約30施設における非常事態クロノロジーの記載を継続し、情報の集約と共有(Teams)を図り、災害時の初動から対応までの貴重な記録である。(3,286,642字、議事録236本）現在も継続中。

情報部 情報管理課

■本部長　　■部長
進藤 浩美　　小澤 竹夫

■2023年度のトピックス

PHSを廃止、固定電話撤去し、PBXをダウンサイジングして更新し、Phone520台導入できた。

導入・更新 システム一覧	・PHS⇒iPhoneへの切替
	・Newton'sモバイル導入
	・内視鏡レポートシステム導入
	・ケアプランデータ連携システム導入

■事業報告

① iPhoneにNewton'sモバイルを導入し、その一部のiPhoneは病院外から安全にインターネットを行える環境を整備した。iPhoneのアプリ等の管理業務を実施した。

② 現状のナースコールとiPhoneのゲートウエイを見つけ、つなげた。

③ 健診は利用者が自宅で問診を行える環境を整えた。

生活未来部 生活未来課（めぐみ）

■部長　　■常務理事　　■本部長
安井 智美　　神野 厚美　　進藤 浩美

■2023年度のトピックス

めぐみニュース紹介内容
電動車いす・カート、段差昇降用手すり、おむつ支給券
レンタルベッド特集、Foot活サンダル
Foot活サンダル、トイレ処理袋、栄養食品
Foot活サンダル、浴槽手すり、シャワーベンチ
Foot活サンダル、室内用靴、ポータブルトイレ
家族介護用品支給券、レッグウォーマー、歩行器
防災ルームシューズ

■事業報告

① めぐみニュースを通じて、取り組みや取り扱い商品を法人内外の各事業所・職員に周知し、利用促進を図った。

② 業務の効率化とトラブル防止のため、情報共有の方法を見直し、他部署とTeamsを利用した情報共有を開始した。

③ 日計業務のRPAが1体稼働し月5時間の業務時間削減、レセプト業務のRPA1体検証中。

事務管理統括部門
董仙会本部 委員会・プロジェクト

個人情報管理委員会

■委員長
進藤 浩美

■2023年度のトピックス

iPhone導入2規程と申請書	
運用管理規程	遵守事項： セキュリティ上、改造の禁止、ソフトウエア開発導入の禁止、MDM（遠隔管理）の実施 罰則事項
貸出管理規程	遵守事項： 盗難、紛失時の対応、院外持ち出し時の注意事項 罰則事項
院外利用申請書	遵守事項を確認、申請した医師、訪問系職員に利用

■事業報告
① 2023個人情報マネジメントシステムメンバー変更実施。
② NTTデータからの千年カルテの報告を確認。
③ 厚労省のパスワード規定に対応すべく13桁に変更した。
④ 非常勤医師のトークンでのアクセス申請様式を変更した。
⑤ フォームスアンケートでの研修を実施。
⑥ iPhone導入にあたって3規程作成。

広報委員会

■委員長
進藤 浩美

■常務理事
神野 厚美

■2023年度のトピックス

4月に、恵寿総合病院、恵寿金沢病院のホームページを大幅にリニューアルし公開した。新たに、董仙会のホームページも公開した。

ホームページの種類	
けいじゅヘルスケアシステム	恵寿総合病院
社会医療法人董仙会	恵寿金沢病院

■事業報告
① 委員会で集まった情報をもとに、プレスリリースを年間で44回行った。新聞やニュースで取り上げられた情報はメールやTeamsで共有し、法人の活動について情報共有した。
② 広報誌やマンスリーレターの掲載内容について検討・情報共有し、配布先にあわせた広報ができるように活動した。

けいじゅFM委員会

■委員長
安井 智美

■2023年度のトピックス

能登半島地震発災後、応急復旧、そして恒久復旧に移行し、膨大な業務のため、通常の週1回のFM会議では対応できず、復興対策本部にて毎日実施している。
建物に大きな被害を受けた鶴友苑は、石川県医療機関等省エネ投資緊急支援補助金の照明器具LED化を申請していたが、更新計画を凍結し補助金申請を取り下げた。

■事業報告

① 設備の老朽化が進む恵寿金沢病院のGHP（電気設備）の更新完了
② 旧フロンガス使用機器対応の為、デリカのプレハブ冷凍倉庫入れ替え完了

TQM委員会

■委員長
安井 智美

■2023年度のトピックス

テーマ『渦の中心になれ！』 優秀賞は以下の通り。

2023年9月9日（土） 場所：七尾市文化ホール（ハイブリット）	
セッション1	本院 看護部（看護部管理室、本館4階西、本館5階東西、本館6階東西、5病棟3階、5病棟4階、5病棟5階） 多職種協働セルケア方式の導入～まずはチャット文化を定着させよう！～
セッション2	本院 事務部サービス課、本部 企画課 入院予約説明の時間短縮を目指す（動画作成とその効果）
セッション3	本院 医療秘書課 地域医療貢献に繋がる診療情報提供書代行

■事業報告

① 前期発表大会は、七尾市文化ホールを現地会場とし、Zoom中継と合わせたハイブリット開催で実施した。
② 後期発表大会は、1月1日に発生した能登半島地震の影響でTQM活動の中断や会場手配の都合が付かず3月中の実施は見送り、抄録提出の締切案内まで行った。発表大会は4月以降に実施予定である。

福利厚生委員会

■委員長
安井 智美

■2023年度のトピックス

2023年度永年勤続表彰者	
勤続50年	2名
勤続40年	7名
勤続30年	13名
勤続20年	16名
勤続10年	25名

■事業報告

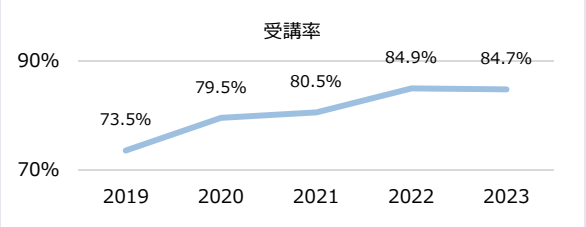
① コロナ禍で4年間中止していた大忘年会を、全職員を対象に「和倉温泉 茶寮の宿 あえの風」で開催した。当直勤務等で参加できない職員を除き294名が参加した。コロナ前開催時の約8割の参加であった。
② 忘年会中止中は施設ごとに実施していた永年勤続者表彰も、忘年会に先立ち同じ会場で開催した。

キャリアデザインプロジェクト

■委員長
松田 久良

■2023年度のトピックス

E-Learning受講率は昨年度ほぼ横ばいで、発災後も維持



■事業報告

① 予定した研修は、発災後も実施できた。
② E-Learning受講率について、第4四半期は発災後低下も懸念されたが、職員の意識も高く、前年比ほぼ同水準を維持することできた。
③ 健康経営の観点から今年度初めて、県歯科医師会の協力で口腔ケアの研修を新入職員フォローアップ研修から実施した。

健康委員会

■委員長
松田 久良

■2023年度のトピックス

ストレスチェック結果：高ストレス割合を減らすことができた。

事業所	受検率（%）		高ストレス割合（%）	
	2023	昨年比	2023	昨年比
本院地区	93.6	2.3	14.5	-2.8
金沢	99.3	6.9	11.6	-1.1
和光苑・一本杉	95.1	-1.5	17.6	-2.4
鳩ケ丘	96.4	2.1	19.8	-3.4
田鶴浜地区	96.5	1.9	12.7	-4.3
中能登地区	100.0	6.0	15.5	-6.0

■事業報告

① けいじゅ健康保険組合（健保）とコラボ、運動習慣定着のため月間「チャレンジ10万歩」を企画し、1回目220人、2回目240人達成した。

② 本年度初めて、健保加入者の健診時のオプション検査半額補助を実施した結果、197人が利用し、乳がん検査トモシンセシスが一番多く63人が利用した。

給食戦略プロジェクト

■リーダー
神野 厚美

■副リーダー
進藤 浩美

■2023年度のトピックス

第1回盛り付けコンテスト：患者・利用者においしく食べていただくために、下記14施設で盛付を競った。エレガンテなぎの浦が優勝。2023年度シダックス社長賞 優秀賞に輝いた。

優勝	エレガンテなぎの浦
2位	和光苑
3位	鶴友苑（エレガンテ田鶴浜、もみの木苑）
参加施設	恵寿総合病院、恵寿金沢病院、恵寿鳩ヶ丘、鶴友苑、ほのぼの、穴水ライフ、石川県精育園、青山彩光苑、ローレルハイツ、ワークセンター田鶴浜

■事業報告

① 食材費高騰に対し、パンの種類・価格、献立サイクルの見直しを実施した。

② 董仙会職員が厨房運営をしているけいじゅ一本杉、恵寿みおや、本院医局に対し、ウエルシュ菌食中毒の衛生検査、指導を実施した。

③ 新イベントとして、インカの目覚め（北海道希少ジャガイモ）提供、盛り付けコンテストを実施した。

病院・施設委員会

■委員長
吉田 茂和

■2023年度のトピックス

委員会で情報共有した主な内容
新型コロナウイルスの5類移行に伴う対応等について
介護ロボット導入（介護DX促進）など
介護職員初任者研修の新規開催
各マイスター研修（Foot活/おむつ/ノーリフト）の実施
県主催「介護技能グランプリ」参加 ー 最優秀賞受賞

■事業報告

① 介護ロボット推進にかかる情報共有
グループ内で新規導入した移乗アシストロボヘルパー「SASUKE」や 新しいシャワー入浴装置「PAO」など新規導入機器についての情報共有を行った。

② 「One Keiju」で 介護技能グランプリ 最優秀賞受賞
全施設で準備・開催した「けいじゅ介護技能グランプリ」を経て県大会へ出場 ー 最優秀賞を受賞した。

クリーン＆5Sプロジェクト

■リーダー
神野 厚美

■副リーダー
進藤 浩美

■2023年度のトピックス

	引越し	5S
本部	ベンリー閉鎖 訪問看護ローレルへ	パートナー企業と草むしり
本院	病棟再編（6西・5-3、4、5階、3-3階）	パソコン、セルカート、ユニバーサルロッカー
金沢		不用品処分
介護	一本杉閉所 みおや閉所	和光苑倉庫 （SPD理解、発注点）

■事業報告

① 4月から12月まで毎月ミーティングを開催。引越しが多く、5Sチャンス年だった。

② オリックスには、引越し後清掃等通常以上依頼し、その他、夏の高温多湿による本院天井カビ、外来の椅子、ピロティの屋根裏清掃も実施いただいた。さらに、1月地震発生以後は、あちこちの水漏れ対応、市のごみ焼却場も被災し、廃棄できないごみ対応にも尽力いただいた。

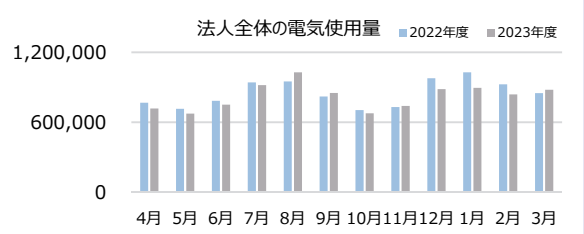
地球温暖化対策推進プロジェクト

■エネルギー管理規格推進者

森下 毅

■2023年度のトピックス

電気使用量は前年度より少なく、CO2発生量は減少傾向



■事業報告

① 恵寿総合病院で省エネ最適化診断を受診した。空調以外の負荷は各月一定で、夏季・冬季の使い方が課題である。CO2濃度は少なく、換気量の削減余地が示唆されたが、感染防止の観点から慎重な検討を要する。

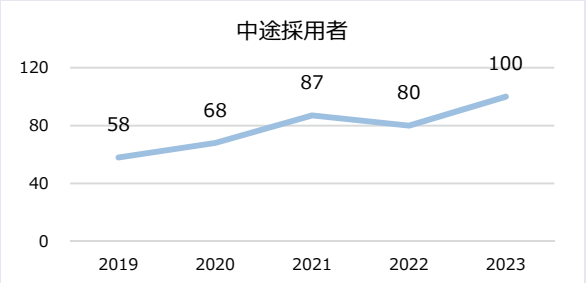
② 電気使用量は、前年度と比べて減少した。地震の影響で事業制限があったこと、閉所事業所があったことが大きな要因と考えられる。

リクルートプロジェクト

■リーダー

松田 久良

■2023年度のトピックス



■事業報告

① 中途採用者のうち紹介会社は17人、職員紹介は５人（看護師3人、准看護師1人、薬剤師1人）だった。

② 外国人は特定技能が1名（ミャンマー人）、ベトナムのダナン大学生インターンシッププロジェクトは、各種要件で手続きが遅れ、大学卒業後、特定技能合格後の採用に変更し、2024年度就職予定である。

③ 障がい者は、2人雇用できた。

BCMプロジェクト

■リーダー

松田 久良

■2023年度のトピックス

2020年9月1日作成の非常事態報告が有効に機能した。

■事業報告

① レッドブック「董仙会BCM」は、2023年度、原子力災害について作成準備をしていたが発災により中断した。

② 安否確認メールが震度5以上の地震で自動送信されるが、度重なる余震では管理に課題があることが判った。

③ Teamsの「非常事態報告」が発災直後からクロノロジー、情報共有ツールとして極めて有効であった。

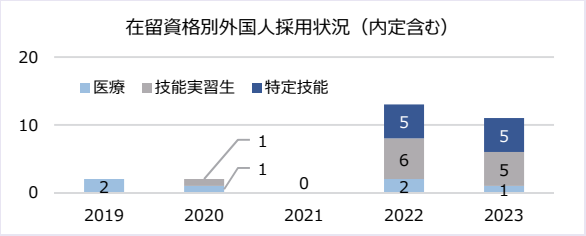
外国人職員受け入れプロジェクト

■リーダー

松田 久良

■2023年度のトピックス

内定は出したが、震災の影響もあり、入国手続き中



■事業報告

① 本年度は外国人の採用について強化。多様化を目指して、インド人の採用も検討し、セミナーに参加した。

② ベトナムダナン大学と連携については、インターンシップから特定技能へ変更し、4名の内定を出した。

③ その他、中国人1名、ミャンマー人1名を採用し、技能実習生インドネシア人5名に内定を出した。

災害統括本部

■理事長　神野 正博
■常務理事　神野 厚美
■本部長　進藤 浩美
■麻酔科医師　神野 彩

■2023年度のトピックス

医療をとめない スピード恵寿

Day.0	16:06震度5強地震発生 16:10震度7地震発生 17:45本館３F災害統括本部 （本院対策本部）設置 3･5病棟の患者を本館に避難移動 上水を井水に切替　救急は継続
Day.1	手術実施 ホームページに災害関連ページ追加 分娩実施
Day.2	和光苑で福祉避難所開設
Day.3	外来再開　予定入院制限なし
Day.4	クラウドファンディング開始
Day.5	血液浄化センター再開
Day.7	5-3（46床）病棟復活 介護施設合同オンライン会議開始
Day.8	健診センター再開 託児所･学童開設　避難所巡回バス開始
Day.10	5病棟すべての病棟復活

■事業報告

① 危機管理統括本部①：2024年元旦16:06に震度5強、16:10に震度7の能登半島地震が発生した。17:45危機管理統括本部を設営し、董仙会･徳充会の全グループ約30施設の災害復旧を一括して開始した。

② 危機管理統括本部②：設営場所は、5候補策定済みだったが、該当場所はライフラインの損傷が激しく、水漏れが相次いだため、免震棟で設営した。決裁権のある経営層が常駐し、迅速な復旧を試みた。全施設のライフラインの把握、建築設備管理者との連絡、応急復旧指示の一元管理を行うことにより、医療継続、患者避難、物品調達、全施設への配布、配送も管理できた。

③ 災害時の課題と効果：事業継続マネジメント(BCM)に基づき、各班設置を準備したが、到着困難な担当者が多かった。災害時の「人員招集、安否確認自動発信メール」では余震による発信回数が多く、管理の難しさが見えた。一方Teamsでの「非常事態報告」（全職員対象）では、情報共有、連絡、記録が場所を選ばず可能なため、大変有効であった。

④ 事業継続：BCMに基づき復旧に努め、頻発する想定外案件は経営層役員で即決し、医療･介護を継続した。

各種タスクフォース

■常務理事　神野 厚美
■理事長補佐　神野 正隆
■本部長　進藤 浩美

■2023年度のトピックス

今年動いたタスクフォース

常務理事	ベンリー、新金沢病院建築
理事長補佐	データ経営、金沢病院収益改善
本部長	カルテコ、RPA
総務部長	BCM、外国人職員受入れ
介護事業 統括部門長	通所創造、介護ロボット導入

■事業報告

① 新金沢病院建築にあたっては、基本設計についてヒヤリングを実施。土地については、地盤調査、金沢エナジーとのガス等引き込み協議中である。

② データ経営･金沢病院収益改善･カルテコ･RPAは定期開催実施し、タスクフォースから次のレベル移行期と考える。

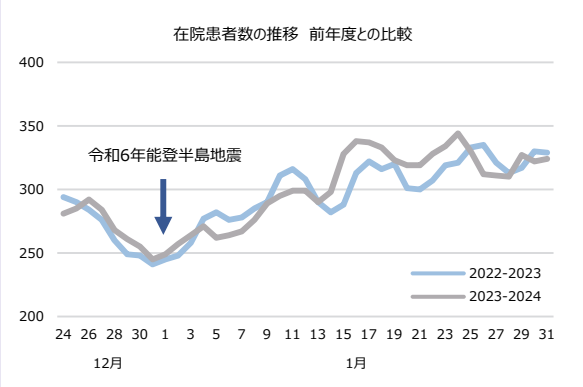
医療事業統括部門
恵寿総合病院

恵寿総合病院

■病院長
鎌田 徹

■2023年度のトピックス

令和6年能登半島地震が発災したが、ほぼ平常通りに医療を継続できた。第10波の新型コロナウイルス感染流行期が震災対応と重なったが、在院患者数は前年度と変わらず、むしろ1月中旬からは前年を上回る結果となった（図）。本館の免震構造・井水・Teams等が有効だった。



■事業報告

① 病院指標等について（↑:前年比上昇、↓:同低下）
重要な入院指標である病床稼働率、平均在院日数、急性期病棟の医療・看護必要度Ⅱはそれぞれ72.9%↓、11.0日↓、29.2%↑であった。その他救急車受入台数、入院患者数、全身麻酔件数は1,964台↑、6,372人↓、836件↓であった。紹介数・逆紹介数はそれぞれ5,545件↑、6,834件↑であった。

② 新たな取組・イベントなどについて
4月：iPhone520台・多職種協働セルケア方式導入、データセンター設立、ホームページをリニューアル。5月：急性期病棟以外は全て5病棟に移動。Instagram開設。6月：地域連携ラウンジ設置。9月：漢方外来新設。11月：わんこいん健診開始。いしかわ介護フェスタ介護技能グランプリ最優秀賞受賞。1月：令和6年能登半島地震発災。医師の時間外申請方法を電子化。

③ 今後に向けて
さらにAI等の活用によるDX推進などにより、業務負担を軽減しながら、生産性を上げ、患者の利便性と地域の評判を上げていくことが目標である。また令和6年能登半島地震による医療需要の変化を鑑み、能登全体の地域医療についても強く関与していかねばならない。

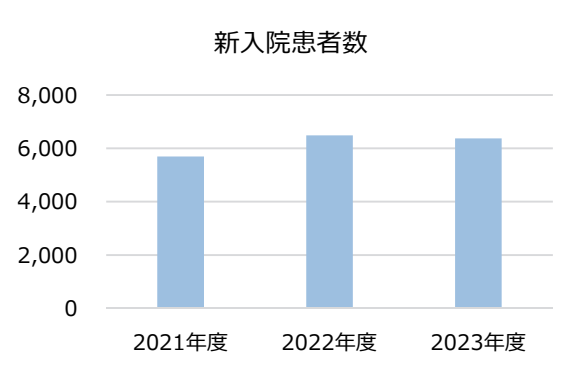
診療部

■診療部長
西澤 永晃

■副部長
能登 正浩（医局長）、金田 朋也、伊達岡 要

■2023年度のトピックス

新入院患者数は過去最多数であった昨年とほぼ同数となった。業務用iPhoneの導入で、情報の伝達や病院スタッフとのコミュニケーションが向上した。1月1日の能登半島地震においては、発災直後からの救急患者の受け入れや手術対応を開始し、1月4日から通常診療を行った。



■事業報告

① 新入院患者数は月間目標の530人を達成した。PFMを徹底することで新規入院の確保ができた。入院収益は期首（4月）は顕著な減少を認めたが、最終的には前年と同等であった。1月も入院患者数を維持したことが奏功した。

② iPhone活用により、スタッフからの報告や伝達などが負担なく行えるようになり、業務効率も向上した。

③ 医師の働き方改革について、各個人の時間外申請を用紙による記入方式から、出退勤システムへの電子的入力方式に変更した。これにより、時間外労働の状況が随時把握できるようになった。

④ 医局を改装し、気持ちよく業務に当たることができるようになった。

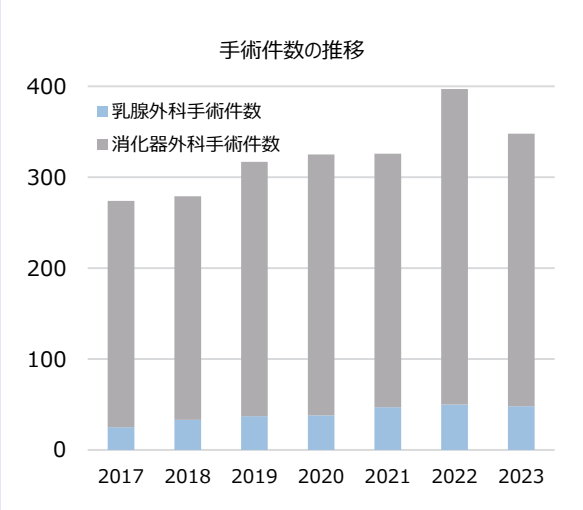
⑤ 1月1日、能登半島地震で多くの被害を受けたが、各科外来診療、救急センター、手術、入院、血液浄化、健診など各診療部門において、診療を止めることなく対応することができた。

消化器外科

■所属医師
能登 正浩、久野 貴広、上野 雄平

■2023年度のトピックス

消化器外科手術件数は昨年に比べ47件減少し、年間300件であった。



■事業報告

① 手術件数は昨年に比べ47件減少した。疾患別で比較すると、大腸がん手術が18件、鼡径ヘルニアの手術が19件と大きく減少した。近隣病院の外科手術件数も減少しているとのことであり、地域の人口減少および震災による影響が色濃く反映された結果ではないかと推察される。

② 手術時間は各疾患で同等か短縮しており、徐々に手術手技の定型化の効果が認められてきたと思われる。

③ 術後在院日数は胃癌・大腸癌でやや増加、胆嚢手術・鼠径ヘルニアでは昨年と変わりなかった。病床利用率に合わせて退院日を調整した結果と思われる。

④ 緊急手術件数は昨年より13件減少し、時間外の手術時間は約40時間減少した。

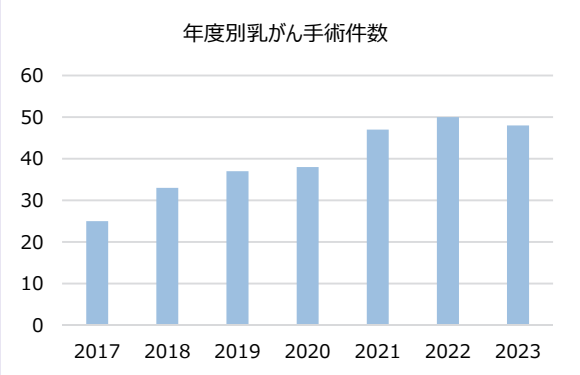
乳腺外科

■所属医師

鎌田 徹、髙井 優輝

■2023年度のトピックス

2016年度から当院外科において乳腺外科を専門科として独立し診療を行ってきた。今年度はマンモグラフィ読影認定医師数も増員した中で診療や乳癌検診業務を行ってきた。近医やクリニックからの乳腺疾患に関するご依頼も増えており、乳癌手術件数は50例前後を維持している。



■事業報告

① 乳癌関連手術症例件数をみると、2023年度は前年度と同様のペースで症例を積み重ねることができていた。しかし、令和6年能登半島地震を境に新患、乳癌2次検診受診者、院内ドック乳癌検診受診者など、明らかに外来受診者数は減少することとなった。年末に手術準備が整っていた患者様は予定通り年明けに手術を施行できたが、その後新規の手術患者はなく、年度末には手術がほぼ行われない状況となった。

② また、定期経過観察中の患者や化学療法中であった患者の中にも、金沢、加賀方面へ1次避難し、そのまま能登北部へ戻ってくる予定が立たないとのことで、当院を離れ他院への紹介となった方が多数見受けられた。

③ ただし、上記の状況の中で（震災後新患数は例年の約70%減）、マンモグラフィー総件数、マンモグラフィー実施人数、トモシンセシス総件数、乳房超音波件数、市町村乳癌検診数の全てにおいて前年度を上回っており、前年度よりさらに集患できていた可能性が伺える。

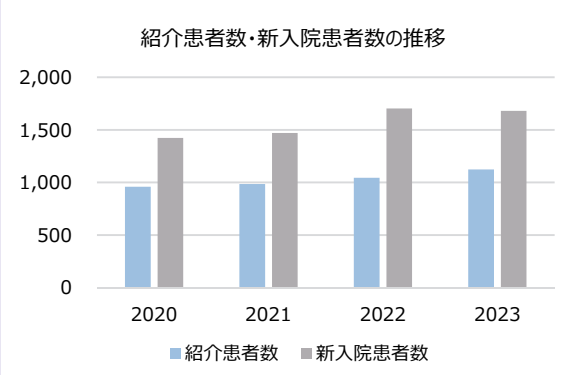
内科

■所属医師

宮本 正治、山﨑 雅英、松岡 寛樹、中川 紀温、熊野 奨、松田 康彦、松田 雄斗、伴 真之佑、桂 康貴

■2023年度のトピックス

2024年元旦の能登半島地震に被災しながらも、通常診療体制を維持、専門性の高い診療を維持発展し、新型コロナウイルス感染症対応の主体も担った。連携医療機関との連絡を密にすることで、紹介・逆紹介患者・紹介入院患者は増加し、延べ外来患者数、新入院患者数も維持できた。



■事業報告

① 2024年元旦、能登半島地震に被災したが「医療を止めない」を合言葉に当日から通常診療体制を維持した。

② 新型コロナ感染症対応として、家庭医療科、循環器内科、消化器内科と協力し、発熱外来の実施、新型コロナ感染患者の入院治療を行った。

③ 宇出津総合病院とオンラインで血液疾患勉強会を実施した。

④ 紹介患者数、逆紹介患者数、紹介入院患者数は2020年度から2023年度にかけて順調に増加した。（紹介患者数:959→985→1,045→1,124、逆紹介患者数:873→1,202→1,357→1,391、紹介入院患者数:326→353→389→383）

⑤ 総外来患者数、新入院患者数も新型コロナ感染による2020年度の落ち込みから回復・維持した。（総外来患者数:29,924→33,939→36,624→31,993、新入院患者数:1,424→1,471→1,704→1,681）

⑥ 一方で急性期病院として入退院支援を充実することにより、延べ入院患者数は減少した。（34,929→36,843→36,249→35,441）

⑦ 同時に金沢大学附属病院、金沢医科大学病院と連携し、専門性の高い診療を維持発展させている。

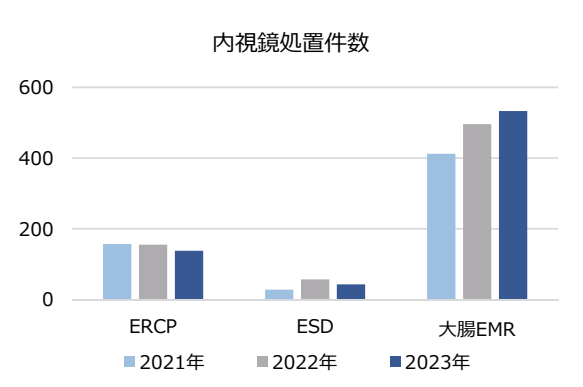
消化器内科

■所属医師

神野 正隆、藤原 秀、杉本 宰甫、大溝 知英

■2023年度のトピックス

内視鏡総件数は震災前までは前年度を上回るペースであったが、震災の影響で最終的には約9,000件と前年より微減、ESD件数は43件、大腸EMR件数は533件となった。また紹介数は707件と前年同等、逆紹介数は1,302件と年々増加しており、特に逆紹介に注力している。



■事業報告

① 健診における内視鏡検査のニーズに応え、受入れ件数を増加させ、件数は年々右肩上がりである。また当日内視鏡も検査数制限を設けず、検査数増加を図っている。1～2月は震災の影響で内視鏡検査・処置共にキャンセルもあり件数が減った。最終的に総件数は8,980件と前年より微減で着地した（前年9,132件）。

② 内視鏡治療は引き続き24時間365日受け入れられる体制で能登北部・中部医療圏の連携医療機関からのご紹介に即対応し速やかに治療まで行えるようにしている。ERCPは138件、ESDは43件と前年より減少傾向であるが、大腸EMRは533件と過去最高件数となった。

③ クリニカルパスにおいては、パス利用率は年間を通してほぼ100%で推移した。治療の標準化、医師・看護師・メディカルスタッフの業務負担軽減、生産性・効率性UPに寄与した。

④ 共同購入品を積極的に使用しコスト意識を持ちつつ、その中でより良い処置デバイスを用い、内視鏡処置完遂率も95%以上を維持している。

⑤ データ分析（自病院分析・ベンチマーク分析等）結果を踏まえ、最適治療を心掛け、指標（平均在院日数や1日単価等）の改善を行った。

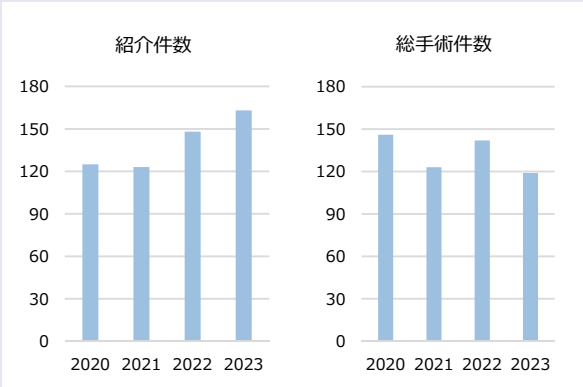
心臓血管外科

■所属医師

西澤 永晃、中嶋 和恵

■2023年度のトピックス

下肢浮腫精査の紹介件数の増加により、外来では初診患者数・総患者数が増加傾向であった。令和6年1月1日の震災以降、深部静脈血栓症・肺動脈血栓塞栓症の予防啓発・早期発見のため、能登中北部での避難所巡回・エコー検診を行い、循環器内科とともに外来・入院治療を行った。



■事業報告

① 患者数実績

外来初診患者：149人（前年比144%）

外来総患者数：2,585人（前年比116%）

新入院患者数：177人（前年比135%）

総入院患者数：556人（前年比108%）

② 2024年1月1日の震災以降、深部静脈血栓症・肺動脈血栓塞栓症の予防啓発・早期発見のため、能登中北部での避難所巡回・エコー検診を行い、循環器内科とともに外来・入院治療を行った。能登地区での出張外来は、震災後2月から再開した。

③ 重症下肢虚血症例では、循環器内科とのハイブリッド治療を行っている。2023年12月までは、手術件数は回復していたが、震災以降の3カ月間は前年同月比22%まで手術件数が減少しため、総手術件数は減少した(前年比88%)。心臓大血管手術適応症例では、高度先進医療機関との連携で対応した。

下肢静脈瘤手術：65例

末梢動脈手術：15例

透析関連手術：13例

ペースメーカー関連：13例

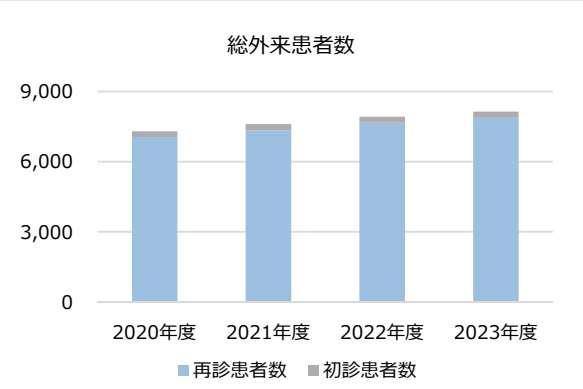
循環器内科

■所属医師

金田 朋也、真弓 卓也、末松 哲郎

■2023年度のトピックス

初診外来患者数、総外来患者数は増加傾向にあり、心不全患者の増加が要因と考えられる。外来での治療、教育指導に力を入れ、増悪予防に努めている。震災による下肢静脈血栓症の治療や予防の啓発を心臓血管外科と協働して行った。



■事業報告

① 患者数実績

総外来患者数：8,141人（前年比103%）

初診外来患者数：266人（前年比104%）

延べ入院患者数：7,571人（前年比94%）

新入院患者数：556人（前年比99%）

② 手術実績

経皮的冠動脈形成術　144件（前年比98%）

ペースメーカ植込み術　31件（前年比76%）

末梢血管治療　26件（前年比74%）

③ 震災後の被災者の下肢静脈血栓症の治療や予防啓発の活動を心臓血管外科と協働して行った。

④ 冠動脈バイパス手術、弁膜症手術、不整脈に対するアブレーション治療などの高度な治療を要する症例は、高度医療機関と緊密に連携し、安全で適切な医療に努めている。

⑤ 珠洲総合病院の出張外来を継続した。能登北部の地域医療に今後も貢献していく。

脳神経外科

■所属医師

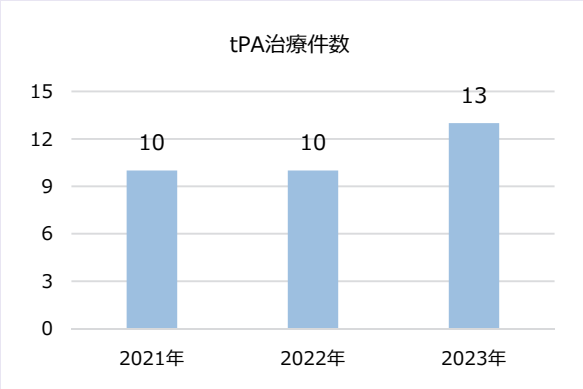
岡田 由恵、東 壮太郎

■2023年度のトピックス

① tPA治療　13件

② 入院　197人（延べ人数）

③ 手術　7件



■事業報告

① 新入院患者数：181人

手術件数：7件（慢性硬膜下血腫7例）

tPA症例：13件 (21年　22年　より微増)

② 入退院管理センター主導のベッドコントロールにより、障害者病棟長期入院患者が減少した影響で、入院患者数は25-30（以前は30-35人）となっている。

③ 公立能登総合病院や金沢大学、県立中央病院の脳神経外科で、超急性期治療終了後の転院受け入れ依頼に対し、回復期リハビリ病棟と調整して受け入れている。

④ 血栓回収術を含む緊急手術が必要な症例に関しては、公立能登総合病院、金沢大学附属病院、県立中央病院等と連携し、迅速に対応できる体制をとっている。

⑤ 脳腫瘍、未破裂脳動脈瘤等で、高度な治療が必要な症例に関しては金沢大学脳神経外科と連携して、対応している。

⑥ 金沢大学脳神経外科から専門医を外来応援に派遣していただき、症例のコンサルテーションを行っている。

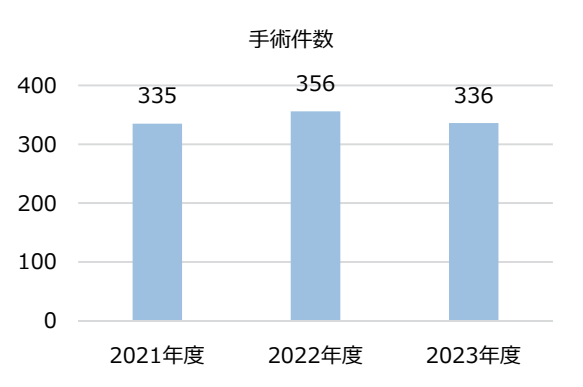
整形外科

■所属医師

森永 敏生、阿部 健作、浅井 一希、辻 大祐

■2023年度のトピックス

手術は、昨年同様、変形性膝関節症に対する人工関節置換術、骨切り術、関節鏡視下手術に力を入れた。また大腿骨近位部骨折に対し、可及的早期に手術を行うように努力した。



■事業報告

① 4月からは辻医師、10月からは浅井医師が新しく着任した。

② 初診患者数は、760人(前年比1.2%増)であった。

③ 総外来患者数は、13,797人(4.3%減)であった。

④ 新入院患者数は、550人(0.9%増)であった。

⑤ 延べ入院患者数は、 18,609人(7.3%減)であった。

⑥ 能登半島地震では、手術室の被害がなかったため、機能を停止することなく手術を行うことができた。1月は震災で負傷した骨折患者の手術が多かった。

⑦ 定期的にカンファレンスを実施し、看護師をはじめ、リハビリスタッフ、MSW等との連携を重視している。

⑧ 今年度も、骨粗鬆症リエゾンチームの活動として、2次性骨折予防活動を展開した。全職員に対する研修を実施した。

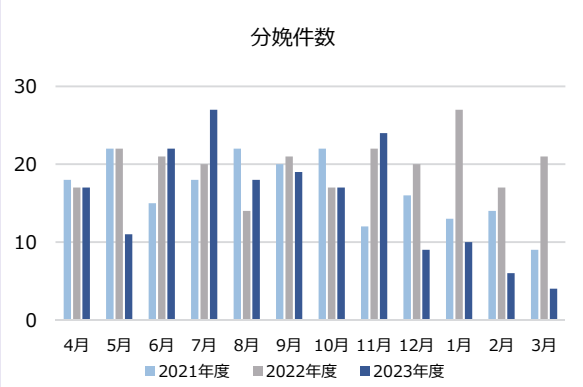
産婦人科

■所属医師

新井 隆成、安田 豊、宮田 康一、佐藤 友美、井上 大幹

■2023年度のトピックス

分娩件数、婦人科手術件数は、震災以後を除けば、ほぼここ数年の実績を維持している。特に婦人科手術はコロナ以降もその影響を受けることはなかった。患者安全を最も大切な目標に掲げて手術治療の質向上を目指してきたこれまでの取り組みを今後も継続・向上させていきたい。



■事業報告

① 令和6年能登半島地震においては、全職員の協力と頑張り、平時からの産科救急医療へ向けたチーム医療強化の取り組み、そしてこれまで10年間「地域周産期医療の安全維持」という目標のために協働してきた全国の産科医、助産師の支援を受けることによって能登地域のお産の安全を守ることができた。それは単に分娩管理を行うということに留まらず、奥能登の妊婦の1.5次避難を受け入れる母子避難所としての保健機能を果たした。これは、今後の「災害医療対策へ向けた平時からの周産期医療体制」を考えるモデルとなり得る。

② 2024.1.1.～3.31.までの震災後実績

・総分娩数：19件（初産婦12件、経産婦７件）

・帝王切開数（緊急）：4件

・ハイリスクの妊娠入院管理：10件

・避難妊婦受け入れ数：４件

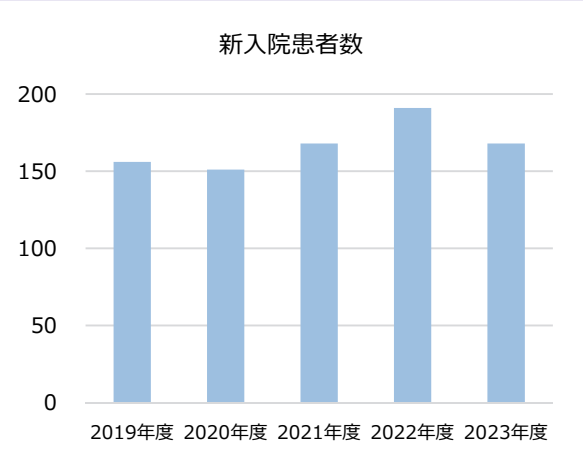
総合診療科（家庭医療）

■所属医師

吉岡 哲也、伊達岡 要、丸山 晃弘、上田 一輝

■2023年度のトピックス

新入院患者は昨年度より減少した。これまで通り、レスパイト入院も積極的に受け入れている。



■事業報告

① 年度後半の医師１名退職の影響もあり、新入院患者数は一昨年の水準まで減少した。延べ入院患者数も昨年度より減少した。

② 主な疾患は、誤嚥性肺炎、腎・尿路感染症であった。在宅あるいは施設への復帰に向けた早期からの対応を心がけており、急性期病棟における平均在院日数は短縮傾向である。

③ レスパイト入院も積極的に受け入れている。

④ 紹介件数が増加し、それに伴う入院件数も増加した。他院からのリハビリ目的の紹介に対しても、リハビリテーション科や脳神経外科のバックアップを行っており、地域の回復期リハビリ機能の体制強化にも関与している。

⑤ 積極的に逆紹介を行っている。

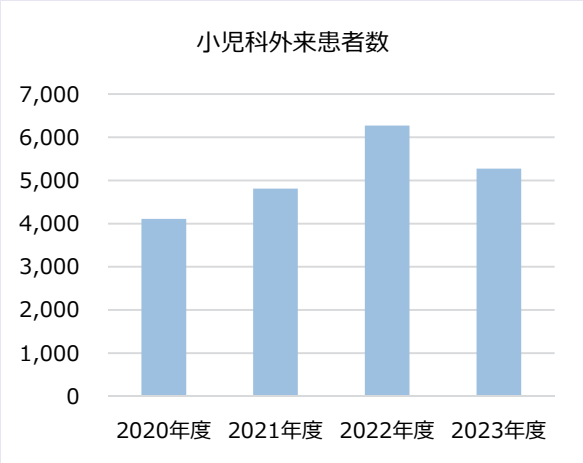
小児科

■所属医師

柳瀬 卓也、中谷 茂和、清水 一秀

■2023年度のトピックス

コロナの5類変更、能登半島地震の発生などによる発熱外来を含む外来患者数の減少、高額な血液製剤の薬価引き下げなど、小児科にとっては逆風の1年だった。



■事業報告

① トピックスでも記載したように2023年はコロナの5類変更、初診患者の保険外併用療養費の値上げにより2022年に比して発熱外来受診者を中心にして総外来患者数が大幅に減少した。

② 入院患者数は外来に反して2022年に比して増加したが、地震の影響で2024年1月～3月の新生児の入院患者数が大幅に減少したため、2022年と比して微増にとどまった。

③ 紹介患者数は2022年48人から2023年57人と微増だったが、地震の影響か、2024年に入ってからはより紹介患者数の減少がみられる。

④ 小児専門外来（神経、内分泌、循環器、アレルギー）の患者数は堅調に推移した。

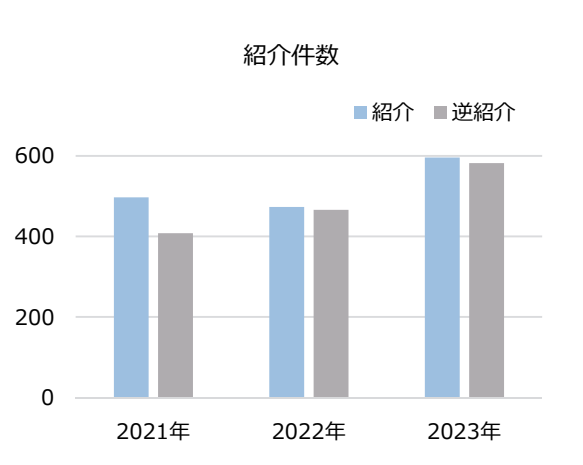
⑤ 新しい試みであるポケメドによる外来予約は、まだ利用者は多くはないが浸透してきている。予防接種も新方式を導入し、患者の待合時間は明らかに改善した。

眼科

■所属医師
馬渡 嘉郎

■2023年度のトピックス

紹介件数、逆紹介件数ともに昨年度の件数を大きく上回った。他の医療機関との連携を大切にしながら、外来・入院体制の維持を継続して行っていく。



■事業報告

① 1/1の能登半島地震発災後も通常通りの外来・入院・手術体制を継続した。

② 連携医療機関の先生方の期待に沿えるよう、最新の知見に基づいた治療の選択肢を患者に提供できるように努力した。

③ 手術では白内障手術を中心に、眼瞼下垂症手術、眼瞼内反症手術、緑内障手術、硝子体手術等に力を入れ、低侵襲で最新の手技を心掛けている。

④ 4月より手術用顕微鏡の更新に加え、新たに白内障手術機器「CENTURION」を導入した。従来に比べ、手術時間の短縮および手術負担の軽減が可能となり、より患者の眼にやさしい、質の高い手術を提供できるようになった。

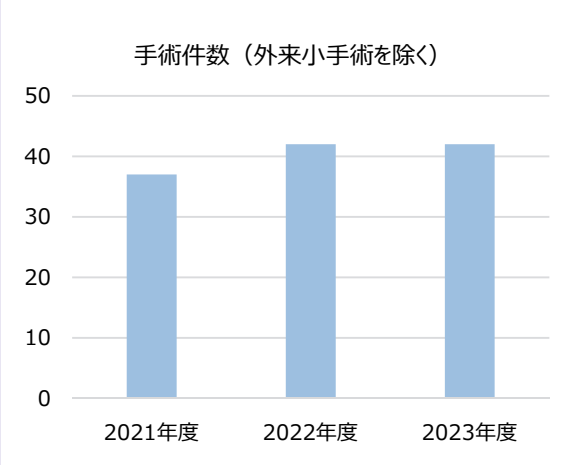
⑤ 外来診療では特に緑内障の薬物治療の方法論にこだわり、患者負担の少ない投薬、通院の仕方を提供できたらよいと考えている。来年度からは緑内障を専門とする北陸緑内障センターを設立する。

耳鼻咽喉科

■所属医師
山田 和宏

■2023年度のトピックス

手術件数（外来小手術を除く）は、例年と同等の件数であった。



■事業報告

① 2023年度実績
外来患者数：5,030名
初診患者数：333名
新入院患者数：86名
手術件数：141件

② 新入院患者数が増加した。
72名（2021年度）→73名（2022年度）→86名（2023年度）

③ アレルギー性鼻炎の患者に対し、内服薬や点鼻薬といった保存的治療以外に、外来日帰り手術の下甲介粘膜焼灼術（アルゴンプラズマ凝固）も提案し、治療の選択の幅を広げている。

④ わかりづらい耳鼻咽喉科の疾患について、患者に十分に理解していただけるよう、耳・鼻・咽喉頭の解剖の図や模型を用いるなどして丁寧な説明を心がけた。

⑤ 引き続き、院内他科や各部署、金沢大学附属病院耳鼻咽喉科などの高次医療機関と連携をはかり、安全で適切な医療を提供するよう努めたい。

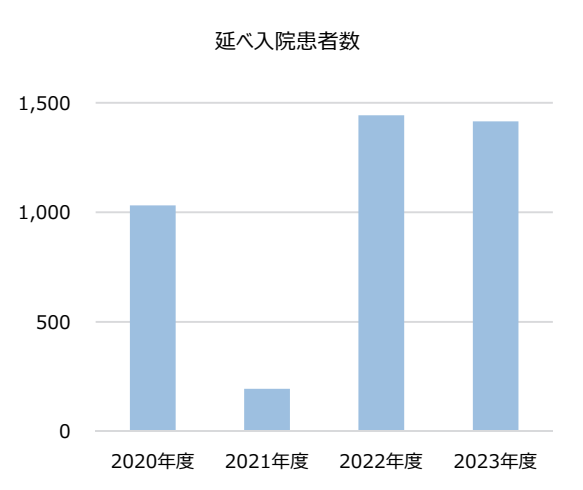
泌尿器科

■所属医師

菅 幸大、川村 研二

■2023年度のトピックス

新入院、延べ入院患者数は前年と同水準で推移した。他科入院患者への対応も積極的に行っている。



■事業報告

① 前年度に引き続き、外来診療日は月曜日～木曜日であり、月曜日から水曜日と木曜日の午前は菅、木曜日の午後は川村が担当した。初診患者数は前年度と比べて41%増加した。紹介件数も22%増加した。

② 延べ入院患者数は、前年度比でマイナス2%とほぼ同数で推移した。新入院患者数もほぼ同数である。紹介入院率（全入院患者数に対する紹介患者入院数の割合）は6%増加した。当科以外の入院患者に対する処置等の対応件数も増加した。看護師とも協働して、排尿自立支援の取り組みも積極的に行っている。

③ 主な手術は、膀胱悪性腫瘍手術（全体の30%）であり、次いで体外衝撃波腎尿管結石破砕術（全体の21%）、膀胱結石・異物摘出術（20%）と続いた。

麻酔科

■所属医師

長谷川 公一、櫛田 康彦、神野 彩

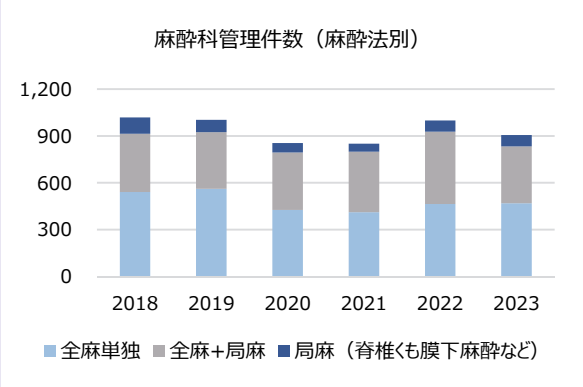
■2023年度のトピックス

麻酔科管理件数は減少はしたが、地震後の1-3月も通常通りの体制を維持し、増加した緊急手術を安全に対応した。

① 麻酔科管理手術件数 906件（前年度999件）

② 総麻酔管理時間 2,398時間（前年度2,940時間）

③ 緊急手術割合 37%（前年度36%）



■事業報告

① 麻酔科管理件数

前年度比減少した。地震直後の1月は減少したが、2-3月の緊急手術、高齢者手術が増加、それらに対して安全に対応した。

② 総麻酔時間

手術件数の減少に従い時間数も減少した。また、一件あたりの手術時間の減少もみられている。

③ 緊急手術割合

前年度比やや増加し37%と高い割合を維持している。震災後の緊急手術の増加に対し、3名の麻酔科医を有効に配置し、安全に緊急手術に対応した。

④ 無痛分娩取扱数

前年度比横ばい。出産数が減少するなか総分娩数の23%を取り扱った。他院からの紹介や遠方よりの受診も多く見受けられるようになった。今後も母体管理体制を整え安全性と質を高め、より潜在的ニーズを拾い上げていきたい。

⑤ 緩和ケアチーム対応患者数

前年度比大幅に増加した。これからも、多職種や在宅医療と協力しながら、患者が少しでも満足できるよう質の高い対応をしていく。

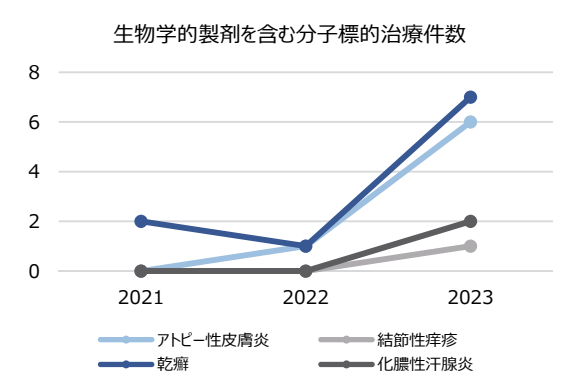
皮膚科

■所属医師

二ツ谷 剛俊、野村 史絵

■2023年度のトピックス

日本皮膚科学会による乾癬生物学的製剤使用承認施設の承認を受け、新たに乾癬をはじめとする適応疾患に対して生物学的製剤の導入患者が増えた。また、分子標的治療を積極的に導入し、能登地区でもアトピー性皮膚炎の最新の治療を提供した。



■事業報告

① 患者ニーズにこたえ、これまで大学病院での治療でしかできなかった入院疾患についても積極的に受け入れ、治療を行った。

② 日本皮膚科学会による乾癬生物学的製剤使用承認施設の承認を受け、最新の治療である分子標的治療を積極的に導入支援した。

③ 診療での新たな取り組みとして、2023年に導入されたiPhoneのトーク機能を利用し、入院患者の褥瘡の状態などを写真共有することで迅速に診断、治療の開始を行った。これにより、リハビリや看護業務の中断なく、各職種の仕事効率化が図られた。

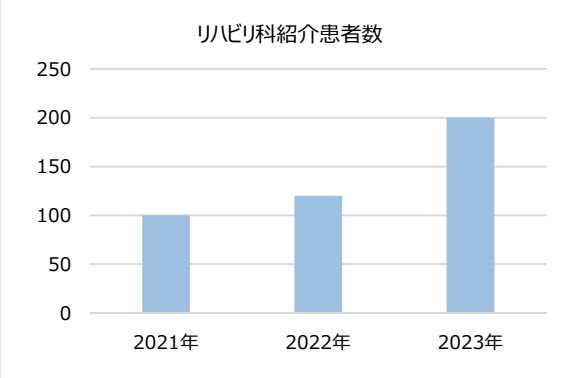
リハビリテーション科

■所属医師

川北 慎一郎、平井 文彦、小竹 源紀、伊達岡 要

■2023年度のトピックス

2023年度の地域からリハビリ科への紹介患者数は従来の倍近くに増加した。理由はリハビリ目的の入院紹介だけでなく、外来リハビリ開始や訪問リハビリ開始の依頼およびボツリヌス治療依頼などの増加が挙げられる。



■事業報告

① 入院患者のリハ施行率、リハ処方数は年々増加しており、2023年度は平均75%となり、年3,500件のリハ処方を行った。

② 回復期リハ病棟への紹介入院患者も増加しており、2023年度は85例となった。転院受け入れまでの平均期間は約8日と早期受け入れの仕組み作りを行った。

③ ボツリヌス治療患者数やボツリヌス注射使用本数も年々増加しており、年間93回をボトックスを主に7例ゼオマインを使用した。

④ 認知症ケア回診を毎週、月1回の検討会や定期的な認知症勉強会も継続し、病棟での抑制患者の減少を確認した。

⑤ 能登脳卒中地域連携協議会活動として、脳卒中症例検討会、リハビリ講演会、嚥下障害研究会などを開催した。

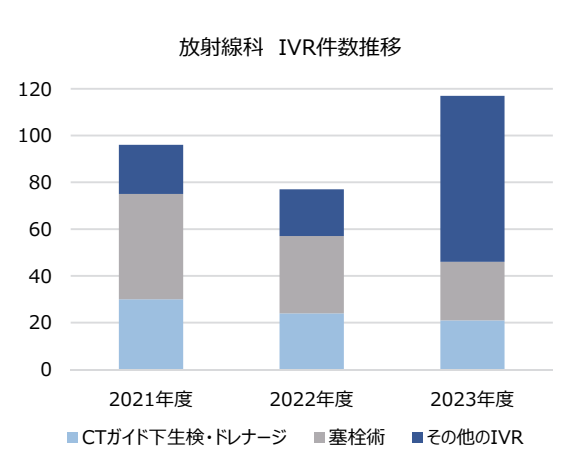
放射線科

■所属医師

角 弘諭

■2023年度のトピックス

CTガイド下による検体採取やドレナージ留置、血管塞栓術・TACE、胆管ドレナージ/ステント留置等のIVR手技が大幅に増加した。



■事業報告

① 腹部血管塞栓術等件数：96件 （前年比181%）

② CTガイド下生検、CTガイド下ドレナージ件数：21件（前年比86%）

③ CT件数：15,267件（前年比101%）

④ MRI件数：4,188件（前年比99%）

⑤ マンモグラフィ件数：3,204件（前年比108%）

⑥ 骨塩量測定件数：1,409件（前年比114%）

⑦ 健診胃透視件数：788件（前年比109%）

⑧ 共同利用件数：344件（前年比89%）
（CT:155件/MRI:85件/PET-CT:104件）

⑨ 令和6年能登半島地震による被災があったが、放射線機器は本館の免震構造により全く影響を受けなかった。震災後も検査、治療が継続され昨年並みの件数となった。

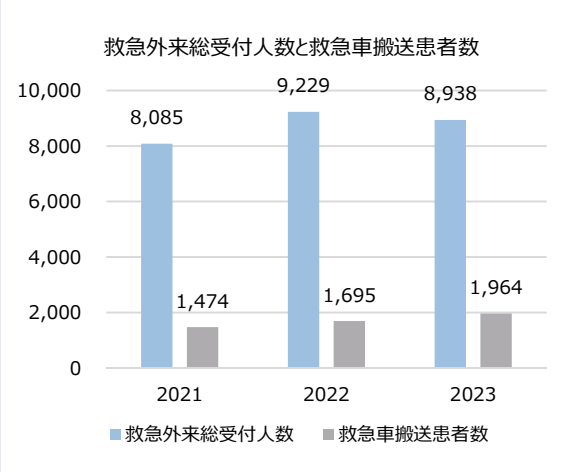
救急救命科

■所属医師

米田 高宏

■2023年度のトピックス

新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行した。救急外来総患者数は減少した。



■事業報告

① 救急搬送患者数は1,964人で過去最高となった。1月の震災で大きく増加した。救急外来受診数は8,938人とコロナ禍で最高だった去年に比して減少した。

② 救急搬入患者の年間入院は1,102人（入院率は56.1%）であり絶対数が増加した。

③ 救急部査定30件(▼18)、11,313点(▼13,768点)

④ 救急医学会専門医、麻酔科学会専門医を更新できている。

⑤ 救急車受け入れ不能件数は年間21件と前年比1.5倍であった。

⑥ CT・MRIの読影レポート結果確認率100%であり、さらに必要に応じて患者に報告し受診を促したり、入院・外来主治医に直接届くような仕組みを継続できている。

⑦ 研修医のER研修は継続して力を入れている。

⑧ 救急外来での紹介患者（米田個人）は111例

⑨ 医療秘書課と連携している逆紹介件数は前年比84件減の328件となった。

⑩ 返書作成日数は1.04日と3日以内を保っている。

⑪ 「普段かかりつけ医、時々恵寿総合病院」という連携の集いで発表した各医療機関との連携が実現できている。

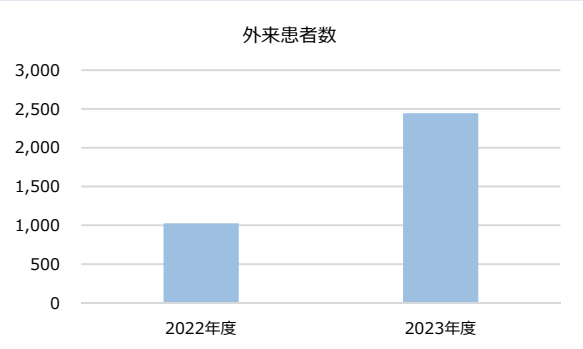
心療内科

■所属医師

中川 東夫、丸山 晃弘

■2023年度のトピックス

今年度より丸山医師が新たに加わり2人体制となった。昨年度は、不安障害、うつ病性障害、適応障害などの神経症性障害を中心に診療していたが、今年度から認知症も対象として診療している。3名の公認心理師とともに、外来や入院中（緩和ケアを含む）の患者に対して、心のこもった対応を心がけている。



■事業報告

① 月曜日-木曜日の午後、金曜日午前に外来診療を行っている。外来件数は204人/月で推移している。初診患者数は89人/年（7人/月）である。

② 認知症やせん妄を中心とした入院患者に対する診療も行っている。また、緊急入院となった患者への迅速な診療体制も整えている。

③ 緩和ケアチームにも参画し、がん患者への精神的サポート、心理的サポートも行っている。

④ 院内には臨床心理課が設置されており、公認心理師が3名在籍している。チーム医療の一員として、心療内科における心理検査、心理カウンセリングだけではなく、がん患者へのこころのケアなど積極的に活動している。

⑤ 精神科病院、心療内科クリニックとの連携強化、共有を図っている。また、恵寿金沢病院と定期的にカンファレンスを開催し、問題点の共有、アドバイスを行っている。

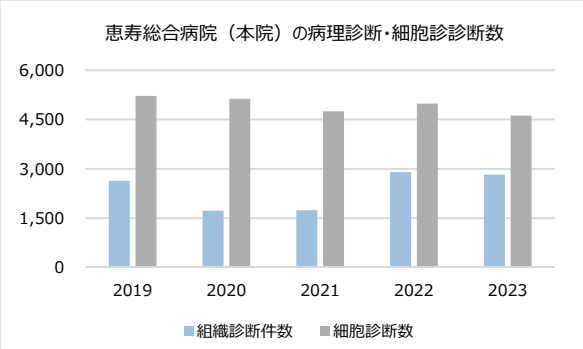
病理診断科

■所属医師

上田 善道

■2023年度のトピックス

病理医2名（常勤、非常勤各1名；検査技師3名（細胞診スクリーナー1名）体制で2年目を迎え、震災前には診断検体数は約1割増加した。恵寿総合病院本院の病理診断、術中迅速、細胞診に加え、アルプ病理との連携で、恵寿金沢病院ならびに能登地区連携病院の診断を行った。



■事業報告

① 病理組織2,821件、術中迅速47件、細胞診4,619件、病理解剖1件の診断を行った（図は最近5年間の病理・細胞診の診断数の推移）。

② 病理組織診断では、免疫染色630件、*in situ hybridization*45件、T, B細胞性リンパ腫のPCR法による遺伝子解析16件を実施した。

③ 研修医C.P.C.を1回開催し、発表とレポート作成を指導した。

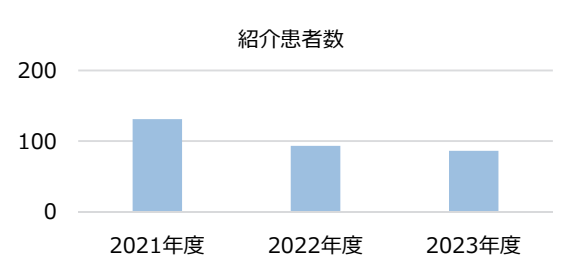
④ 恵寿金沢病院の病理組織診断291件を行った。

⑤ アルプ病理からの受託診断（病理組織診断4,325例（△378）；細胞診診断374例（△52））を行い地域連携に貢献した。

⑥ 本院の病理組織診断症例を英文医学雑誌に報告し、学術的な貢献を行った。

脳神経内科

■2023年度のトピックス



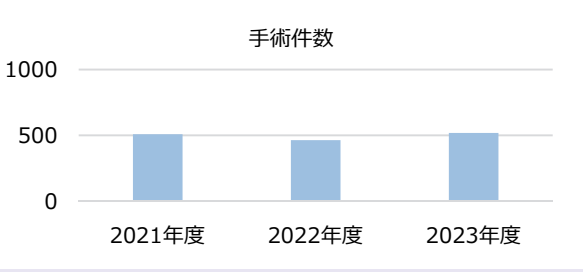
■事業報告

① 前年度から非常勤医師による診療体制となっている。診療日は毎週水曜日と金曜日のそれぞれ午前中となっている。診療日数の減少により、総外来患者数も減少している。

② 変性疾患を主体とする診療内容であり、必要に応じて脳神経外科との連携を図っている。

形成外科

■2023年度のトピックス



■事業報告

① 年間の初診患者数は前年度比10%増加した。外来単価が向上し、総収入は7%増加した。紹介患者数は減少した。特に震災後の3か月は前年度同時期と比べて50%減少となった。

② 外来手術を含む全手術件数は518件で、前年度比12%の増加となった。主な手術は皮膚、皮下腫瘍摘出術である。皮膚悪性腫瘍切除は6件であった。

緩和ケア科

■所属医師

櫛田 康彦

■2023年度のトピックス

新規紹介患者に対する症例検討会、1～2ヶ月ごとの委員会開催を実施（委員会はZoomによるハイブリッド開催）

2023年度は委員会7回、症例検討会14回開催。

	2022年度	2023年度
緩和ケア紹介患者数	52名	47名

■事業報告

① 鎮静依頼に対して、同意書に署名してもらい対応した。

② 緩和ケア実施計画書を数名の患者さんに使用した。

③ 2023年10月29日に当院主催で緩和ケアに関する市民公開講座を実施。櫛田が講演して、当院の緩和ケアの内容を啓もうした。

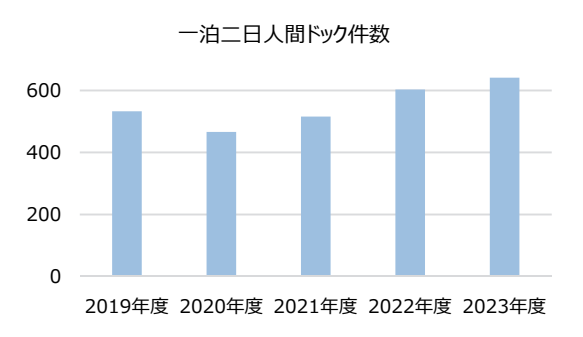
④ 緩和医療科での看取りは、1名だった。

健康管理部

■センター長　　■副センター長
上野 恭一　　桐山 正人

■2023年度のトピックス

令和6年能登半島地震により、当センターは甚大な被害を受けた。震災後直ちに、パートナー企業と協働し復旧作業を行い、1/9（月）より健診業務を再開した。1月中は、断水や暖房機器の故障により、受診者の皆様にはご不便をおかけした。また、1泊2日人間ドックの宿泊先として提携している和倉温泉の旅館にもご案内することができない状況が続いた。



■事業報告

① 2023年度実績
・総受診者数：10,889名
・1日当たりの受診者数：45名
・一泊二日人間ドック受診者数：641名
・日帰り人間ドック受診者数：1,370名

② 検診体制の強化
一泊二日人間ドックの検診体制を強化し、年間約100件の受け入れ増加を可能にした。健康志向が高まる受診者のニーズに対応すべく、膵がん検診や肺がん検診を中心に様々な検査を提供した。

③ Web問診の開始
10月より、健診Web問診を開始した。 受診者は、パソコンやスマートフォンで、いつでも、どこでも簡単に回答することができ、職員は問診票の入力作業がなくなり業務の効率化に繋がった。多くの受診者に利用していただきたい。

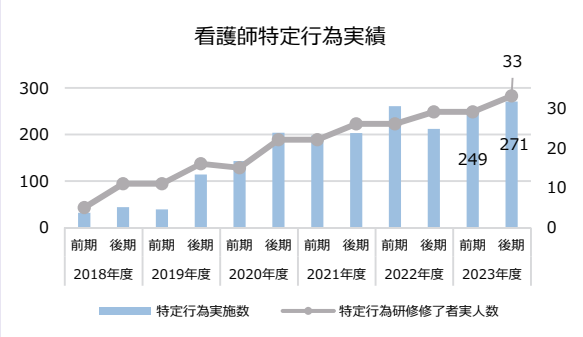
④ SNS発信
健康管理センターの取り組みや日常の様子をインスタグラムに投稿し発信している。この投稿がきっかけとなり、当センターで一緒に働く仲間が増えた。

看護部

■看護部長
本橋 敏美

■2023年度のトピックス

① 看護師特定行為研修修了者6人（在籍者33人）
② 抗がん剤投与実践研修修了2人（在籍者数52人）
③ 5月にクリーンルームを本館に移設（10床）
病棟再編 → 急性期病棟を本館に集約
④ 地震発災直後から外来・入院部門の体制を整え対応



■事業報告

① 多職種協働セルケア方式の導入（初年度）
- iPhoneを導入し、トークルーム（チャット）を活用することで、多職種間の情報共有が迅速化した。情報の発信が複数者に向けて行われることで、スムーズな情報伝達が可能となった。
- 動線と配置の無駄を削減するため、モデル病棟には使用頻度の高い物品を配置した拠点カートを設置し、スタッフステーションのテーブルを撤去。全病棟で「スタッフステーションに戻らず、患者の傍らで看護を！」をモットーに取り組み、患者経験価値（PX）の向上に努めた。その結果、「ナースコールを押した後、すぐに援助が受けられた」との評価が94%に達し、前年比で26%の上昇を見た。
- 記録の無駄を省くため、ベッドサイドでのリアルタイム記録を目指した。iPhoneの導入により、バイタル測定値のリアルタイム入力が加速した。業務量調査では、昨年同月との比較で、10病棟中5病棟で残業記録が減り、5病棟の平均で1人30分削減された。

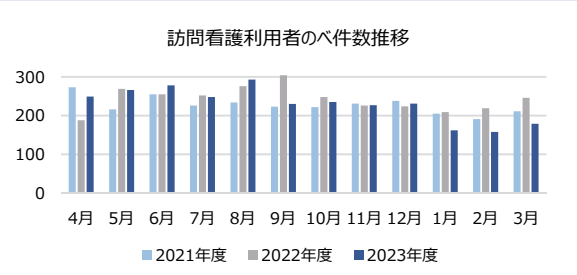
② 発災後の人的支援受入れ集計
看護職：148人、介護職：1人
支援日数　：799日間

恵寿総合病院訪問看護ステーション

■所長

久能 恵美

■2023年度のトピックス



■事業報告

① 2023年度の延べ利用者件数は、合計2,756件で、月平均229件であった。これは2021年度より多く、2022年度より少ない値である。

② 2023.12月までの実績で比較すると、合計2,257件、月平均250件となる。これは2021・2022年度より多く、震災による利用者減が年度全体の結果に影響した。

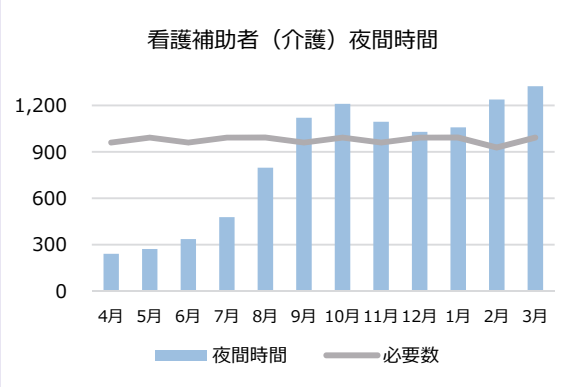
介護部

■部長

内田 かおり

■2023年度のトピックス

夜間100対1急性期看護補助体制加算取得のため、夜勤可能な配置換えを行い、介護職員の夜間配置時間を確保した。9月の実績を達成し、10月から加算を取得できた。その後も毎月確実に夜間配置時間を手厚くすることで加算を取得した。



■事業報告

① 夜間介護の時間確保のため、段階的に夜勤、早、遅を取り入れ、事前に計算し回数を決めた。9月実績達成後、10月より加算取得し、時間数も安定して確保した。

② インカムを10台購入し毎日指導した結果、スムーズに業務ができるようになり、迅速な対応が可能となった。新しい取り組みとしてはポータブルトイレの使い捨て法を導入し、感染予防や防災に役立った。

③ 介護部は、2023/4/1時点57人から2024/3/1時点で16人増加の73人となった。資格取得にも励み、初任者研修5人、介護福祉士1人が合格した。介護DXのスマート介護士ベーシック1人、エキスパート1人取得し、介護ロボット導入に向けて活躍した。また、喀痰吸引研修を2人、おむつマイスターを4人が取得した。

④ 多職種協働セルケア方式導入に、介護も参入した。

⑤ 震災後、職員向けにけいじゅ学童を開設。最大40名の子供が集まり、約1ヶ月、全学校再開まで行った。職員確保に貢献し、多職種と介護部のつながりが持てた。

⑥ 2023年度は新規入職17人、異動13人加入、退職者5人（結婚、持病、家庭事情）。メンタル休職者０、腰痛０。全体で夜勤介護22人から34人まで増え、安定してきている。

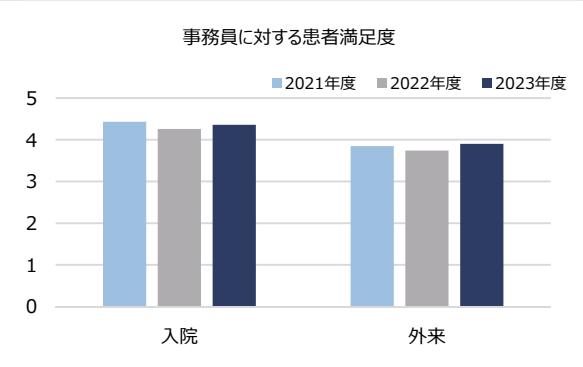
事務部

■部長

森下 毅

■2023年度のトピックス

地震による大きな被害を受けたにも関わらず、「医療を止めない」の使命を果たすべく、外来患者の歩行の安全を確保、予約調整、オンライン診療の設定、レセプト業務の期間内の完了など、全部門職員が協働して対応した。事務員に対する患者満足度は前年度と比べ向上した。



■事業報告

① 1月の地震により、病院のみならず職員の自宅被害も大きかったが、レセプト提出などにおいて遅延は生じなかった。事前の準備と職員の献身的な頑張りが奏功した。

② 保険証確認におけるマイナンバーカード利用率は、10月-1月の段階で3-4%と低調であったが、年度末より利用周知を強化している。1日あたりの利用患者数は増加傾向にある。地震発生時には、診療・薬剤履歴の閲覧のために活用した事例があった。

③ 患者サポートアプリ「ポケメド」の登録者増加を図った。付加機能である医療費の後払いシステム導入の準備を開始した。2024年度初頭からの開始予定である。利用者数の増加により、外来における支払い待ち時間の短縮効果が期待できる。

④ 発熱外来は、第9波、第10波を迎え、患者数は過去最大となったが、対応業務の効率化が進み、過去の流行時と比べ混雑状況の悪化は見られなかった。

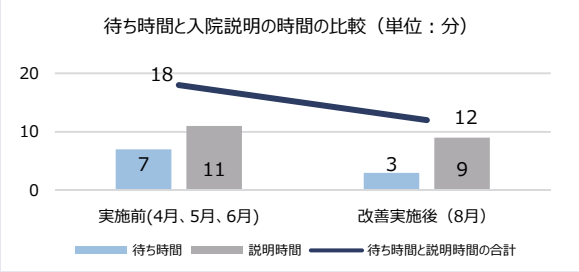
⑤ ISO9001:2015のサーベイランス審査を受診し承認を受けた。

けいじゅサービスセンター
サービス課

■課長

金子 幸代

■2023年度のトピックス



■事業報告

① 入院予約説明の時間短縮を目指す取り組みを実施。入院パンフレット見直しと入院案内動画作成、繁忙時増員、再入院手続きを病棟で対応することで、時間短縮のしくみを確立した。

② 新たにホスピタルコンシェルジュ3級3名、電話応対技能検定4級1名誕生した。

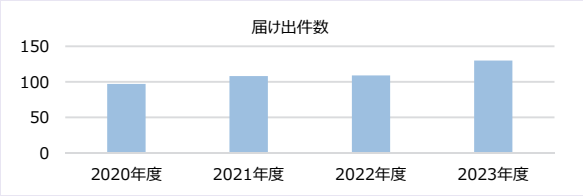
医療情報事務センター
管理課

■課長

松木 尊紀法

■2023年度のトピックス

4月に2019年6月以来の対面での適時調査が行われた。2023年度の施設基準の届け出件数は130である。



■事業報告

医師の働き方改革～2024年に向けての対応～

① 医師の時間外労働の上限をA水準（960時間）とした。

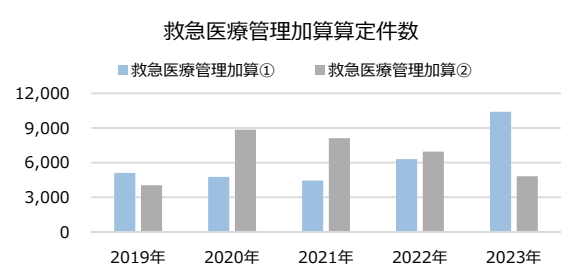
② 医師の時間外申請について、紙での申請を廃止し、勤務管理システムでの申請に変更した。リアルタイムで時間外労働時間を把握することができるようになった。

医療情報事務センター
医事課

■課長

竹田 慎一

■2023年度のトピックス



■事業報告

① 救急医療管理加算の算定に力を入れ医師とのコミュニケーションを図り連携を強化した結果、2023年度は過去最高の算定件数を記録した。また救急医療管理加算①の算定件数は②の倍以上となった。

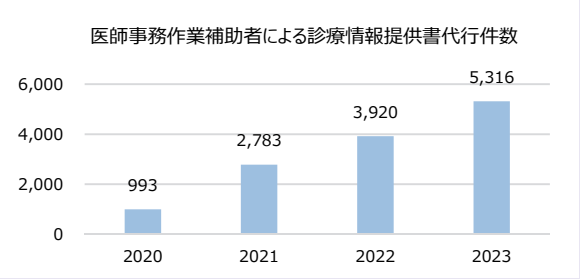
② 震災後の救急車受入要請の増加あり、1月の救急車搬入件数は過去最高の263件となった。

医療情報事務センター
医療秘書課

■課長

三浦 有紀

■2023年度のトピックス



■事業報告

① 診療情報提供書の代行件数5,316件、前年比135%となった。

② 震災後の救急車受入れ増により、1月の七尾鹿島広域圏への情報提供代行219件、本業務開始以降初めての200件/月超えとなった。

③ ドクターズクラーク2名・ドクターズオフィスワークアシスト1名・肝炎医療コーディネーター1名が新たに誕生した。

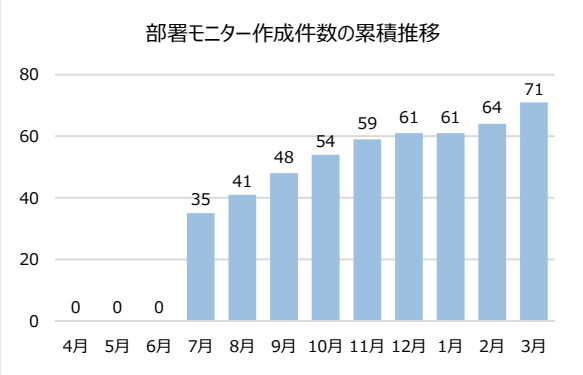
データセンター

■部門代表者

神野 正隆、井舟 正秀、瀬戸 亜矢

■2023年度のトピックス

法人内にある全てのデータを一元管理するためにデータセンターを設立した。董仙会の創業精神に則り、「いつでも、誰でも、たやすく、わかりやすく、あらゆるデータを見られる法人（病院）にする」をビジョンに掲げ、データに基づく医療介護「Data Driven Healthcare」の基盤を担う部署とした。



■事業報告

① 構成部署としては、既存の「診療情報管理室」と、新設の「DATA LAB」で構成される。

② 診療情報管理室：医療の質向上に寄与する事を目標に掲げ、NCD(357件)、がん登録(632件)等の症例登録ほか、外部調査・院内からのデータ依頼(39件)など医療の質改善に向けた情報提供を行った。

③ DATA LAB：主に以下の3つを担っている。

1. 点在する膨大なデータを一元管理し、いつでも誰でもわかりやすく様々なデータを閲覧可能にする徹底した見える化を行っている。それを各部署にフィードバックし日々のKAIZEN活動(TQM等)で活かしてもらっている。本年は71の部署モニターを作成。

2.RPAは、現在90以上のロボットが常時稼働し、年間削減時間は10,600時間超。主な効果として、医療の質向上、業務効率化、収益向上等挙げられる。本年は10ロボットを新規作成した。

3.データ分析は、「データセンター」と「データ経営分析チーム」が連携して行っている。各部署に分析結果を共有し、フィードバック＆改善案の提案を行っている。

④ その他、主にOfficeソフトを用いて29件の院内の非効率な業務の改善を図った。

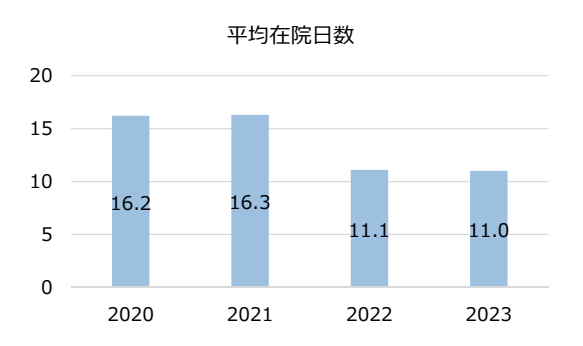
入退院管理センター

■部門代表者

神野　正隆、宮田 琴江、櫻 さおり

■2023年度のトピックス

設立２年目で、入退院管理センターが行うPFM（Patient Flow Management）は確立し、より強化された1年であった。入院～退院までの流れ（院内PFM）が滞らぬように一元管理し、さらに地域全体の視点でも当院と連携医療機関、介護関連施設間での患者の流れ（院外PFM）がスムーズにいくような管理体制がbrush upされてきている。



■事業報告

① 入退院に関わる指標の徹底的な可視化を行い、エビデンスと転棟・退院・転院の恵寿ルールを基にPFMを行っている。センターは院内ベッドコントロール機能をもつコマンダー、入院支援看護師、診療情報管理士、地域連携課、医療福祉相談課（MSW）で構成するOne Teamを継続している。

② 退院困難な要因をもつ予定入院患者には入院前から退院を意識した介入を開始し、また緊急入院患者には、入院時スクリーニングと共に退院までの流れを網羅するフローを作成し、入院初期から積極的介入を行っている。

③ 入退院に関わる指標をリアルタイムで見られる内製化したモニターを活用し、明確なルールのもとベッドコントロールを行っている。全入院患者を常に俯瞰し、DPC期間や日当点等を総合的に加味し、最適なタイミングでの転棟・退院促進を図った。

④ 挨拶回り等連携医療機関との連携強化を図りながら、退院/転院に向けての出口戦略も強化し、退院支援対象者に介入が可能となり退院支援が強化できている。

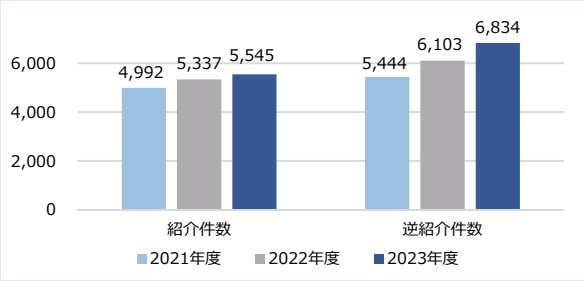
⑤ 平均在院日数は今年度も11日前後で推移、1日入院単価は前年度より更にUP、紹介入院患者数も増加し、病院機能の質向上、増収増益に繋がっている。

入退院管理センター 地域連携課

■課長

細谷 幸治

■2023年度のトピックス



■事業報告

① 紹介件数増を目的とし連携医療機関との相互理解向上のために、まるわかりブック・連携医療機関リーフレット・疾患別啓蒙ポスターを作成、配布した。

② 紹介数・逆紹介数・紹介入院数・入院収益・入院疾患・オペの有無などをデータベースで分析し連携の見える化を図った。連携医療機関にて症例検討会も実施した。

入退院管理センター 医療福祉相談課

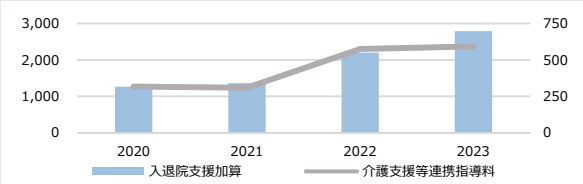
■課長

中川 一美

■2023年度のトピックス

PFMの推進により、入退院支援の流れが充実した。

年間延べ2,788名の支援に繋がった。（昨年度比127%）



■事業報告

① 地域のケアマネジャーとの交流会を開催、3年ぶりの対面開催が実現した。21事業所40名の参加があり、連携が深まった。また、ケアマネジャーとの介護支援等連携指導は年間592件行った。

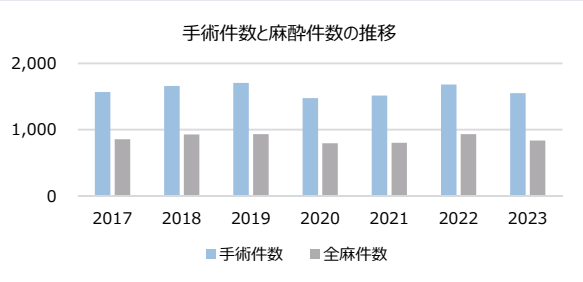
② 退院後の療養先支援が円滑に図れるよう、地域の介護医療院等へ訪問活動を行った。施設ごとの特徴をまとめ、日頃の連携に活用した。

手術センター

■部門代表者

長谷川 公一、中田 淳也

■2023年度のトピックス



■事業報告

① 手術件数は1,550件、前年度と比べるとマイナス130件。月平均121件、地震発生時の1月は111件と通常時とほぼ同等の手術稼働ができた。

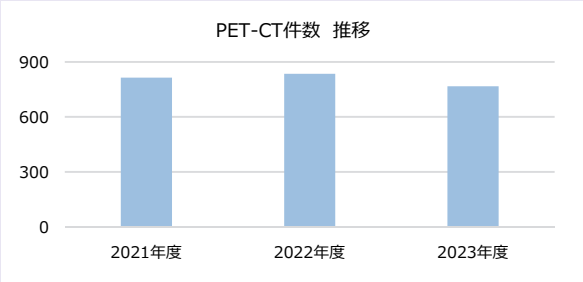
② 麻酔件数は、836件と総合入院体制加算3の要件を満たすことが出来ている。

PET・CTリニアックセンター

■部門代表者

角 弘諭、坂下 純司

■2023年度のトピックス



■事業報告

① PET-CT件数は、767件（前年比92%）であった。

② 核医学検査件数は、284件（前年比86%）であった。

③ 放射線治療照射回数は、1,017回（前年比66%）であった。

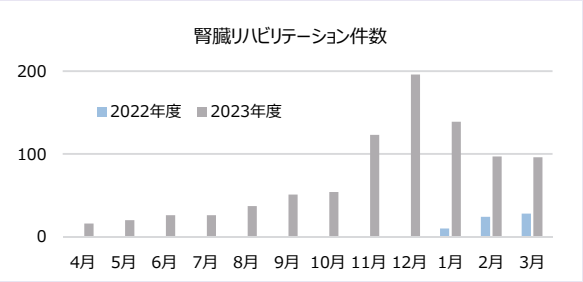
④ 放射線治療品質管理士を１名が取得。より安全・確実な放射線治療に取り組んでいる。

血液浄化センター

■部門代表者

熊野 奨、菅野 則之

■2023年度のトピックス



■事業報告

① 腎臓リハビリテーション：患者の平均年齢に伴い下肢の筋力維持を図るため、当院理学療法士監修オリジナルビデオでの「腎臓リハビリテーション」を、件/年(上表)と拡大させた。

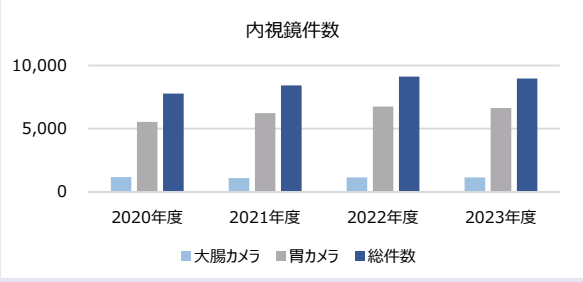
② 院外活動：3年ぶりに再開した石川県腎友会臓器移植推進県下一斉街頭キャンペーン活動に参加し、能登食祭市場の募金活動とドナー登録への呼びかけを実施。

内視鏡センター
内視鏡課

■部門代表者

神野 正隆、水口 賢

■2023年度のトピックス



■事業報告

① 内視鏡総件数 8,980件（前年度比 98.3%）に微減した。（1～2月は特に震災の影響あり）

② 全大腸内視鏡検査 1,142件（前年度比100%）と同等の件数であった。（目標は1,200件）

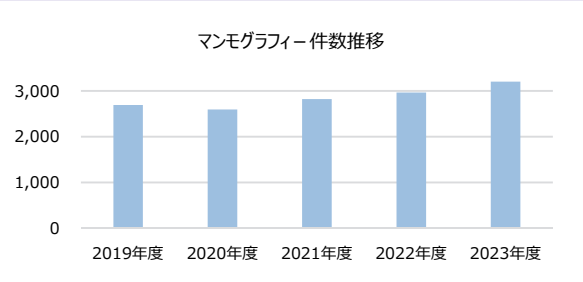
③ 大腸ポリープ切除術は533件（前年度比107%）に増加し、且つ非常に高い発見・切除率（46.7%）であった。

放射線センター
放射線課

■部門代表者

角 弘諭、坂下 純司

■2023年度のトピックス



■事業報告

① 全診療放射線技師が静脈路確保を患者に対して実施しており、タスクシフトに努めている。(穿刺件数:113件)

② 日本乳がん検診精度管理中央機構によるマンモグラフィ技術試験に、新たに１名が合格した。

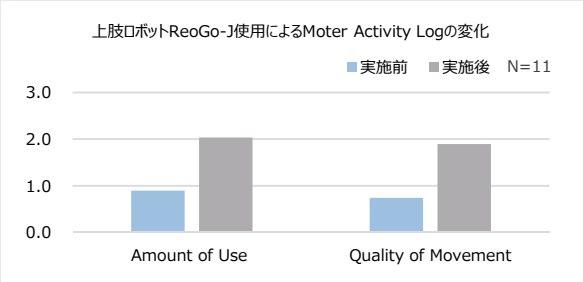
③ フラットパネルディテクタ（FPD）を搭載した外科用イメージに更新し、高精細な画像を術中に提供できるようになった。

リハビリテーションセンター
作業療法課

■部門代表者

川北 慎一郎、川上 直子

■2023年度のトピックス



■事業報告

① 上肢ロボット型運動訓練装置ReoGO-J実施数21名
脳損傷者17名、頚髄損傷者4名
平均実施期間44日

② 1月より急性期病棟（本館5階西、6階東）で早番開始しADL練習、認知症悪化予防に取り組んだ。

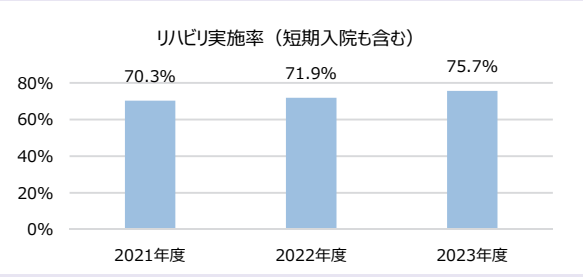
③ 学術活動、地域貢献（ケア会議アドバイザーや認定審査会委員など）を継続した。

リハビリテーションセンター
理学療法課

■部門代表者

川北 慎一郎、田中 秀明

■2023年度のトピックス



■事業報告

① ニューロリハビリテーション（rTMS）のチーム編成、勉強会・研修会を行った。

② 回復期リハ病棟、腎臓リハビリテーションの説明動画を作成した。

③ スマホ導入により、効率的な情報共有を行うことが可能となった。

④ 半自動化の勤務表作成により業務時間短縮が図れた。

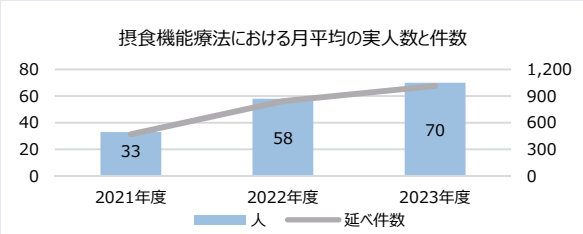
リハビリテーションセンター
言語療法課

■部門代表者

川北 慎一郎、諏訪 美幸

■2023年度のトピックス

摂食機能療法の件数が1,000件を超えた。



■事業報告

① データセンター協力のもと摂食機能療法対象者抽出システムを改良した。

② 看護師と言語聴覚士との連携により、摂食機能療法の延べ件数が徐々に増加した（昨年比20%増）。

③ キャリアアップ・スキルアップ
臨床神経心理士1名、口腔ケア指導士1名取得した。

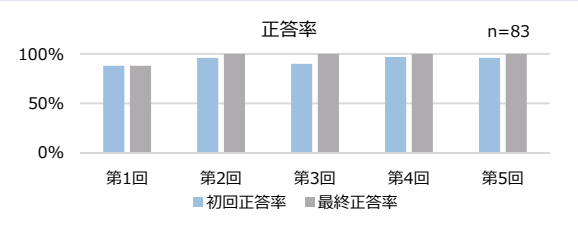
リハビリテーションセンター
リハビリテーション教育研修センター

■部門代表者

川北 慎一郎、久保 佳子

■2023年度のトピックス

恵寿フィロソフィ確認テスト実施した。



■事業報告

① 2年振りに和光苑での1日老健研修を実施した。

② 新人教育研修の満足度調査では10段階で平均7.6であった。

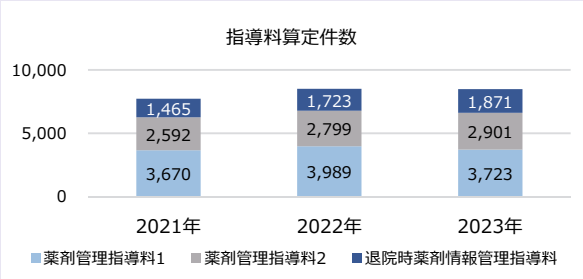
③ インスタグラムにて職場の魅力を発信した（10回）

薬剤管理センター
薬剤課

■部門代表者

神野 正隆、室宮 智彦

■2023年度のトピックス



■事業報告

① 薬剤管理指導の指導料1が前年比93.3%、指導料2は103.6%だった。退院時薬剤情報管理指導は前年比108.6%に向上した。

② 連携充実加算は515件/年で、前年度比106.0%と増加した。後発医薬品使用率は90%以上を維持した。持参薬鑑別は入院時5,670件/年、入院前549件/年だった。

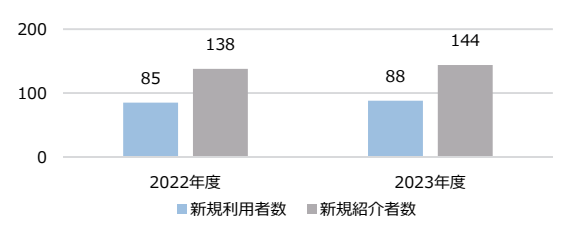
訪問リハビリステーション

■部門代表者

川北 慎一郎、柴田 真行

■2023年度のトピックス

訪問リハ利用件数が増大した。



■事業報告

① 訪問リハチェックシートを簡素化し、後方病棟だけでなく急性期病棟リハスタッフにも活用開始。訪問リハ対象者の新規利用件数増大を図った。

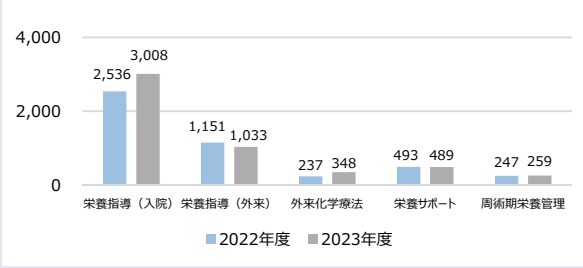
② 外部ケアマネージャーへ訪問リハパンフレットを作成し配布した。また空き状況について電話、メールにて伝達し、新規訪問リハ対象者選定を促した。

栄養管理センター
臨床栄養課

■部門代表者

久野 貴広、前田 美穂

■2023年度のトピックス



■事業報告

① 栄養指導の件数は、入院と外来化学療法でやや増加、外来はやや減少した。

② 栄養サポートチーム加算、周術期栄養管理実施加算は震災の影響で十分な栄養管理が困難な期間もあったが、前年度と同程度実施することができた。

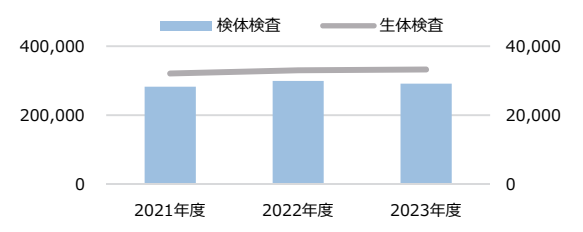
検査管理センター
臨床検査課

■部門代表者

上田 善道、尾田 真一

■2023年度のトピックス

検体検査、生体検査件数の推移



■事業報告

① 検体検査総件数 291,375件 前年比 -2.7%

② 生体検査総件数 33,220件 前年比 +0.8%

③ タスク・シフト/シェアの推進
外来採血室業務として静脈路確保を行った。
実績 294件

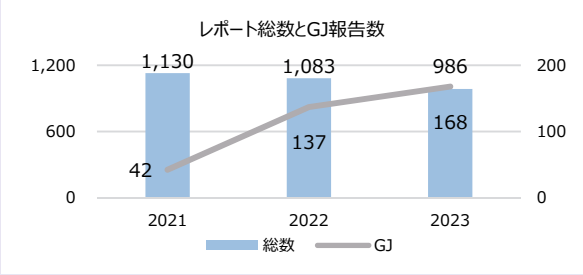
④ 検査システムを更新した。

医療安全管理センター
医療安全管理課

■部門代表者

岡田 由恵、小谷 薫

■2023年度のトピックス



■事業報告

① タスクシフト/シェア（静脈路確保）
放射線課17名（17名中）、臨床検査課22名（25名中）の技師による実施が行われている。

② Goodjob報告数増加。特に多職種間での部門を超えた報告が増加している。

③ 「医療安全文化調査」で、肯定的意見が増加したことを月刊誌号外で周知した。（10項目の増加があった）

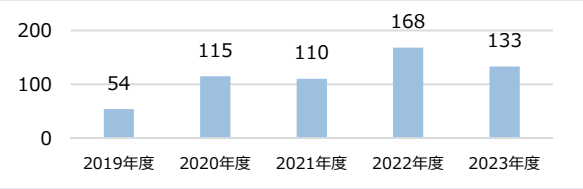
臨床工学センター
臨床工学課

■部門代表者

長谷川 公一、栃原 康則

■2023年度のトピックス

VA管理の一助を担うシャントエコー件数は、2021年に装置を更新して検査効率が向上し、件数増加にもつながっている。



■事業報告

① 血液浄化センターへチューブシーラーの導入・運用を行い、業務効率改善や前年度比24%の経費削減効果、災害時の早期避難対策にも大きな効果を得た。

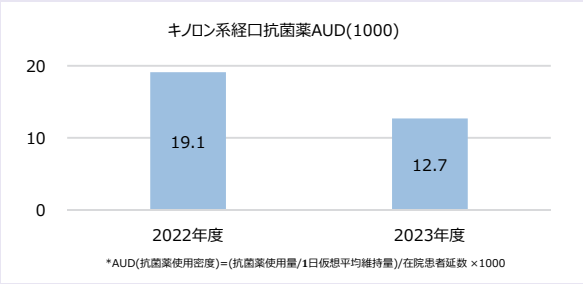
② 臨床実習を受け入れる医療施設の要件に臨床実習指導者講習会修了者在席が追加された。養成校の臨床実習要望に応えることはもちろん、職業意識向上の使命として公認臨床実習指導者・施設の資格を取得した。

感染制御センター
感染制御課

■部門代表者

山﨑 雅英、谷田部 美千代

■2023年度のトピックス



■事業報告

① AST活動の推進もあり、キノロン系経口抗菌薬AUDが2022年度より大幅に減少した。

② 病棟における使用後器材の一次洗浄が完全廃止され、中央洗浄室での処理に仕組みを変更できた。

③ 発災後、院内・関連施設・地域のCOVID-19・インフルエンザ等の感染防止対応に多岐の活動を実践した。

臨床研修センター

■部門代表者

新井 隆成、松木 尊紀法

■2023年度のトピックス

第9回VHJ機構　臨床研修医・指導医交流会を主管病院として開催した。

第9回VHJ機構　臨床研修医・指導医交流会	参加人数
研修医	65名
指導医	25名
事務職員	10名

■事業報告

① 7月に出展したレジナビフェア東京のブース来訪者は19名、レジナビフェア大阪のブース来訪者は18名だった。石川県臨床研修病院オンライン説明会は35名が閲覧。

② 実習、病院見学の受け入れ実績
実習：7名、病院見学：5名

③ 3/22に臨床研修修了式を開催、2年次3名が修了した。3名全員が2年間で論文作成、学会発表を行った。

看護師特定行為研修センター

■部門代表者

鎌田 徹、本橋 敏美、松木 尊紀法

■2023年度のトピックス

令和５年度特定行為研修の組織定着化支援事業（厚生労働省）に参加した。

特定行為研修 組織定着化研修事業 内容	回数
ワークショップ	3回
シンポジウム	1回
フォローアップ研修	2回

■事業報告

① 10/4に、7期生7名と追加受講生2名が修了した。7期生のうち3名が外部施設からの受け入れであった。同日第8期生4名の受講を開始した。そのうち外部施設から1名が受講している。

② 院内の特定看護師は32名になった。

③ 1/1の能登半島地震により、1月と2月の集合研修を調整し、区分別科目を予定通り9月中に修了予定である。

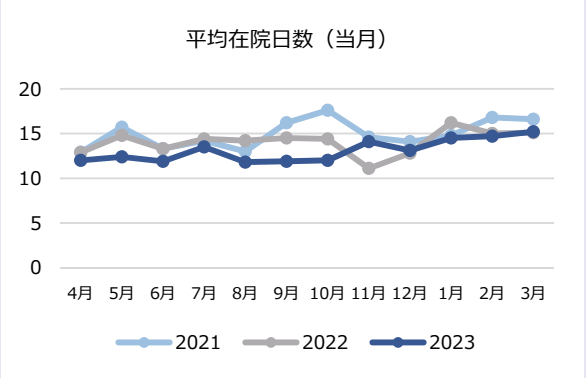
医療事業統括部門
恵寿金沢病院

恵寿金沢病院

■病院長
上田 幹夫

■2023年度のトピックス

2023年度の平均在院日数は13.1日であった。2021年度は15.0日、2022年度は14.1日であり、毎年ほぼ1日在院日数が短縮した。能登半島地震の被災者受け入れのため、2024年1月2月3月は整形外科、外科入院患者数が増加し、病院全体の在院日数は延長した。（下のグラフ）



■事業報告

① 延在院患者数の月別平均は、1,840人（2021年）、2,102人（2022年）、1,822人（2023年）となり、今年度は2021年度とほぼ同数であり、2022年度成績には及ばなかった。その要因としては医師の異動や、集患活動の差などがあげられる。

② 年間紹介患者数は、581人（2021年）、676人（2022年）、660人（2023年）であり、紹介患者数は増加傾向にあるが、2023年度は前年度よりわずかに減少した。

③ 年間逆紹介患者数は、832人（2021年）、1,116人（2022年）、1,244人（2023年）であり、毎年増加している。

④ 入院化学療法件数は、2,917件（2022年）、2,963件（2023年）と増加傾向にあり、外来化学療法件数も506件（2022年）、528件（2023年）と増加傾向にある。

⑤ 2023年10月に3階病棟で新型コロナクラスターが発生し、ゾーニングの必要性から一時的に新規入院を中止せざるを得なかった。前年2月には別の病棟で院内クラスター発生を経験しており、2023年はその経験を活かして病院運営への影響は最小限にとどめることができた。

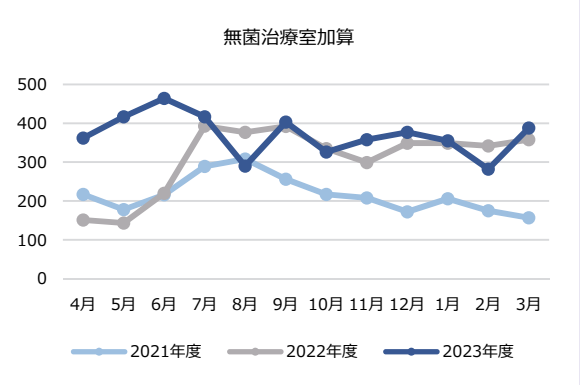
内科、血液疾患・骨髄腫センター

■所属医師

村田 了一、上田 幹夫、佐賀 務、齋藤 千鶴、髙橋 稚奈、畑田 達哉

■2023年度のトピックス

収益改善のため集患活動を行った。金沢大学病院の病棟再編により同院からの紹介が減少し減収の原因となった。石川県立中央病院も診療体制が変化するため、連携の改善・強化と集患を目指す。無菌加算の積極的取得は安定し収益の改善に有用であった。



■事業報告

① 連携先の診療体制の変化や加賀方面で血液内科の拠点病院ができるなどして、紹介患者数が減少した。これに対し積極的に化学療法を行うことで化学療法件数は維持することができた。看護部と連携し、造血障害期の症例で積極的に無菌室を利用することで無菌室加算の算定は良好に推移した。

・入院患者数：15,621人（前年比：85.9%）

・入院化学療法：2,963件（前年比：101.6%）

② 外来患者数に著変はなかった。分子標的療法剤の導入により外来の化学療法件数は増加した。

・外来患者数：9,832人（前年比：93.6%）

・外来化学療法：453件（前年比：116.5%）

③ 2024年6月のDPC移行に向け、使用する化学療法剤毎の至適入院期間の算出や、集患すべき疾患群の選定を行っている。

④ 移転に向けて石川県立中央病院からの患者紹介の増加は必須と思われる。互いに利となる病診連携ができるよう、先方の医師や地域連携室と協議を進めたい。積極的に当院を選んでいただけるよう、常に最新のガイドラインに沿った化学療法が提供できる体制を整えておく。

外科

■所属医師

道輪 良男

■2023年度のトピックス

エンド・オブ・ライフケア目的の新規入院は15例で、開業医の先生からの紹介も3例あった。前医では化学療法終了の説明であったが、化学療法再開を希望した症例が3例（20%）あり、当科で化学療法を行った。（胃癌、肺癌、副鼻腔）

2023年度エンド・オブ・ライフケア症例（入院）

症例数	15例
年齢（歳）	67-95（中央値：87）
性（男：女）	8：7
悪性：非悪性*	13：2
紹介**	10例（67%）
化学療法	3例（20%）

*原疾患：胃癌(4)、肺癌(3)、大腸癌(2)、膵癌(1)、肝細胞癌(1)、食道癌(1)、副鼻腔癌(1)、摂食障害(2)

**紹介元診療科：内科(3)、消化器外科(2)、呼吸器内科(2)、消化器内科(1)、耳鼻咽喉科(1)、泌尿器科(1)

■事業報告

① 患者数は、入院は若干減少、外来は若干増加した。

入院患者数：1,768人（前年比：56人減少、97.0%）

外来患者数：1,554人（前年比： 37人増加、102.4%）

② 手術（大腸内視鏡を含む）件数は181件（前年比：9件減少、95.3%）であった。

③ エンド・オブ・ライフケア目的の入院は17例（新規入院、15例、前年比：5人増加、141.7%）で、開業医の先生からの紹介も3例（33%）あった。副鼻腔癌の症例は当科で治療の相談をし、放射線治療後化学療法を行い、著明に腫瘍は縮小した。

④ 日本乳癌学会学術総会で内分泌療法に関連した甲状腺機能異常の発表をした。報告はされているが、ほとんど認識されていないことのようであった。

整形外科・リウマチ科

■所属医師

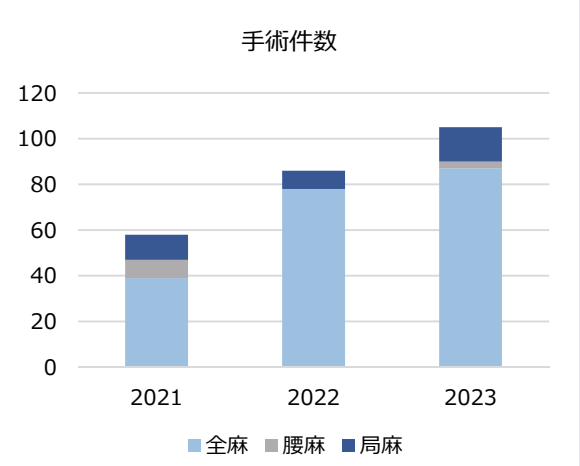
米澤 克隆

■2023年度のトピックス

手術件数　105件

（前年比　122.1%　19件増加）

※全麻件数　87件　前年比111.5%



■事業報告

① 2023年度7月より、1人体制での診療（それ以前は2人体制）を継続し、当院外来患者を中心に診療を行った。

② 金沢医科大学病院や県立中央病院などと病診連携を密とし安静加療目的の患者の転院を積極的に受け入れた。

③ 当院患者をはじめ近隣の開業医よりご紹介いただいた患者や救急搬送された患者の早期の手術加療を行う事が可能である体制を整えて、積極的に受け入れ手術数は増加した。

④ 入院患者数：4,376人
（前年比：596人減少、88.0%）

⑤ 外来患者数：6,724人
（前年比：418人増加、106.6%）

眼科

■所属医師

繰納 勉

■2023年度のトピックス

引き続き新型コロナウイルス感染状況に留意しながらではあり、白内障手術を取りやめた影響で入院患者数は半減、手術数は減少した。従来よりの涙道手術を中心に、金沢大学病院眼科の協力のもとでの角結膜手術を積極的に行った。

	2022年度	2023年度
手術件数 （手術室のみ）	192件	158件

■事業報告

① 入院患者数：113人（前年比：50.7%）

② 外来患者数：2,169人（前年比：92.1%）

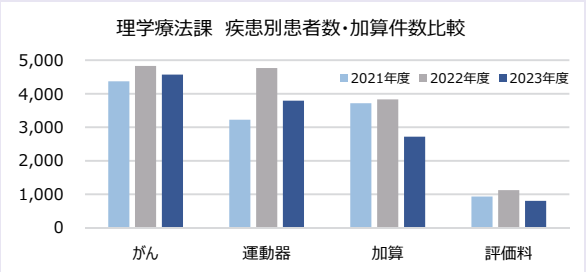
③ 手術件数：158件（前年比：82.3%）

理学療法課

■部門代表者

諏訪 勝志

■2023年度のトピックス



■事業報告

① PT実勤務者数は1名減であったが、リハビリ処方患者に早期から対応できるようにOTと連携し、理学療法を実施した。

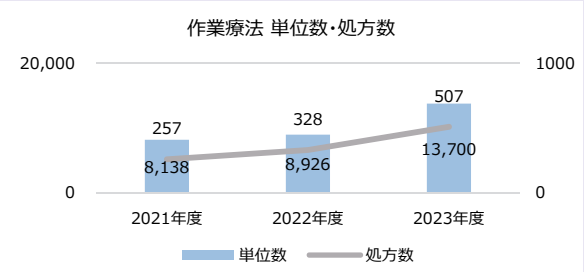
② 2名が登録理学療法士を取得し、個々のスキルアップ、提供される理学療法の質向上につながった。理学療法課80%が、登録理学療法士を取得している。

作業療法課

■部門代表者

東川 哲朗

■2023年度のトピックス



■事業報告

① OTの処方数は前年比55%増であった。

② 内訳では、がんリハ算定件数が前年比24.9%増。がんリハ算定可能者が1.5人から3.5人に増加したことでがんリハ患者のOT処方依頼を強化した結果とみる。

③ 認定作業療法士取得者が1名増。

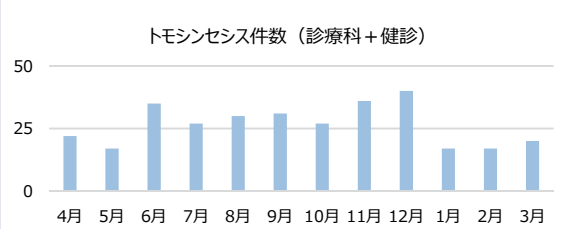
放射線課

■部門代表者

武村 真弓

■2023年度のトピックス

トモシンセシスを導入した。



■事業報告

① マンモグラフィ:968件　トモシンセシス:319件（受検率33%）

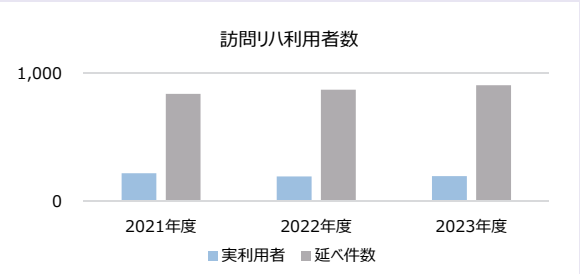
② マンモグラフィ撮影装置更新に伴い、トモシンセシスを4月より開始した。TQM活動で、健診科、検査課、管理課と協働でトモシンセシスを含む女性検診オプションの検査数増加を目指す取り組みを発表した。

訪問リハビリテーション事業所

■部門代表者

諏訪 勝志、東川 哲朗

■2023年度のトピックス



■事業報告

① 訪問リハビリでは、院内リハスタッフからの紹介が25件あり、13件が新規利用となり、入院時から連携でき、スムーズな退院・在宅生活へ繋げることができた。

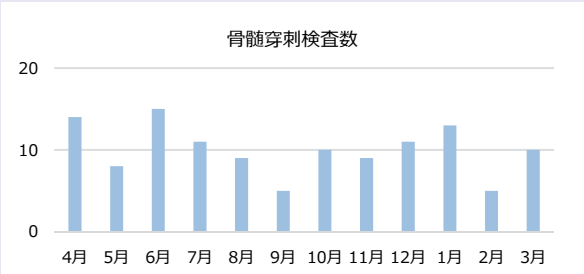
② 今年度より、PT・OT半日ずつ、および男女の担当者としたため、より利用者のニーズに応じた対応が可能となり、利用者獲得につながった。

臨床検査課

■部門代表者

長面 佳央理

■2023年度のトピックス



■事業報告

① 血液疾患患者の骨髄像カウント業務を120件実施した。

② 悪性リンパ腫や多発性骨髄腫等の血液疾患患者に対する自家末梢血幹細胞採取を13件実施した。

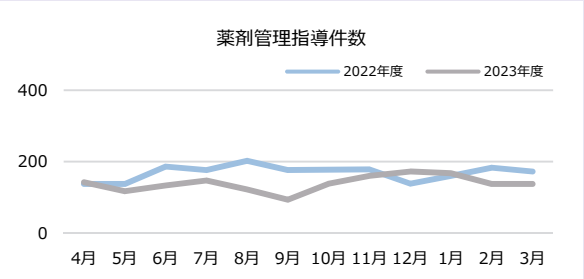
③ 院内での新型コロナウイルス核酸検査を830件実施した。

薬剤課

■部門代表者名

宮森 久志

■2023年度のトピックス



■事業報告

① 2023年度薬剤管理指導件数で前年度比82.3%

② 多発性骨髄腫患者に対する自家末梢血幹細胞移植レジメンのパス化を実施した。

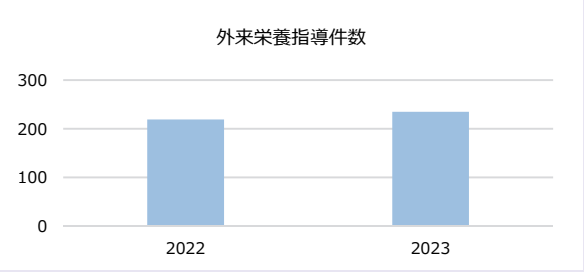
③ 化学療法関連ホームページを作成しイントラネット上で公開した。

臨床栄養課

■部門代表者名

阿部 さゆり

■2023年度のトピックス



■事業報告

① 糖尿病外来患者へ積極的に栄養指導を行った。外来カンファレンスに参加し、対象者を看護師と共有したことで前年度比107%と増加した。

② 市販品を活用した調理動画を作成し、外来患者へ案内を行った。患者の健康意識を高めるともに、待ち時間を有効に活用することに貢献した。

人間ドックセンター

■所属医師

上田 幹夫、土田 達、垣内 博成

■2023年度のトピックス

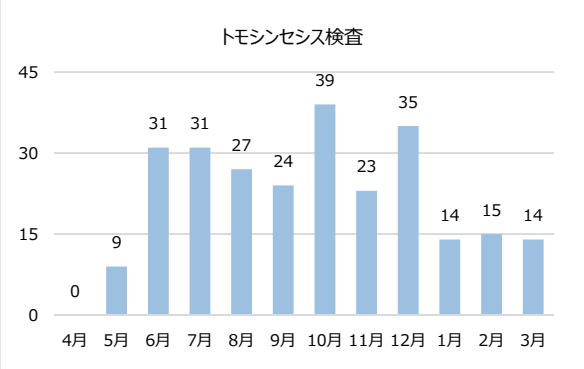
人間ドック受検者数 2,197人（前年度 2,206人）

男女比率 男性56.2% 女性43.8%

コース比率 1泊2日 74.2% 1日 17.2% 半日 8.5%

パーソナルヘルスレコード（カルテコ）登録者 462人

新オプション トモシンセシス受検者 283人



■事業報告

① 2023年度ドック受検者数は2,197人で前年度とほぼ同数であった。受検者数を月別でみると、例年夏場に多く冬場に少ない傾向にあったが、2023年度はそれがより顕著になった。受検者数のバランスが偏った原因は、ドック受検日の決定が会社（NTT）から個人に委ねられたことによるもので、2024年度は受験者枠の是正によりバランス改善を図った。

② 2023年5月のドック受検者数は124人で、前年84人、前々年2人から大幅に増加した。これは、NTTや協会けんぽに加入する企業に働きかけを行ったことによるもので、2024年度はその働きかけを強化する方針とした。

③ パーソナルヘルスレコード(カルテコ)の登録者数は、2023年度462人が登録され累計2,486人となった。対象者の約80%が登録完了しており、引き続き登録率の向上と受検者の健康増進に役立てていきたい。

④ ドック検査結果の報告発送までに要した日数は、2022年平均31.7日から2023年平均20.1日と大幅に短縮した。これは、検査結果コメントの簡素化や、業務の効率化など職員の努力によるところが大きい。

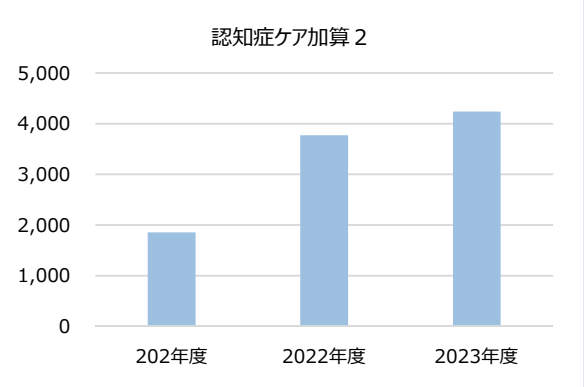
⑤ ドックオプション検査としてトモシンセシスを2023年度新たに導入し、283人の受検があった。

看護部

■看護部長
前大道 綾子

■2023年度のトピックス

今年度も、行った看護への評価という視点に立った加算取得へ向けて、院内の勉強会、意識合わせを行いスタッフ個々が意識をして取り組むことができた。認知症ケア加算は医事課と協働して取り組み昨年度より増加し、必要対象者はもれなく取得することができた。



■事業報告

① 稼働率の増加に向けて取り組んだが残念ながら、昨年度より低下した。しかし、各種加算が取得できるよう多職種で協働し取り組み加算取得が定着した。摂食機能療法に関しては、リハビリ課と協働し取得の向上を目指した。

② 2024年1月の震災により、能登地区で入院や自宅での生活が困難な方、手術適応を含む15名を受け入れた。

③ 病棟・外来の応援体制が活発化した。特に、病棟の人員の少ない時間帯（休日も含め）に外来スタッフの応援があり大いに手助けとなった。またお互いに気軽に業務を依頼する関係性ができた。

④ 5月に新型コロナウイルスは5類となったが、その対応は継続して行った。クラスターが2度発生したが、隔離期間で収束し大きな拡大はなかった。

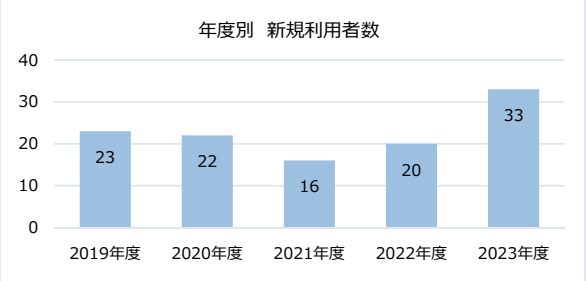
⑤ 外来は、患者の待ち時間対策の一つとして動画を作成した。脳トレを中心とした動画であったが、患者からは好評を得た。

⑥ 薬剤課と協働で自己末梢血幹細胞移植のクリニカルパスを作成し、業務の統一化が図れた。

けいじゅ金沢訪問看護ステーション

■部門代表者
籔内 照美

■2023年度のトピックス



■事業報告

① 年度別新規利用者数は　2019年度から開始して2023年度が33名と一番多い年であった。これは、毎月新規利用者を最低でも「１」は必ず獲得するように行った結果である。

② スタッフが1名退職したが、何とか訪問件数を落とさず増やすことができた。

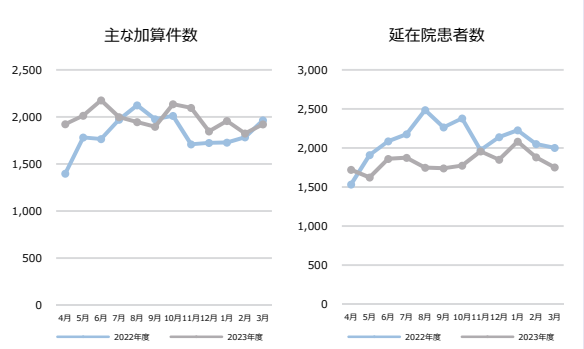
事務部

■部長

森田 均

■2023年度のトピックス

前年より見直した加算の算定について、継続したモニタリングを行い、算定可能なものを確実に算定するよう取り組んだ。2023年度は、前年に比べ、延在院患者数が月平均280人減少したが、主な加算件数は月平均150件増加した。事務部だけでなく、医師や看護師を含め、病院全体に加算算定の意識が浸透したと思われる。



■事業報告

① 7月に地域連携の集いを行い、日ごろ連携している病院医師・開業医・ケアマネジャー・地域連携担当等40名に集まっていただき、当院の取組みをアピールした。

② 紹介入院の多い近隣のクリニックや医療機関11カ所に対して、定期的に当院の空床状況をFAXでお知らせをした。特に紹介入院の多い医療機関2カ所に対しては、週1回訪問を実施し、紹介入院件数が前年度220件から252件へ32件増加した。

③ 新型コロナウイルスワクチン接種について、金曜日の午後を接種日と定め、年間を通じて受け入れを行った。

④ 主治医、院長、看護部、コメディカルなどと連携し、救急医療管理加算、無菌治療室加算、入退院支援加算、認知症ケア加算など、加算の安定した算定につなげた。

⑤ 病棟看護部の負担軽減のため、入退院書類処理など病棟クラークの業務拡大を行った。

⑥ 2024年6月開始のDPC請求に向け、システム事業者と打ち合わせ、勉強会、情報収集等を行った。今後は職員への説明会を実施予定。ホームページへの掲載、入院患者への周知を行い、スムーズな導入を目指す。

⑦ 2024年12月の保険証廃止に向け、マイナ保険証の利用促進に努めている。

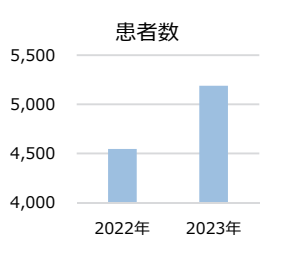
医療事業統括部門
クリニック

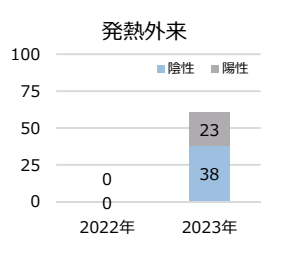
田鶴浜診療所

■所属医師
廣正 修一

■2023年度のトピックス

地域の健康管理に貢献するため、以前にも増して予防接種の施行に努めた。その成果があり、新型コロナウイルス接種及びインフルエンザワクチン接種数は前年度を上回ることができた。また、発熱外来の開始により、新型コロナ感染症の患者もかなりの数を診療することができた。しかしながら、2024年元旦に発生した「能登半島地震」により、当診療所の被害は甚大であり、年明けからは、田鶴浜地区の被害及び他の地区への避難などによる影響を大きく受けている。





■事業報告

① 治療効果の評価などを目的として、必要な検査を定期的に施行するように心がけた。外来患者数は、4,545人から5,189人と14%増加した。

② 地域の健康管理の為、ワクチン接種も積極的に行い、新型コロナワクチン接種とインフルエンザワクチン接種に特に力を注いだ。

③ 発熱外来を開始し、新型コロナウイルス感染症疑い例61件を診察し、うち23件は陽性例であった。

④ iPadを使用して、隣接する鶴友苑の通所リハビリテーション会議に積極的に参加した。4月から12月の9ヶ月間で166件に参加できた。

⑤ 「能登半島地震」による田鶴浜地区の被害は大きく、自宅損壊により、多くの人が自宅に住めなくなっている。そのため、田鶴浜地区の人口減少及び受診者数の減少が危惧される。

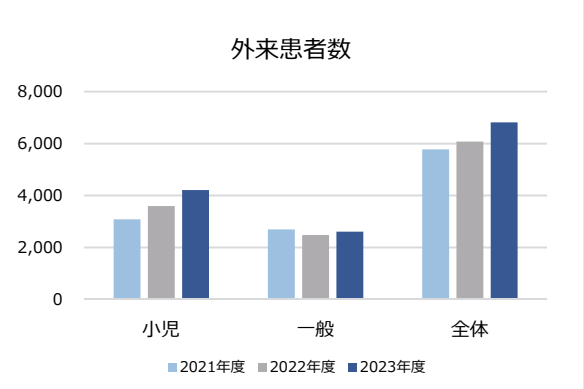
鳥屋診療所いきいき

■所属医師

斎藤 靖人、中谷 茂和

■2023年度のトピックス

外来患者数は、コロナ禍に突入して以降、年々回復しているが、コロナ禍前の水準には達していない。小児だけでみると、コロナ感染症ばかりでなく、アデノウィルス感染症やインフルエンザの流行により、各月の数は前年度と比べて顕著に増加し、コロナ禍前と同等数となった。



■事業報告

① 鳥屋診療所

診療日は、月曜、水曜、金曜の3日/週であった。小児科では中能登町の乳児検診も担当した。総外来患者数は7,155人で前年度と比べて5%増加した。ワクチン接種件数は、コロナワクチンが337件と前年度の810件と比べて59%と大きく減少。インフルエンザワクチンは679件で3%の減少であった。

② 通所リハビリテーションいきいき

コロナ感染症流行時の5/19～5/24の間は受け入れを停止した。また、能登半島地震発災直後は受け入れができなかったが、1/10から人数制限をすることなく受け入れを開始した。延べ利用者数は2,678人であり、前年度と比べて8.5%の減少となった。

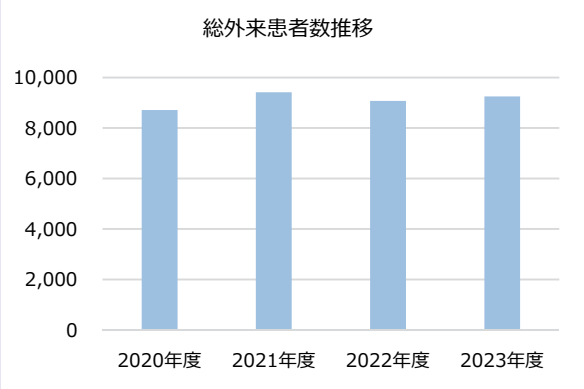
恵寿ローレルクリニック

■所属医師

吉岡 哲也、伊達岡 要、丸山 晃弘、上田 一輝

■2023年度のトピックス

総外来患者数は前年度に比べて増加し、特に訪問診療件数が増加した。新型コロナワクチン接種以外にも新たなワクチン接種にも対応した。今後も、恵寿総合病院訪問看護ステーションとの連携と強化し、終末期の訪問診療にも対応していく。



■事業報告

① 2023年度実績

総外来患者数：9,250人（前年度比102%）

訪問診療件数：804件（前年度比140%）

② 新型コロナワクチン接種

前年度に引き続いて、新型コロナワクチン接種対応を行った。

③ 感染対策について

本院感染制御センターとの連携で、感染防止体制の強化を行った。

④ 高血圧治療補助アプリの導入

通院と通院の間の生活習慣の修正をサポートするアプリの導入により、患者個別のニーズに合わせて、治療方法の多様性に対応した。

⑤ 今後の在宅医療について

在宅支援診療所として、がん患者の終末期診療に対応しており、今年度より、在宅がん医療総合診療料の算定施設となった。

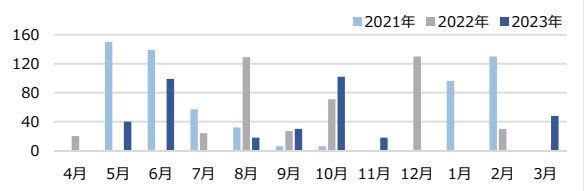
恵寿鳩ヶ丘クリニック

■所属医師

渡邉 博之

■2023年度のトピックス

今期も昨年に引き続き、主にコロナワクチン接種が事業の中心となった。年間接種件数は355件。



■事業報告

① 患者数934人（2021年度1,505人、2022年度1,236人）

② 新型コロナワクチン接種事業を始めとするインフルエンザ予防接種やクラスター発生時の対応等について、主に穴水ライフサポートセンター・介護医療院恵寿鳩ヶ丘職員を対象に、入所者の感染予防に万全を期した。

③ 主に恵寿鳩ヶ丘入所者のレントゲン・CT撮影を行い、病気の早期発見・治療に努めた。

介護事業統括部門

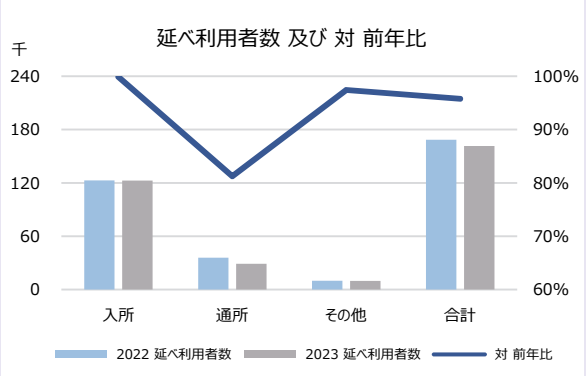
介護事業統括部門

■部門代表者

吉田 茂和

■2023年度のトピックス

本年度は新型コロナの5類移行に伴い、感染防止策などで利用が低迷した在宅サービス、とりわけ通所系サービスの回復に取り組んでいたが、1月に起こった能登半島地震の影響により、各事業ともに建物や利用者・職員などに大きな被害を受け、年度終盤はその対応に追われる日々が続いた。



■事業報告

① 石川県「介護技能グランプリ」 最優秀賞 受賞

これまでも独自開催してきた「けいじゅ介護技能グランプリ」において、優秀なスタッフを県開催の同大会に送り出してきたが、今年度はリハビリなど各専門職の更なる積極的な協力を得て「One 恵寿」で取り組んだところ、見事「排泄部門」において最優秀賞を獲得することができた。

② Foot活出前授業

董仙会のFoot活プロジェクトに共感を得た県立田鶴浜高校・西湊公民館・中島社会福祉協議会からの要望があり、出前授業を行った。これにより指導する各スタッフのスキル向上にもつながった。

③ 「介護職員初任者研修」 講師を担当

今年度から開催した「介護初任者研修」の講師に、当法人の介護福祉士9名が講師を担当した。指導を通して担当スタッフ自身の知識やスキルの整理や深化にもつながり、自身の専門性をより高めることにもつながった。

④ 介護DX・介護ロボット等の推進

昨年に続き、介護見守りロボットの増台を進めた。また、移乗支援ロボット「ロボヘルパー SASUKE」や新しいシャワー入浴装置「PAO」の新規導入を行った。

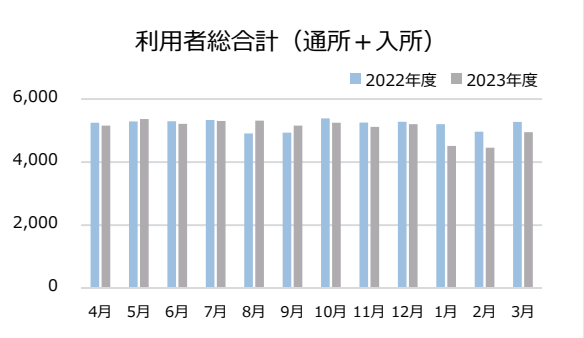
介護老人保健施設 和光苑

■部門代表者

平松 茂、奥本 健司

■2023年度のトピックス

介護DXを進めるため、機器の導入やデモ機の使用など色々試す事ができた。中でも従来型の特殊浴槽の代わりにシャワー入浴装置PAOを導入したことで、利用者の温浴効果が向上し、職員の入浴における負担軽減、効率の向上を図る事ができた。また、移乗支援ロボットSASUKEを導入し、腰痛予防、身体的負担の軽減ができた。



■事業報告

① 今期目標と達成度

入所稼働率98.2%（前年比 -0.2%）

目標98.4%（達成率 99.8%）

通所稼働率70.9%（前年比 -1.8%）

目標80.0%（達成率 88.6%）

入所は入院者やお看取りで亡くなられた方が多く、年末から年度末にかけて稼働が落ちたが、目標はほぼ達成できた。通所は年末にかけて増加傾向にあったが、震災で著しく利用者数が減少した。

② 教育研修

介護福祉士1名（高卒1）、技能実習責任者1名

技能実習指導員2名、技能実習生活指導員2名

介護福祉士養成施設実習指導者研修3名

スマート介護士1名、介護支援専門員1名

日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士1名

③ 今後の課題

通所の利用者数、稼働共に震災の影響を受けた。建物の仮復旧から本復旧に向け、現利用者もさることながら新たな利用者を開拓していく必要がある。また、来年度の介護報酬改定に向け医療との連携が重要課題となると思われ、Iot/Ictの更なる推進に取り組んでいく。

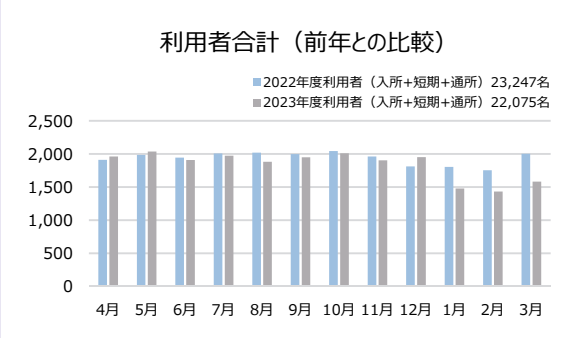
介護老人保健施設 鶴友苑

■部門代表者

廣正 修一、古木 恵実子

■2023年度のトピックス

2024年元旦に発生した「能登半島地震」による施設の甚大なる損傷、更にそれに続く1月末から3月初めにかけての、新型コロナ感染症クラスターの発生によるネガティブファクターにもかかわらず、職員一丸での取組及び頑張りにより、介護の継続を行うことができ、入所部門では前年を上回る稼働率を上げることができた。職員全員に感謝したい。



■事業報告

① 今期目標と達成度

入所稼働率 97.2%（前年比+1.5%）

利用延人数（入所：短期入所）：17,757名（前年比＋1.6%）

通所稼働率 76.0%（～R5.12：前年比-0.1%）

リハビリマネジメント加算B 379件（前年比＋193件）

認知症・短期集中個別リハビリ加算 191件（〃＋57件）

栄養改善・予防栄養改善加算 65件（〃＋7件）

口腔衛生管理加算Ⅱ 70件（〃＋70件）

所定疾患療養費Ⅰ 68件（〃＋34件）

緊急時施設療養加算 4件（〃4件）

② 在宅復帰率 平均61.1%

③ 介護ロボット見守りシステムNeosCare 5台導入(計10台)

④ 在宅介護支援センターの介護相談窓口・訪問件数 11件

⑤ 今後は入所部門の見直しにより、入所による収益の増加を図り、田鶴浜地区での収支の黒字化を目指したい。

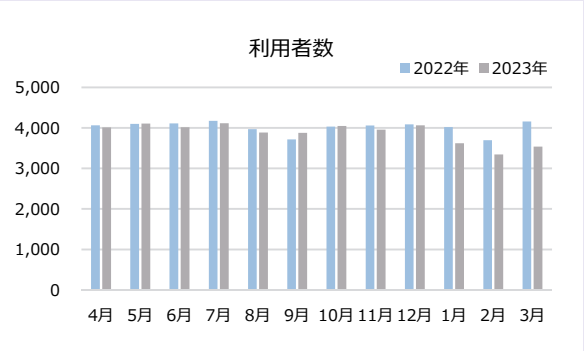
介護医療院 恵寿鳩ヶ丘

■部門代表者

渡邉 博之、岡田 亮一

■2023年度のトピックス

ACP、DX、インスタ等に取り組んできた。1月能登半島地震で、職員自身が被災者でありながら、全国からの応援も頂き、ご利用者を鳩ヶ丘で看続けることができた。コロナ感染もあったが、スタッフ一丸となって乗り越え、被災者の受け入れを積極的に行い、3月にはデイケアを再開。奥能登地域の貢献に寄与した。



■事業報告

① 年間延べ利用者数は、46,580人（前年比96.6%）

② 「アドバンスドケアプランニング(ACP)」の取り組みを継続。全日本病院学会にテーマ発表をした。テーマは「介護医療院におけるアドバンス・ケア・プランニングの仕組み作りと実践」

③ TQMテーマ「鳩ヶ丘におけるDXへの取り組み」を行った。DataLAB・各事業所との連携、プロジェクト・委員会の設置、研修会の開催、Teams・iPadを用いて会議・委員会の開催、RPA（勤務表、施設版排便マップ等）

④ BCPに基づく各種災害訓練の実施。
防災訓練（地震火災）今年度5回
感染対策訓練　今年度5回

⑤ 介護の質の向上（各種マイスター認定者増）
「ノーリフトマイスター」8名に増
「おむつマイスター」2名に増
「Foot活マイスター」3名を維持

⑥ コロナの周辺状況を見ながら、面会の緩和、外出、地域の文化祭への参加、春まつり・秋まつり等などの実施。

⑦ シルバー世代の採用をはじめ、多様な働き方の定着。Instagramを利用し鳩ヶ丘での働き方の魅力を伝えた。

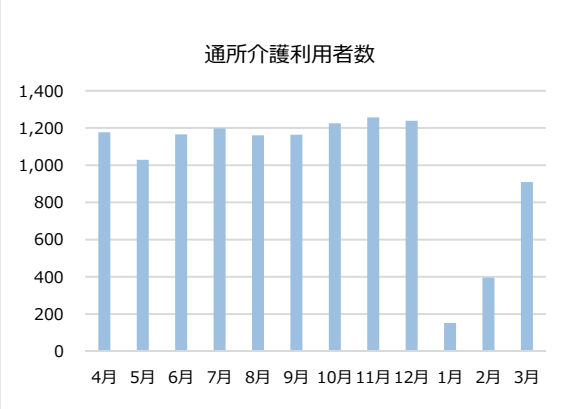
在宅複合施設 ほのぼの

■部門代表者

一谷 真澄

■2023年度のトピックス

今年度は利用者が在宅でいつまでも元気に生活できるようにと理学療法士・看護師・介護職が一丸となり取り組んできたが、1/1の震災により利用者の心身のバランスが崩れているのが現状である。



■事業報告

① 今期の目標と達成度
稼働率目標値：通所介護94.5%/短期入所91.6%
通所介護稼働率：73.2%　達成度77.8%
短期入所稼働率：83.3%　達成率90.9%
今年度は、1/1の震災により、通所介護はサービスの提供を止め、職員へのシャワー浴の提供や他施設の応援及び入浴場所の提供を行った。短期入所はサービスを止めることなく営業を続けることができた。

② 教育研修
Foot活マイスター2名、おむつマイスター1名が資格を取得し、業務や職員指導へと活かしている。今年度は、インスタグラムを学習したうえで開始し、現在は積極的にほのぼのの情報を発信している。

③ 今後の課題
震災により、利用者の心身のバランスが崩れている現状を心も身体（足腰）も元気になれる施設として地域へ向け発信していけるよう取り組む。また、短期入所では、夜間帯職員2人体制と共に介護ロボットの積極的な活用・導入により事故の減少につなげ、利用者が安心・安全にサービスを受けられる施設として提供できるよう体制を整えていく。

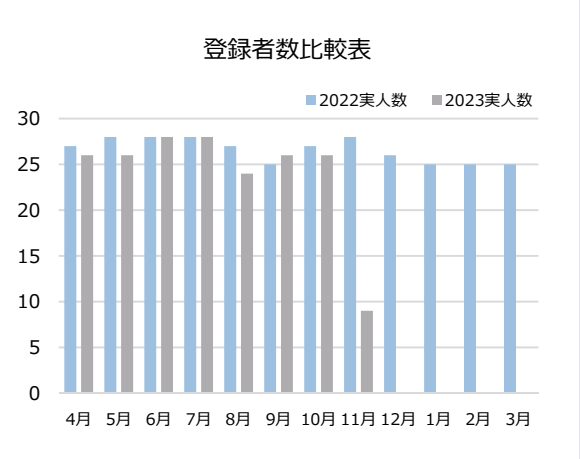
けいじゅ一本杉

■部門代表者

高木 ひとみ

■2023年度のトピックス

登録者数は前年度平均値26.6人。今年度前期は26.3人。今年度はインスタグラム開設等SNSを通じ、日々の活動や利用者の様子を投稿し、情報発信に努めた。



■事業報告

① 毎月、地域へ配布した「けいじゅ一本杉便り」に加え、インスタグラム等SNSにて情報発信を行った。地域行事に参加し「けいじゅ一本杉」をアピール。近隣住民からの利用相談増加に繋がった。

② レクリエーション活動を見える化し、利用者ご家族からは感謝の言葉をいただく機会が増え職員のモチベーションアップに繋がった。

③ 利用者のニーズに対応し定期的な移動販売車来訪による買い物支援や社会貢献できる場の提供など、地域の資源を活用した関わりにより、利用者のQOLの向上や自立支援に向けたサービスの提供ができた。

④ 教育研修
オムツマイスター1名、ケアマネ更新研修1名。県の介護グランプリに1名参加し、介護技術を披露した。

⑤ 「けいじゅ一本杉」は2023年12月末を持って営業を終了した。

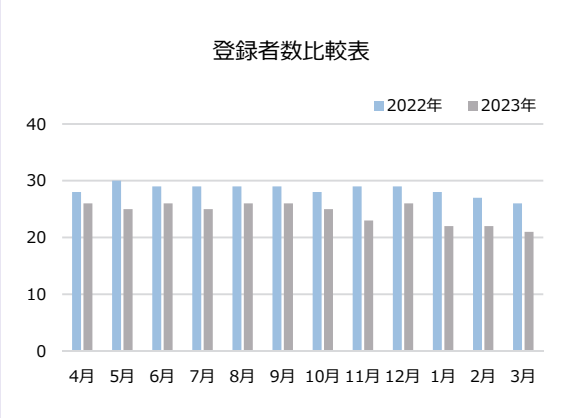
恵寿みおや

■部門代表者

愛徳 亜矢

■2023年度のトピックス

登録者数について、居宅事業所へのアピールを継続し、年間15名（前年比+6名）の新規利用者を獲得できた。今年度は、教養娯楽に力を入れて取り組み、利用者だけでなく、ご家族にも喜んでいただくことができた。



■事業報告

① 登録定員数29名のところ、月平均24.4名（前年比-4.0名）で達成率は84.1%であった。目標稼働率95%のところ、77.9%（前年比-16.3%）で達成率は82%であった。特に1月の震災以降は、サービスを縮小した影響もある。

② おむつマイスター1名、ノーリフトマイスター1名取得した。介護支援専門員1名更新研修を受講した。

③ 利用者の余暇時間の充実のために、製作・脳トレ・外出支援・フラワーアレンジメント・クッキングのサービスを計画的に実施した。また、その様子をSNSを利用して、ご家族に報告できた。

④ 地域住民の方々とともに、防災について学ぶ機会をいただき、段ボールの間仕切りの組み立てを体験したり、避難時の行動について共有できた。

⑤ 今後、職員を確保し、安全にサービスを提供していくため、同じ中能登町で通所と短期入所を展開する「ほのぼの」と事業を統合することとなり、「恵寿みおや」は3月末をもって営業を終了した。

ケアマネステーション恵寿

■部門代表者

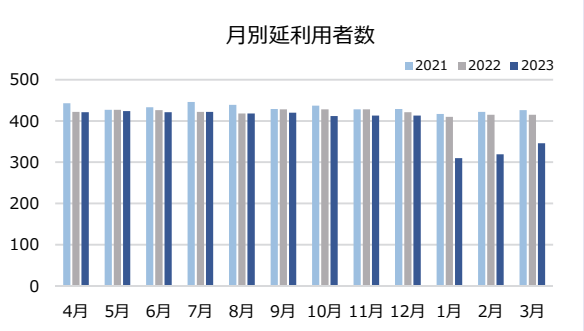
清水 光代

■2023年度のトピックス

① ケアマネジャー10.7名（昨年比1.1名減）で居宅介護支援業務にあたった。

② 6月「地域包括ケアステーション」が始動。ケアマネステーション 恵寿では、ローレルクリニック訪問診療のつなぎ役を担う。

③ 訪問診療へのつなぎ（20件/6-3月）



■事業報告

① 年間延べ利用者数 4,739人（前年比:93.6%）
新規利用者 123人（前年比:84.8%）
令和6能登半島地震により避難等にて利用者の減少あり。

② 加算
初回加算 114件
入院時情報連携加算 231件
退院・退所加算 230件
通院時情報連携加算 47件
ターミナルケアマネジメント加算 2件
医療との連携に注力し、通院時や入退院時には病院へ訪問し、病院職員との連携を図る。入院早期から情報連携を行い、早期退院に向け多職種連携とサービス調整により、在宅側より入退院時の後方支援を行った。

③ 「気づきの事例検討会」 年4回実施
介護支援専門員の資質向上に努めた。

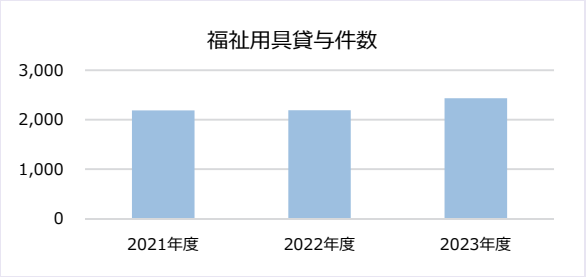
④ 資格
主任介護支援専門員 6名（うち1名資格取得）
介護支援専門員 5名（うち1名更新研修受講）

レンタルステーション恵寿

■部門代表者

安井 智美

■2023年度のトピックス



■事業報告

① 「めぐみニュース」を通じて、めぐみの取り組みや取り扱い商品を法人内外の各事業所並びに職員に周知し、利用促進を図った結果、福祉用具のレンタル件数は前年比10%増加。

② 日計業務のRPAが1体稼働し月5時間の業務時間削減、レセプト業務のRPA1体検証中。

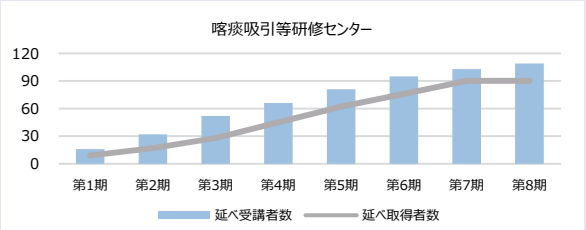
喀痰吸引等研修センター

■部門代表者

吉田 茂和

■2023年度のトピックス

受講者と資格取得者の推移



■事業報告

① 2017年度に開講してから、今年度で第8期を迎え、これまでに延べ109名の修了生を輩出した。

② 本年度は秋の開講となったことから、実地研修開始が年末からとなったが、年明け早々の震災の影響もあり思うように研修が進まなかった。

社会事業統括部門

社会事業統括部門

■部門代表者

神野 厚美、進藤 浩美

■2022年度のトピックス

地震発災後の食事提供

1/1-1/3	各施設に届けられている副食と非常食で対応
1/3-1/7	主食は支援物資、副食はデリカでの製造済みを利用
1/7-2/28	三重県花井工場で3日サイクル献立製造、デリカにて仕分　2/4～7日サイクルに変更
2/16-	デリカにてミキサー、ソフト食、小鉢、通所サービス分製造開始
3 /1-	デリカにてすべて製造開始 3/3～14日サイクル、4/15～15日サイクルで開始

■事業報告

① 医師会立七尾看護専門学校の経営協力に、事務長の出向、医師・看護部・医療技術部から講師を派遣。

② 震災後、応急復旧について、施設管理の大成有楽不動産の協力を得た。貯水タンク、配管の復旧により、タンクへの給水支援にて、事業を再開できた。

③ デリカサプライセンターで5,000食/日のおかず製造が止まらないように、機器の更新・修理、BCP対策を行った。

けいじゅデリカサプライセンター

■部門代表者

神野 厚美、進藤 浩美

■2022年度のトピックス

厨房機器の継続:パートナー企業による修理

月	件	不具合　合計40件
4月	6	スチコン3件、ガスブレージングパン、回転釜、ロボクーブ
5月	10	ガスブレージンパン、ティルディングパン、冷凍庫2件、ブラストチラー2件、食洗器、冷凍庫室外機、スチコン、ロボクーブ
6月	3	フードスライサー、スチコン、コールドテーブル、冷凍
7月	9	カート、冷蔵庫2件、コールドテーブル、ブラストチラー、スチコン4件
8月	2	プレハブ冷蔵庫、ロボクーブ
9月	3	ガスブレージングパン、スチコン用ラック、冷凍庫
10月	4	ネギマシン、スチコン用グリッド網、野菜洗浄機、食洗器
11月	2	製氷機、食洗機
12月	1	スチコン

■事業報告

① 6月、BCPとして4企業に協力検討しており、震災時、三重県花井工場から協力申し出があった。けいじゅヘルスケアシステムの食事を製造するために、自社製品を縮小いただいた。全国のシダックス職員が、三重県の工場支援に集結してくれた。

② 福井県木村病院、東京都IMSグループの見学対応実施。

七尾看護専門学校

■事務長

山崎 茂弥

■2022年度のトピックス

29名が卒業し、能登地域の病院には10名（内 恵寿総合病院4名）就職した。加賀地域の病院が11名、病院以外への就職が1名だった。

卒業生の就職先

	能登（董仙会）	加賀（董仙会）	富山県	福井県	他県	病院以外	進学、その他	合計
2020	23 (11)	6 (1)	0	1	3	1	2	36
2021	24 (9)	11	2	0	2	0	2	41
2022	14 (7)	11	0	0	0	1	0	26
2023	10 (4)	11	1	0	2	1	5	29

■事業報告

① 出願者数36名、受験者数35名、入学者数28名と昨年より2名増加した。出身別では、能登北部1名、能登中部14名、石川中央7名と県内は22名、県外は6名であった。新入生のうち能登中部は50%であった。

② 入学生確保のため、11月18日推薦入学試験、1月18日一次入学試験、2月15日二次入学試験を実施した。なお、地震の影響により一次入学試験は他施設で実施した。

③ 1月1日能登半島地震発生。学生・職員全員の無事を確認した。学生は、1年生3名、2年生1名、3年生1名が避難所にいた。

④ 建物の安全を確認後、授業開始に向け準備を開始した。校内は温水器の配管破裂による水漏れや敷地内の損壊などの被害があった。市からの給水支援により1・2年生は1月22日よりオンライン授業を開始した。一部の学生は登校した。

⑤ 3年生は1月10日より国家試験対策を実施したが、合格率は82.7%となり、全国平均87.8%を下回ってしまった。

⑥ 董仙会の修学資金を受けている学生は、1年生4人、2年生9人、3年生3人である。

徳充会

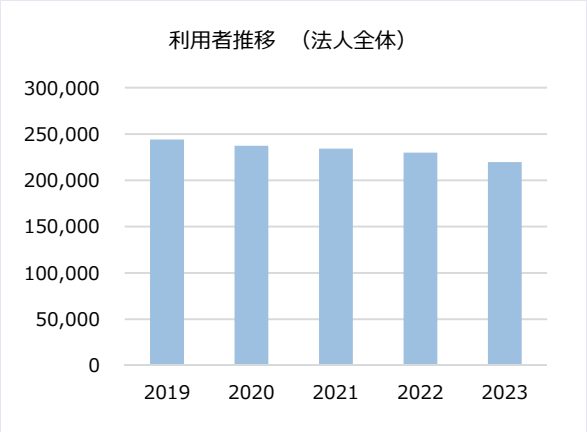
徳充会

■部門代表者

今寺 忠造

■2023年度のトピックス

年度前半はアフターコロナを意識しながら、新しいサービスの創造・構築を目指して取り組んだ。能登半島地震の被害は甚大で、各事業所・持ち場で最善の努力したが、その利用率等の影響は極めて深刻な結果であった。



■事業報告

① 「渦の中心になれ！」とアフターコロナを意識し、各事業所が感染症予防に対応しながら、それぞれの強みを生かし新しいサービスの創造・構築を目指して取り組んだ。大震災の影響を受け、各事業所は対応に追われ現在に至っている。多くの応援と支援に感謝している。

② 障害者事業局：入所は年々高齢化し、重度・医療的ケアのニーズが高く、入院が多くなっている。通所系は日中活動、働くニーズが高い。身体系より知的・精神の利用ニーズが高くなっている。震災で精育園は入所を休止。

③ 高齢者事業局：特養の入所は施設内感染予防を徹底した。通所は、感染症・震災の影響を強く受けたが、ポイント制度やFoot活、グルメ戦略など、笑顔や達成感のあるサービスを提供した。訪問看護とヘルパーの連携強化を行った。震災でエレガンテたつるはま、ふれあいの里は甚大な建物被害で、再起不能。

④ 事業局：介護職員処遇改善加算による賃上げ・年度末及び月次手当支給・臨時特定交付金を支給。SDGsの実践推進、補助金の受入と申請、コンプライアンス委員会の設立、法人内応援体制の拡充、インボイス制度の対応を実施。

⑤ 地域貢献：アフターコロナで、できる範囲で実施した。

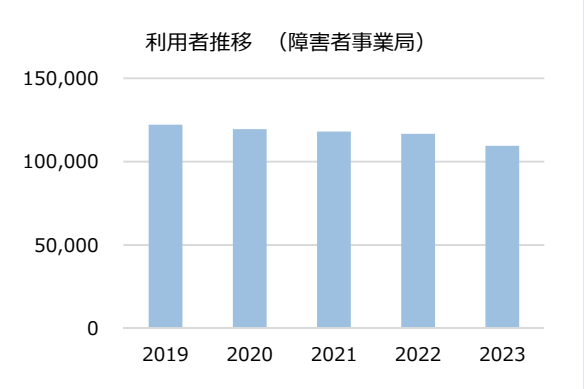
障がい者事業局

■部門代表者

今寺 忠造

■2023年度のトピックス

全事業所、「渦の中心になれ！」を意識し、アフターコロナに向けての対応、感染予防と、時代に見合った取り組みを行った。大震災により、各事業所甚大な建物被害があり、各事業所その対応に追われた。震災後各事業所、苦戦が続く。人的被害がほとんどなかったことは奇跡的である。



■事業報告

① さいこうえんの障害者支援センター：リハセンター同一敷地内2年目、引きこもり・8050問題の普及、職場定着の支援強化、被災地支援。

② セレェーナ青山：現状維持

③ 青山彩光苑リハビリテーションセンター：機能訓練12名に変更、七尾市任意生活事業生活訓練14名開始。

④ ワークセンター田鶴浜：リサイクル・軽作業・洗濯事業は順調に稼働、震災で水耕・土耕の配管設備被害甚大。

⑤ 青山彩光苑ライフサポートセンター：コンビニ外出・自治会テイクアウト企画、アイスの自販機などサービス提供の開始。震災での緊急避難等の受入。

⑥ 青山彩光苑穴水ライフサポートセンター：アフターコロナを意識し、生け花教室、マッサージ・買い物・傾聴ボランティア、出張販売・訪問販売の活用、全国国民文化祭の参加、全国身障協から約2か月で28名の人的応援を頂いた。

⑦ 石川県精育園：風通し良い職種づくりの推進、地域交流活動の再開（高校生・園児との交流）、いしかわ百万石文化祭に積極的参加しアートの魅力を発信した。震災後は、多くの応援をいただき継続中である。グループホームは、地域の避難所として多くの住民を受け入れた。

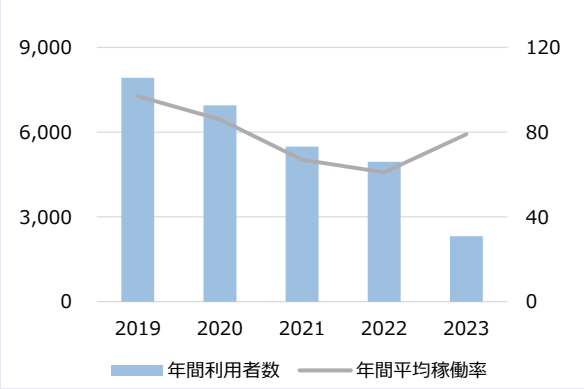
障がい者事業局　青山彩光苑
青山彩光苑リハビリテーションセンター

■部門代表者

久保 奈保

■2023年度のトピックス

2023年4月より、自立訓練（機能訓練）事業の定員を12名に変更した。新規事業として七尾市任意事業地域生活支援事業生活訓練（機能訓練）定員14名を開始した。



■事業報告

① 目標と達成度

機能訓練稼働率を100%以上とする。

→79%であったため、達成度としては79%

就労移行支援稼働率を100%以上とする。

→49%であったため、達成度としては49%

生活訓練（機能訓練）稼働率を100%以上とする。

→ 90%であったため、達成度としては90%

② 就労移行支援事業については、４名の利用者が就職し、6か月以上の定着者も3月時点で７名と高水準の結果となった。このことから次年度も報酬単価最高値となった。

③ 近年体調と気持ちのコントロールに課題がある方の利用が増え、欠席が嵩んでいることや、短期間で就職するケースもあり、稼働率の維持に苦慮したが、4月以降の新規相談が複数名あり、稼働率の上昇に向けて取り組んでいる。

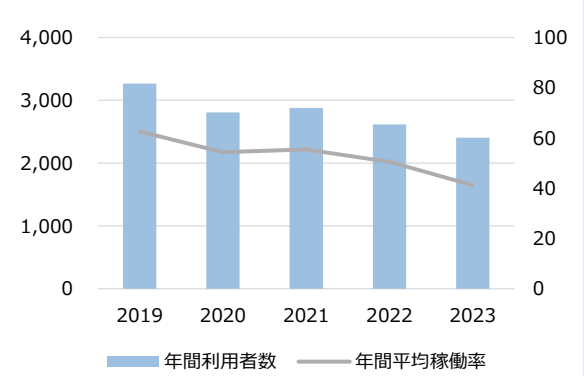
障がい者事業局　青山彩光苑
さいこうえんの障害者生活支援センター

■部門代表者

前田 奈津子

■2023年度のトピックス

今年度は地域に出向いての支援を中心に展開したことで、地域住民にとって身近な存在となり、あらゆる面で交流・連携することができた。地震後1か月は地域活動支援センターの運営をストップし、断水が続く状況下で利用を見合わせる利用者も多いことから稼働率は大幅に低下している。



■事業報告

① 地域活動支援センターは今年度も七尾市・中能登町からの委託を受け、Ⅰ型事業を実施している。今まで以上にボランティアや地域の行事参加など、地域の一員として積極的な活動を実施した。地震の影響で2月からはライフサポートセンターに移転となり、活動も縮小しており、1月以降は作業活動が無いため利用者の工賃の支払いはできていない。

② 相談支援事業（指定特定・指定一般・指定障害児）は、障がいのある人の様々な相談に応じ必要な情報提供、障害福祉サービス利用等の支援を行った（年間相談件数 5,768件）。ひきこもりや8050問題について当事者支援のみならず、地域に出向いての普及活動を実施している。地震以降は行政や県内外の機関と連携しながら被災者支援を実施している。

③ 障害者就業・生活支援センター事業は障がい者・企業からの就職に係る相談・職場定着に係る相談、これらに伴う生活の相談を受け、その課題解決に向けて必要な情報提供、助言等の支援を実施した（年間相談件数2,193件、就職件数26件、職場実習研修27件）。

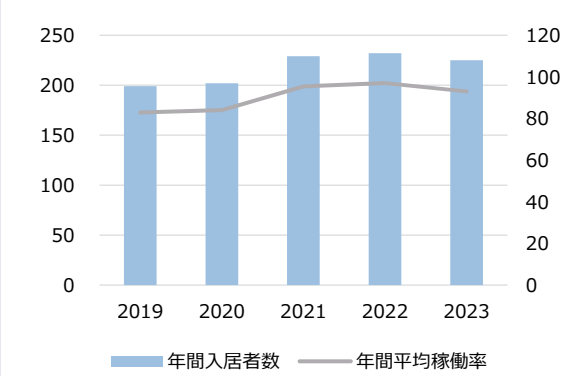
障がい者事業局　青山彩光苑
バリアフリーホーム セレーナ青山

■部門代表者

久保 奈保

■2023年度のトピックス

2023年4月は18床から開始し、2024年4月末には19床の稼働となった。多少の入退居はみられたが、年間通じて定員20名に対し、17～20名で推移した。



■事業報告

① 退居２名、新規入居者は3名であった。（うち1名の入退去は震災関連）年間平均稼働率は前年比4%の下降となった。

② 入居者の法人内サービス利用の内訳

※重複利用を含む

【障害者活動系】

リハビリテーションセンター：7名

ワークセンター田鶴浜：4名

障害者生活支援センター：1名

就業・生活支援センター：4名

【生活支援系】

ローレイルハイツ恵寿（ホームヘルプ）：5名

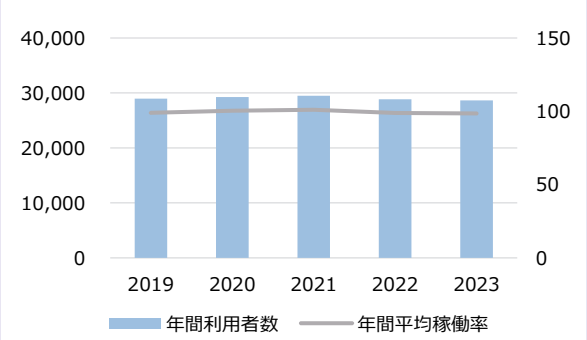
障がい者事業局
青山彩光苑ライフサポートセンター

■部門代表者

瀧野 利徳

■2023年度のトピックス

施設に居ても当たり前に体験できるサービスとして、個人でのコンビニ外出や自治会主導による食事のテイクアウト企画を当施設の標準化サービスと位置づけ導入した。また、アイスクリームの自動販売機を設置するなど、障害者施設の固定観念を打破し、「当たり前」を経験できるよう努めてきた。



■事業報告

① 日中の生活介護事業の稼働率は104%で、前年比98.8%であった。施設入所は99.6%の稼働率で、目標とした100%にわずかに届かなかった。短期入所の稼働率は55.7%で前年比104.7%の結果を残すことができた。

② 1月の震災直後より、長期の短期入所利用者3名を受け入れ、うち１名が入所に移行した。また、通所事業は1月9日から再開し、入浴以外のニーズに対応してきた。

③ 発災当日に地元住民12名と観光に訪れていた新潟県の2名の避難を受け入れ、地域交流ホームで一夜を過ごしてもらう。また、七尾市からの要請で、最重度の身体障害者とその家族3名に、自宅の停電と断水解消まで居室を提供した。

④ 障害者総合支援法の特性を生かした取り組みとして、退院後に当法人のリハビリテーションセンターの利用を希望する方の住まいの場として、施設入所支援を提供した。

⑤ その他、入所者への支援では、個のニーズを満たすことを意識し、資格取得に向けた取り組みなどをサポートしてきた。

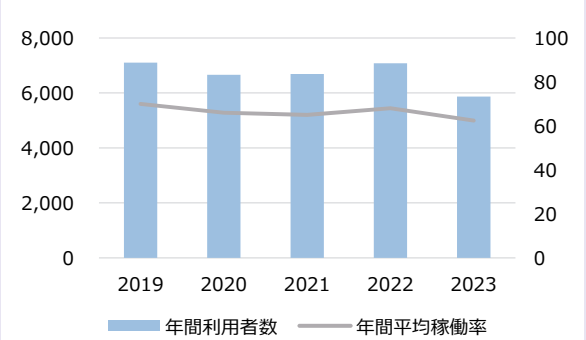
障がい者事業局
青山彩光苑ワークセンター田鶴浜

■部門代表者

細木 俊逸

■2023年度のトピックス

延べ利用者数は、稼働率目標70%に対し、62.4%で昨年度と比べ5.9％減、利用者数は5,870名で昨年度より1,208名減となった。震災後の1月～3月利用者数が669名で昨年度に比べ1,106名減となった。3月の時点では80%程度の利用者が戻ってきている。4月中旬を目途に、すべての利用者が戻ってくる見込みである。



■事業報告

① 新規利用者は3名、退所者は6名であった。2名は本人の希望、4名は1月の震災の影響での退所であった。2024年3月31日現在の利用者数は30名であり、各事業において精力的に作業に取り組んでいる。新規受け入れの際、利用者が行う作業は、事前に実習を行い、本人の希望、作業適正などをふまえて作業する内容を決定し作業を行ってもらっている。

② 授産事業においては、リサイクル、軽作業（菓子箱など）、洗濯事業については2024年1月の震災の影響を受けながらも作業に従事している状況である。また、利用者がスムーズに作業を行えるよう作業環境を見直し事業をすすめている。土耕に関しては、パプリカの生産を行い、地元スーパーの地産地消コーナーに出荷して売り上げを伸ばすことができた。震災後は花の栽培を行い、事業を継続している。水耕においては、震災前は地元スーパーや学校給食にねぎ美人、水菜を順調に出荷することができた。震災により、設備の被災状況が甚大であるため復旧は困難であると判断して廃止することとなった。水耕に従事している利用者に関しては、他の事業に配置転換を行い、作業を行うこととしている。

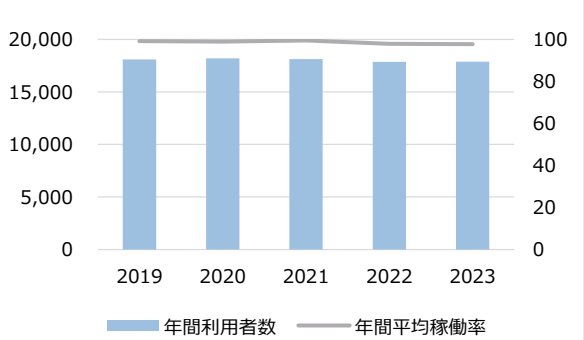
障がい者事業局
青山彩光苑穴水ライフサポートセンター

■部門代表者

今寺 忠造

■2023年度のトピックス

本年度はコロナとインフルエンザ感染発生ならびに震災の影響を最小限にするよう努力した。利用者支援はアフターコロナを意識し、地域のボランティアの受入や移動販売、障害週間イベント、地域資源を活用した活動を実施した。業務効率改善や支援の活用を目的に、全館Wi-Fiを整備した。震災後、身障協から約2ヶ月間で28名の応援を頂いた。



■事業報告

① 施設入所を1室増の52室、短期入所を1室減の5室に変更した。施設入所支援事業は、目標稼働率100%に対し97.7%で年間通して入院者が多く、通所事業は目標稼働率90%に対66.7%で感染症や震災の影響が大きく関与した。短期入所事業も、目標稼働率70%に対し60.7%と長期利用者がいたものの感染症や震災の影響が大きく関与した。

② コロナ禍以前に行っていた、マッサージボランティアや生け花教室を再開、さらに買い物サポートボランティア活用した買い物外出、地域の支援バスの活用した外出、出張販売や訪問販売、傾聴ボランティアの導入を行い、地域資源を活用し活動の幅を広げることができた。

③ 全国国民文化祭「いしかわ百万石文化祭2023」が開催され、作品応募等に向けた支援に取り組んだ。自他の作品展示を鑑賞し、日頃の創作活動への意欲にもつながった。

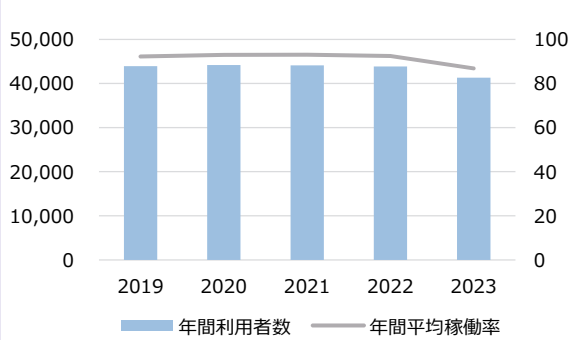
障がい者事業局
石川県精育園・自立ホームけいじゅ

■部門代表者

今寺 忠造

■2023年度のトピックス

アフターコロナを意識しながら、感染防止対策を継続し、面会や外泊等の規制緩和、ボランティアの受入れ、地域交流活動の再開、いしかわ百万石文化祭等に積極的に参画した。震災は甚大な建物被害があったが、奇跡的に人的被害は一人もなかった。物資・ボランティア等たくさんの支援をいただいた。



■事業報告

① 精育園の生活介護事業は、目標稼働率100%に対して90.5%。施設入所支援は、目標稼働率95%に対して86.8%で達成率は91.3%。2024.1.1能登半島地震により甚大な建物被害が生じ、全利用者を一時避難、他施設へ転所させる必要があり、稼働率の低下につながった。グループホームは現状維持。

② 風通しの良い職場づくり、職員の心理的安全性を高める取り組みとして、WEBによる意見収集と共有、個別面談（年3回以上）を実施した。

③ 意思決定支援の取組みでは、職員勉強会の実施、利用者が日中の過ごし方を選択できる環境設定を行った。

④ 健康相談カフェを月１回開設し、利用者が看護師や管理栄養士と個別相談できる機会を提供し安心に繋げた。

⑤ 利用者サービスにおいて、7月より金銭管理料の徴収、必要な全利用者へのオムツの無償提供を開始し、法人内他施設との整合性を図った。

⑥ いしかわ百万石文化祭では、昨年度のプレイベントに引き続き参画し、地元企画者と協力して障害者アートの魅力発信を行い、イベントの盛り上げに寄与した。

⑦ 利用者の日々の生活の楽しみやご家族および地域住民とのつながりの拡大を図った。

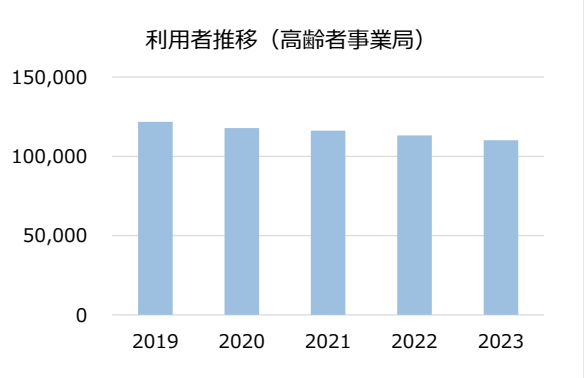
高齢者事業局

■部門代表者

吉田 茂和

■2023年度のトピックス

年度前半は、新型コロナの5類移行に伴い、地域交流などの段階的再開や在宅サービスの充実に注力したが、1月の能登半島地震を機に、在宅系サービス、特に通所サービスの中断・縮小を余儀なくされ、年度終盤は建物被害を含め、各種サービスの復旧対応に追われる日々が続いた。



■事業報告

① エレガンテなぎの浦・アンジェリィなぎの浦：新型コロナは5類へと移行となったが、入所事業は変わらず施設内感染やクラスターを防ぐための防止策徹底を継続した。通所事業では新たなポイント付与制度「エレナギー」やFoot活プロジェクトを活用し、笑顔や達成感のある利用者増に努めた。

② エレガンテたつるはま・もみの木苑：特養は稼働が不安定なところへ震災が加わり、建物が壊滅的な被害を受け、年間の利用率は前年を下回った。もみの木苑もコロナ禍からの脱却に努めたが、震災によるサービス中断などにより、利用率に大きな影響を受けた。

③ ふれあいの里：通所事業は利用者の主体性を促すことでコロナ禍からの活動回復に努め、比較的順調に推移していたが、他の事業所と同様、1月の震災の影響により、事業の中断・縮小せざるを得ない状況となった。

④ ローレルハイツ恵寿：年度の前半は退去者が多く対応に苦慮したが、独自のキャンペーンや「居ながらグルメ」「お出掛けグルメ」など、満足感向上に取り組むなどして回復に努めた。ヘルパー事業では訪問看護ステーション等との連携強化が図られ、迅速な情報共有や専門性の向上などに良い効果が見られた。

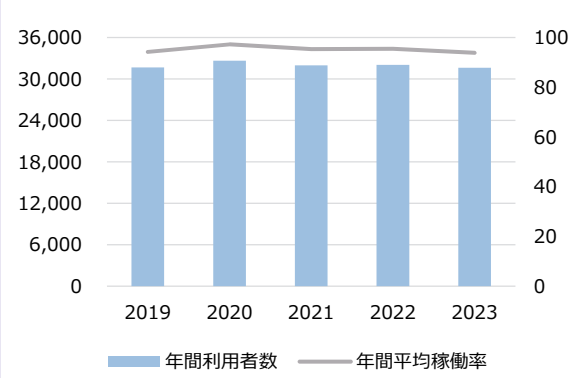
高齢者事業局
エレガンテなぎの浦・アンジェリィなぎの浦

■部門代表者

藤澤 優子

■2023年度のトピックス

入所は、入院延べ人数が昨年度に比べ増加。稼働率は、93.8%であった。ショートステイは、コロナクラスターで、受入中止もあったが、稼働率は87.3%となった。ケアハウスの稼働率は、99.7%であった。通所介護は、徐々に稼働率が上昇したが、1月の震災による休止で大きく影響したため低下した。



■事業報告

① 入所事業は、コロナクラスター発生や拡大を防ぐため、施設内感染防止対策を徹底することにした。また、大きな行事の再開はできなかったが、フロアごとで季節ごとの行事や調理支援、外出支援等提供した。

② タブレットの活用にて、LINEを使用したオンライン面会の継続や映像の提供の実施した。また、本年度はインスタグラムを開設し、入所、通所問わず施設の取り組み、行事、利用者の笑顔など幅広く発信することができた。

③ 通所事業では、Foot活プロジェクトを推進し、万歩計を活用して目標を目指すことで、自主訓練にもつながっていた。また、活動に応じてポイントが付与される「エレナギー」を開始し、利用者の目的や達成感等に繋げることもできた。

④ 今年度は、介護DXの取り組みとして、支援機器の導入に向けて様々な機器のデモ機を使用した。今後、業務改善への取り組みをテーマに、利用者、職員の笑顔を増やしていきたい。

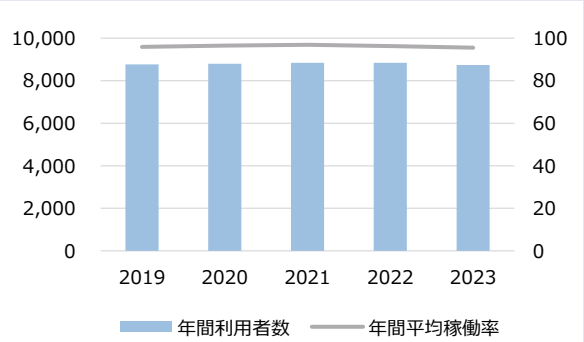
高齢者事業局
エレガンテたつるはま・もみの木苑

■部門代表者

芳原 哲弥

■2023年度のトピックス

2024年1月に発生した能登半島地震において、エレガンテたつるはまは建屋が傾き、利用者全員、青山彩光苑に一時避難を実施した。稼働率は95.5%で前年度より1ポイント低下した。もみの木苑も1月・2月と営業を実施できず、3月に一部営業を再開したが、登録者数が半数近くに減少した。年間稼働率は50.8%で前年同より大きく低下した。



■事業報告

【エレガンテたつるはま】

① 年間通して入院者が絶えず、稼働率も安定しない月が多かった。2024年3月には事業所の閉所が決定、他事業所への移行支援を開始する。

② コロナが第5類に移行してからは、地元のイベントや祭り等への外出の機会を増加させた。

③ デジタル・リモートを活用し、家族との絆をつなぐためにZoomやLINEを使用した面会や映像等の提供等を実施した。

【もみの木苑】

① Foot活プロジェクトの参加利用者9名。

② クラブ活動・カルチャー教室のプログラムを11種類提供した。利用者は参加したいメニューを選択し参加するスタイルとして実施、参加した人にはポイントを進呈することで意欲の向上を図った。

③ 毎月2回、珈琲喫茶を営業し利用者に楽しんでいただいた。エレガンテたつるはまの利用者も営業日には来所され、珈琲を楽しまれていた。

④ 利用の利便性を図るため半日利用や延長利用、前倒し利用などを実施、それぞれ数名の希望者が自らの都合に合わせてサービスを利用していただいた。

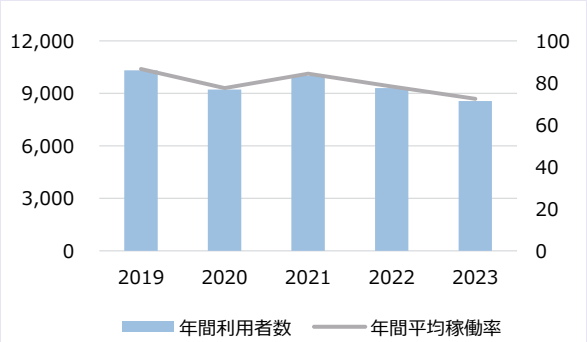
高齢者事業局
ふれあいの里

■部門代表者

江澤 恵太

■2023年度のトピックス

通所介護は、目標稼働率87%に対して、72.5%であった。訪問入浴は、目標稼働率85%に対して67.4%。12月までの稼働は好調で各事業共に目標稼働率に近い状況であったが、震災の影響により、やむなく事業休止となった。事業再開はしたものの、以前の7割程の利用数となっている。



■事業報告

① 通所介護事業は、支援・取り組みを選択して利用される方が増え、震災までは稼働率目標達成に近い状況であった。通所介護の活動として、利用者自ら選択をして、1日の活動を充実したものにするシステムを構築。プログラムの多様な選択肢により興味を引き出し、通所介護に通う目的を見出すことで、心身機能維持や生活への張り合いを持っていただくことができた。取り組みを行った後の披露や評価、権利等を付加価値としたプログラムを創意工夫し取り入れた。一つの活動をすれば、ポイントや施設内通貨が付与され、頑張って取り組んだ方限定で外出等の権利取得や表彰等による賞賛の機会の提供など、単発ではなく、つながる活動を実施した。

② 訪問入浴事業は、昨年度と同様の利用件数であったが、震災の影響により、目標件数には至らなかった。在宅で最期を迎えたいというニーズに対して、即対応しサービスを提供した。継続性は少ないが、必要性や貢献度が高いサービスである。震災後は、断水のお宅にタンクを持参し、訪問入浴を提供し、有事の際にもできる限りのサービスを提供した。

③ 配食事業は、地域での事業者や代替事業が増えてきたことを踏まえて、3月末で終了することとなった。

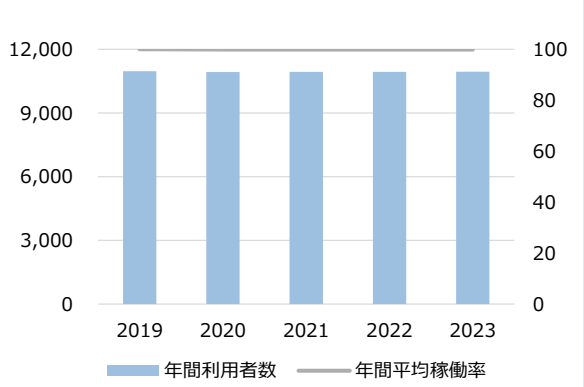
高齢者事業局
ローレルハイツ恵寿

■部門代表者

松井 智子

■2023年度のトピックス

特定ケアハウスおよび一般ケアハウスの稼働率は99.9%とほぼ目標を達成。サ高住は退居者数が25名と半数以上あり、入居確保対策として職員向け紹介キャンペーンを実施。震災後は被災者ですぐに満室となり稼働率は94.4%。訪問介護は6月に訪問看護とともに地域包括ヘルスケアSTを始動。



■事業報告

① 「withコロナをデザインする」をテーマとし、コロナ禍でも安心安全な生活や余暇を楽しめるよう取り組んだ。

② 安心した生活を支えるため、職員間のスピーディな情報発信にICTを活用した。震災後は全体連絡が必要なことが多く有効活用できた。インカムの試行や見守り機器の活用を開始した。勉強会やマニュアル動画視聴に取り組むも課題が残ったため、来年度も取り組む予定。

③ 「居ながらグルメ」では施設内で季節のメニューや海鮮等を堪能していただき、「お出掛けグルメ」では和倉温泉で日常と違った環境でランチを味わっていただき喜んでいただけた。Pepperを活用したレクや余暇では職員の負担軽減。オンラインのミニレクでは施設間交流を実施した。

④ 「ローレルグランプリ」として職員間で良い所を伝え合うことで職員教育とモチベーションアップを図った。「グッドアイディア賞」では業務改善や5S支援のアイディア等を提案したスタッフを表彰した。

⑤ ヘルパーステーションは訪問時間を増やすため、SNSを活用した集客活動等により、新規が増加していたが震災の影響で昨年度よりもやや減少した。地域包括ヘルスケアSTとなり、訪問看護との情報共有や知識を深めることができ、専門性の向上、職員育成になっている。

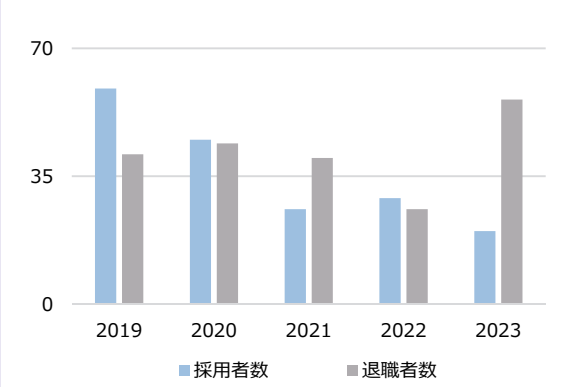
事務局

■部門代表者

山下 賢

■2023年度のトピックス

2023年度における採用者数は20名、また退職者数は56名で差し引き△36名であった。期首の職員総数は453名、期末の職員総数は417名。



■事業報告

① 介護職員処遇改善加算により賃上げの実施、介護職員等特定処遇改善加算による年度末手当の支給、介護職員等ベースアップ等支援加算による月次手当の支給。処遇改善臨時特定交付金の支給。

② けいじゅヘルスケアシステムSDGsに基づく実践として全17の目標に対して11項目の実践を開始した。

③ 電子帳簿保存法改正及びインボイス制度の対応

④ コンプライアンス委員会の設立

⑤ 感染症対策として、情報の共有と法人内職員間の応援体制の拡充を行った。

⑥ 補助金受入れ

物価高騰対策支援金（第1回、第2回、石川県）

七尾市介護保険事業所、障害福祉事業所等応援金（七尾市）

新型コロナウイルス感染症流行下における介護サービス事業所等及び障害福祉サービス事業所等に対するサービス継続支援事業（石川県）

抗原定性検査キットを活用した高齢者施設等従事者の検査事業（石川県）

省エネルギー投資促進支援事業補助金（経済産業省）

省エネ投資緊急支援事業（石川県）

事務局
総務部

■部門代表者

畑中 浩樹

■2023年度のトピックス

内 容
徳充会常任委員会　コンプライアンス委員会を設立
コンプライアンス宣言を策定
施設紹介動画の作成、ホームページへの掲載
既存の決裁書類の決裁ルートの見直し
令和６年度新卒内定者（介護5名、事務1名）

■事業報告

① 徳充会コンプライアンス委員会事務局として、活動フローチャートの作成、外部委員（弁護士および社労士）との調整、コンプライアンス宣言の職員周知。

② 施設紹介動画は６事業所作成。

③ 決済を必要とする書類の決裁ルートの見直しと集約化を実施。起案から実施までの時間短縮化が図れた。

教育研修委員会

■部門代表者

畑中 浩樹

■2023年度のトピックス

日程	内容
4月3、4日	新人職員研修
6月14日	管理監督者研修（課長以上）
7月7日	第1回　新人フォローアップ研修
7月26日	中堅職員研修
11月8日	ストレスマネジメント研修　※オンライン
12月22日	第2回　新人フォローアップ研修
11、12月	介護福祉士受験対策講座　※オンライン

■事業報告

① 新人フォローアップ研修を年1回から2回に変更。新人職員のフォローアップ体制の充実を図った。

② 管理監督者研修の研修プログラムに法令順守を追加。法令遵守研修の講師を三井住友海上経営サポートセンターの古山直子氏に依頼した。

③ 介護福祉士受験対策講座の受講者3名が合格。

事務局
経営企画部

■部門代表者

松下 清寛

■2023年度のトピックス

① 能登半島地震の復旧対応を行った。
・ライフライン確保、物資確保等
・災害復旧補助申請

② 前年度に引き続き新型コロナウィルス感染症への対応を行った。

③ 経営状況の把握・情報共有（資料様式変更ほか）。

■事業報告

① 銀行業務効率化、インボイス制度対応

② コスト増への対応（電気契約、委託料等見直し）

③ スキル向上（オンライン研修活用）

④ 徳充会SDGs活動のHP掲載等

⑤ 理事会（役員改選・理事長選任）

⑥ 法人登記手続き（理事長登記・資産変更登記）

⑦ 監査対応（石川県指導監査、会計監査人監査）

福利厚生委員会

■委員長

山下 靖一郎

■2023年度のトピックス

今年度も引き続き、新型コロナウイルス感染症を警戒。「人が集わない」企画として、業務で使用する「履き物」「着るもの」・「書籍」、熱中症予防の「飲み物」の購入に対し1人1,500円迄のキャッシュバックを行い好評を得た。対象は徳充会職員・出向・派遣・シルバー等業態問わず。

■事業報告

① 感染拡大防止のため、委員会は全てOnlineにて行った。

② 以前より有人イベントは勤務の関係上、全職員参加が難しいと課題となっていたため全職員対象の企画とした。

③ 余裕を持って全員が申込めるよう2ヶ月の期間を設けた。

④ 未申込の者がいると、皆が声を掛け合い、本企画を勧めており、微力ながら職員同士の繋がりや話題も提供できた。

事例研究大会

■委員長

松柳 満城子

■2023年度のトピックス

大会テーマ「渦の中心になれ！」とし、2024年2月9日（金）に開催予定であったが、2024年1月1日に発災した能登半島地震により本大会は中止となる。

■事業報告

① 感染症対策の一環として、Zoomを活用した方法で大会を開催する予定であった。発表場面を撮影し、動画配信をすることで、多くの職員に視聴してもらう方法を検討していた。

② 事例研究大会の開催に向け、以下のスケジュールで会議を開催する。 5/30、7/7、10/6、11/10、12/15

コンプライアンス委員会

■部門代表者

畑中 浩樹

■2023年度のトピックス

日程	内容
5月1日	第1回 委員会 開催
6月14日	法令遵守研修 開催（対象：課長以上）
10月20日	コンプライス宣言 ホームページ掲載
	2023年度 委員会開催数 6回

■事業報告

① 徳充会常務理事を委員長、局長を副委員、全部長を委員、事務局を総務課として設立、委員会活動を開始。

② コンプライアンス委員会の活動フローチャートを作成、各事業局、施設、懲戒審査委員会と連携し、虐待防止および再発防止、法令遵守にむけて活動実施。